

「個を輝かせ、他と協働し、新たな価値を創出するグローバルイノベーター」を育成するために！

平成30年度

在学生・教職員

ICT総合アンケート調査結果

[報告書 抜粋]

国際高等専門学校

平成30年度 ICT総合アンケート調査結果について

学校のプログラムの成果と効果を継続的に観察し、その機能している強い部分を把握した上でそれらを強化し、同時にあまり機能していない弱い箇所も認識し改善していくことは重要です。学校はその出資者である学生と保護者、そして二次的な出資者ともいうべき卒業生の雇用者、教職員、そして社会全般に対しても一連のサービスを提供していると言えます。学校が用意する教育サービスの本質とクオリティーを評価するために、様々な種類のデータを収集し比較することが必要となってきます。よって国際高専にとって、毎年実施されているICT総合アンケートはひとつの鍵となる資料になります。

このアンケートは学生と教員における様々な受け止め方や、彼らが抱いている印象を示してくれる重要な指標となります。満足感や達成感は重要な目標であり、またプログラムそして職場としての学校のクオリティーを指し示すものであります。

したがって、私たちは一般的な満足度を評価しようと試みており、またその満足度をより上げている要因、あるいは下げている要因となっているプログラムや施設の側面を把握することにも取り組んでいます。私たちの目標は、満足だけには留まらずさらに先を目指しています。4つの主な目標としては、1)学生と教員を含めた学習者のための協働コミュニティを育てる、2)学校生活を彩りあるものにする、つまり私たちが提供する教育体験をできるだけ魅力的にそして刺激的なものにするよう努める、3)個々の学生の唯一の個性やオリジナリティーを評価し育てていく、そして4)グローバルイノベーションのリーダーを教育していく。これらの目標に向かって進歩しているかを見極めるために、そしてその目標により近づいていく方法を探るために、私たちはここにいただいたデータを注意深く分析していかなければいけません。

ご協力下さいました関係者の皆様に感謝の意を表したいと思えます。

令和元年6月

国際高等専門学校
校長 ルイス・バークスデール

It is important to continuously monitor the outcomes and effects of school programs, both to identify and build on strengths, and to identify and improve weaknesses. A school offers a series of services to its principal stakeholders—students and guardians, as well as to secondary stakeholders, which include employers, the school staff, and society at large. In order to assess the nature and quality of the educational services that the school provides, it is necessary to gather and compare data from a variety of sources. For ICT, one of the key sources is the annual ICT General Survey of students and faculty.

The results of this survey provide an important indication of the range of attitudes the students and faculty hold, and impressions that they receive. A sense of satisfaction and fulfillment is both an important goal and an indicator of the quality of programs and of the school as a workplace.

So we try to measure general satisfaction and identify aspects of our programs and facilities that promote or detract from it. Our goals go beyond satisfaction. Four main goals are: 1) to foster a cooperating community of learners (including both students and teachers); 2) to ensure that the educational experiences we provide are as engaging and stimulating as possible; 3) to value and foster each student's unique personal individuality and originality, in order to; 4) educate future leaders of global innovation. We must carefully analyze the data we have here in order to assess our progress towards these goals and to find ways to move closer to them.

I would like to thank the staff members who helped carry out this survey, as well as the many people who participated in it.

June, 2019

International College of Technology
Lewis Barksdale, President

【 I 】 1年次 ICT総合アンケート 報告書

全体概略

1) 調査の目的

本調査は下記の目的に従って実施した。

- 本調査は国際高専の現在の状況を把握し、今後の教育改善を考えるための情報を収集することを主目的とする。
- この調査企画では、在学生と教職員に国際高専の評価を聞き、各々の意識の違いを見いだすことで、今後の学校づくりを考えるためのヒントを得ることも目的とする。ただし、今回は教職員との比較は行っていない。
- 本調査は平成15年度から続いているが、平成30年度から、1年次と2～5年次の調査項目が同一ではなくなったため、分析報告書も別立てとなっており、この報告書では1年次の分析を行っている。

2) 調査の概略

項目	内容	
調査概略	調査票による自記入式調査とし、すべて無記名式とした。	
総回答数	10サンプル	
調査方法と回収数	1年次	・有効回答数 1年次:10サンプル ・各クラスで配布し、回収した。(配布&回収:平成31年3月1日)
	卒業生	・今回は実施せず。
	教職員	・今回は扇が丘キャンパス向けの内容としたため、2～5年次との比較のみとし、1年次との比較は行っていない。
	企業担当者	・今回は実施せず。
調査主体	学校法人 金沢工業大学	
集計	有限会社 アイ・ポイント	

3)集計に関して

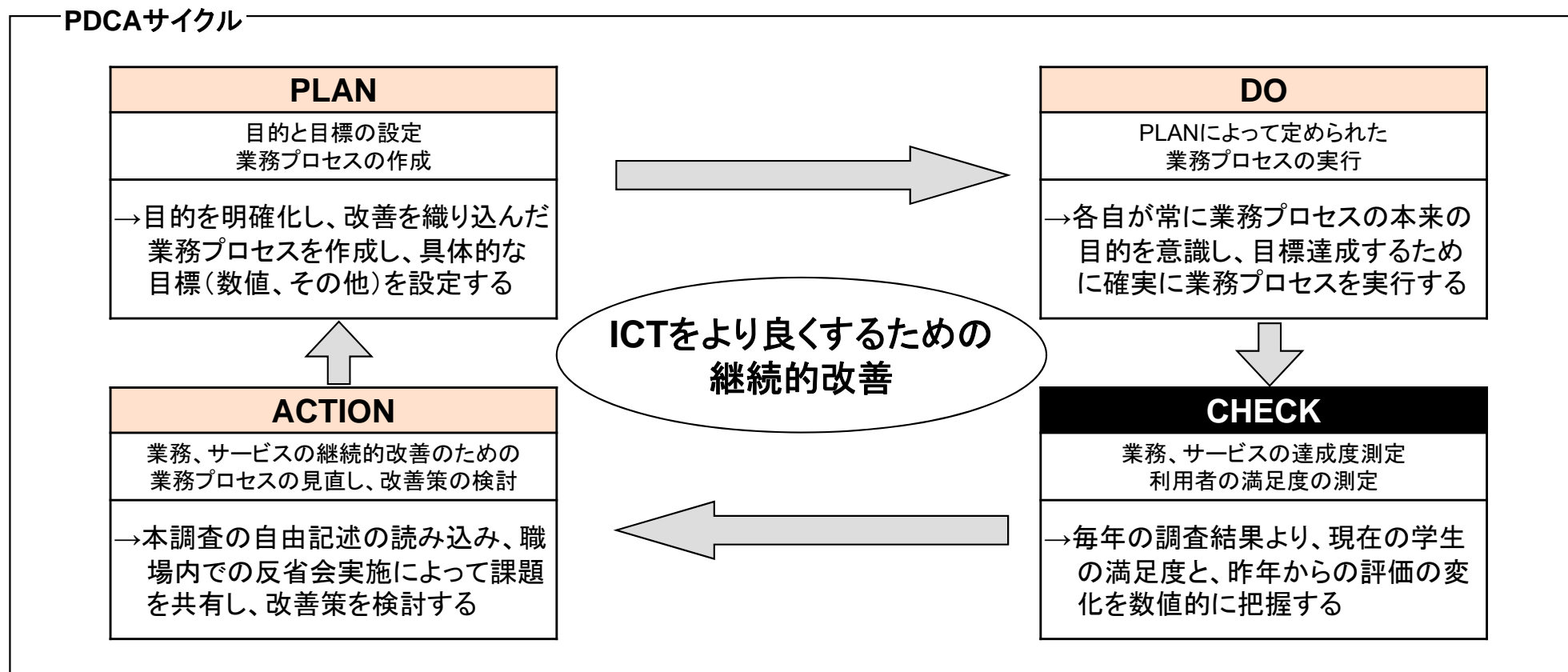
分野	注意点
加重平均に関して	<ul style="list-style-type: none"> ・各調査項目を属性毎に比較するため、加重平均値を多く活用している。 ・今回の調査では、選択肢を「そう思う～どちらかといえばそう思う～どちらかといえばそう思わない～そう思わない」などのように4択式で構成した。なお、「あてはまらない、分からない」は無回答として処理した。 ・加重平均は上記の選択肢に、+10点、+5点、-5点、-10点を掛けて回答者数で除して算出した。従って、最高点が10点で最低点がマイナス10点となる。 ・「あてはまらない、分からない」「無回答」は回答者数に含めていない。
グラフに関して	<ul style="list-style-type: none"> ・折れ線グラフは主に時系列変化を見る際に利用されるが、この報告書では加重平均を属性毎に比較する際に本来の棒グラフでは見にくくなるため、折れ線グラフで表現しているものもある。

4)回答者数に関して

学年	H30年度
1年次	10人
2年次	別集計
3年次	別集計
4年次	別集計
5年次	別集計
卒業生	0人 (実施せず)
教職員	別集計
企業担当者	0人 (実施せず)
合計	10人

5) PDCAサイクルの中での本報告書の位置づけ

本報告書は下記のような業務改善の流れの中で、CHECKステップに位置づけられる。

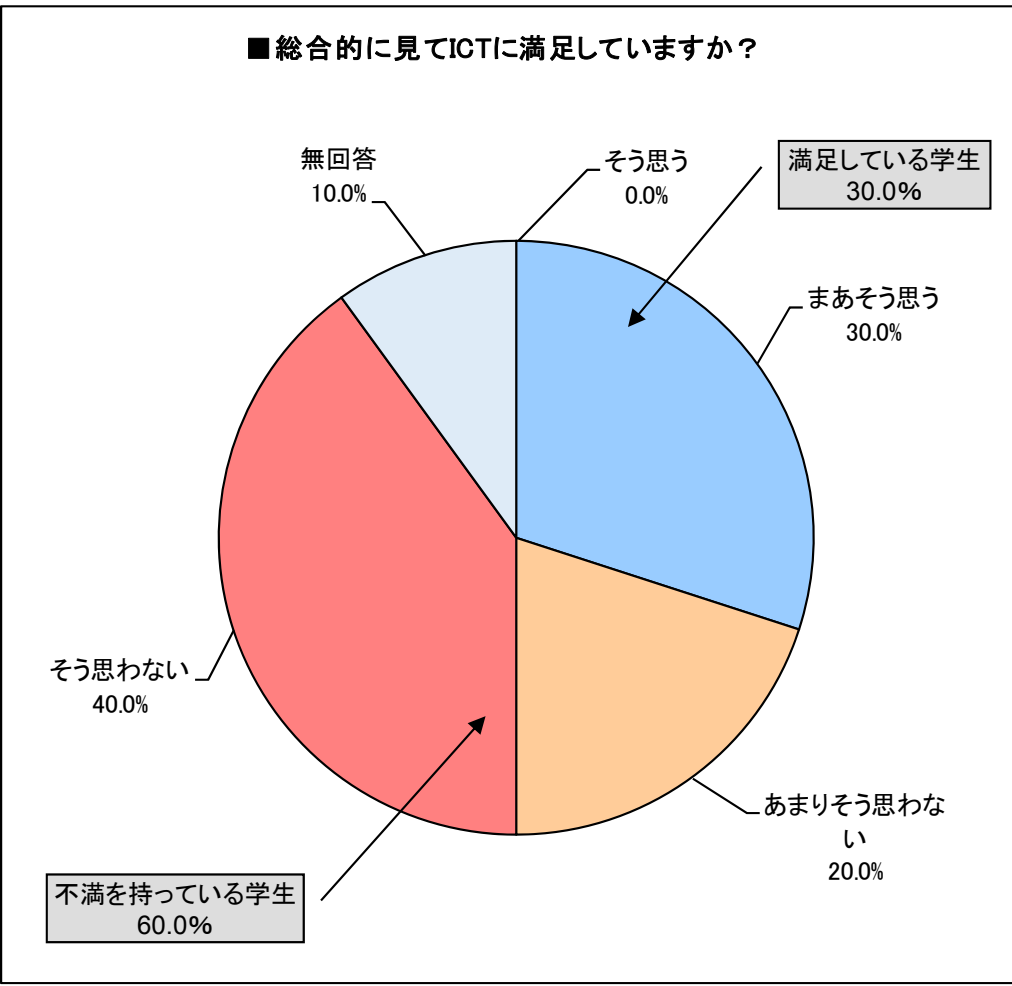


- 今回の調査によって得られた「学生の満足度」は、上記「PDCAサイクル」の中の「CHECKステップ」に相当する。
- この報告書で得られた結果はあくまでもアンケート結果を統計的に分析し、その結果に妥当と思われる理由をつけ加えた「仮説」であり、その検証と活用は今後の「ACTIONステップ」で行うことになる。
- また、ここで得られた数値的な結果を解釈し、国際高専の改善に役立てるのは、実際に現場で教育や学校運営に携わっているメンバーが行うことであり、この報告書はその参考として位置づけられるものである。
- 「PDCAサイクル」は一時的なものではなく、継続的な改善を目指すものである。従って「昨年と比較して評価がどう変化したのか?」「自らが設定した目標は達成したのか?」といった変化を見ることが主眼となる。
- 本報告書は、上記のような位置づけを継続していくことで、国際高専の改善に資することを目的としている。

国際高専の総合的な満足度と主要な指標に関して

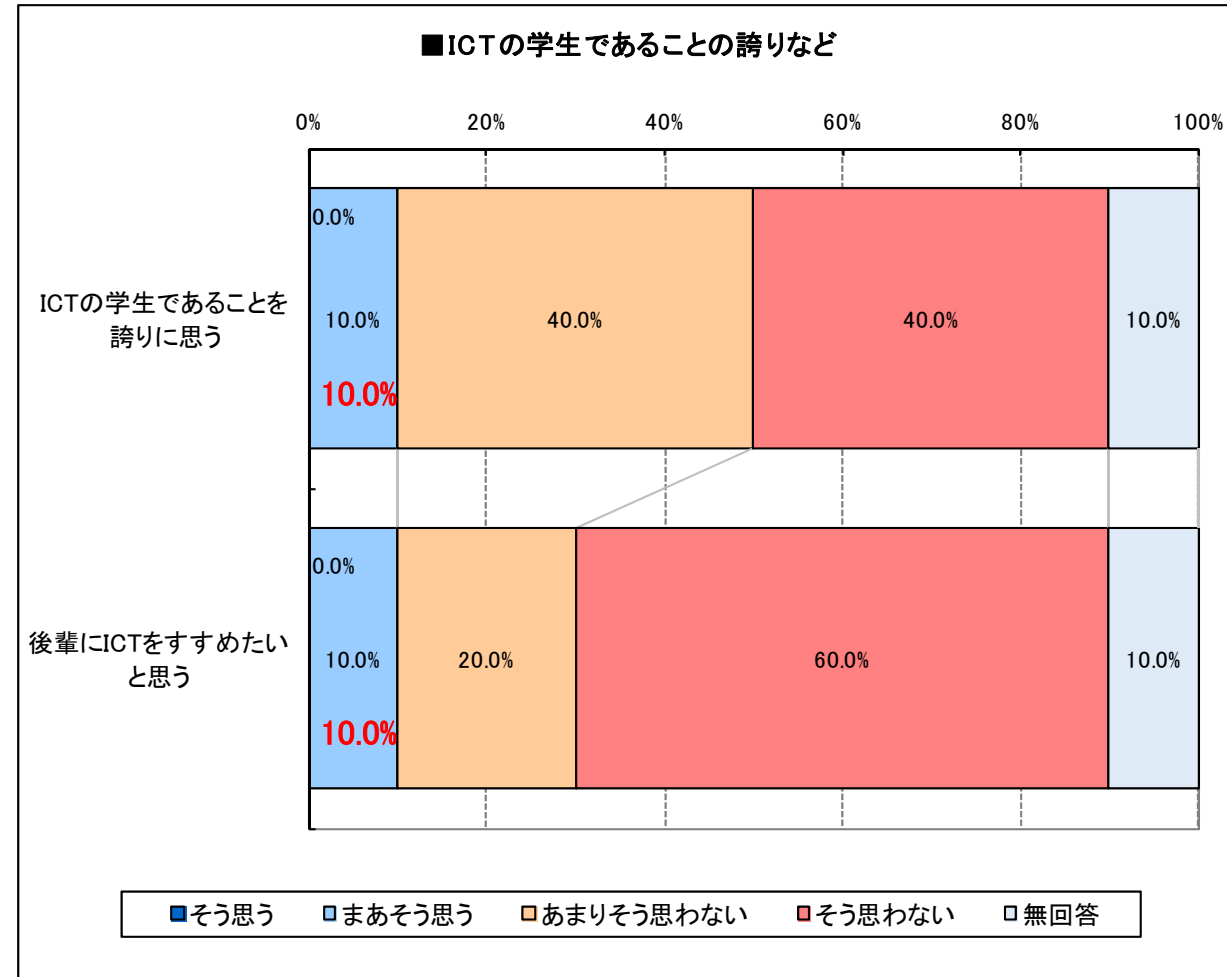
1)ICTの総合的な満足度

- ICTの総合的な満足度は、「総合的に見てICTに満足していますか?」という質問であるが、「そう思う」という回答はゼロ、「まあそう思う」が30.0%であり、合わせると満足しているという回答は30.0%となった。
- 一方、「あまりそう思わない」が20.0%、「そう思わない」が40.0%であり、不満という回答は60.0%となり、満足しているという回答の倍であった。



2) ICTの学生であることの誇りなど

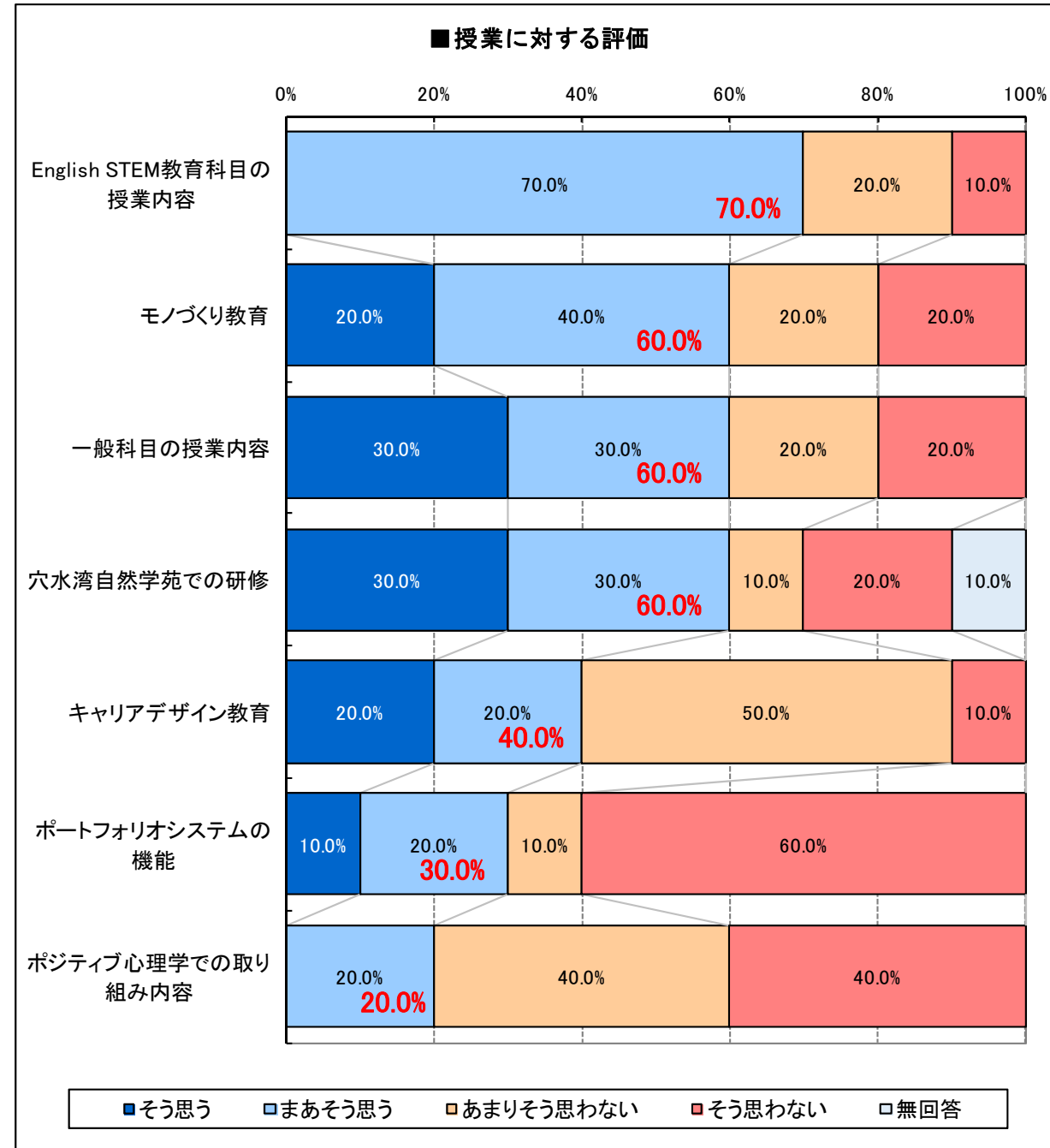
- ICTに対する気持ちとして主要な2つの指標を見たところ、右のグラフのようになった。
- まず、「ICTの学生であることを誇りに思う」に対しては、「そう思う」という回答はゼロ、「まあそう思う」が10.0%であり、合わせると肯定的な意見は10.0%となった。そして、「あまりそう思わない」と「そう思わない」は共に40.0%で、合わせると80.0%となった。
- 「後輩にICTをすすめたいと思う」に対しても、「そう思う」がゼロ、「まあそう思う」が10.0%であり、肯定的な意見は10.0%となった。そして、「あまりそう思わない」が20.0%、「そう思わない」が60.0%であり、残念ながら「そう思わない」の多さが目立っていた。



授業・教員および学習支援に関して

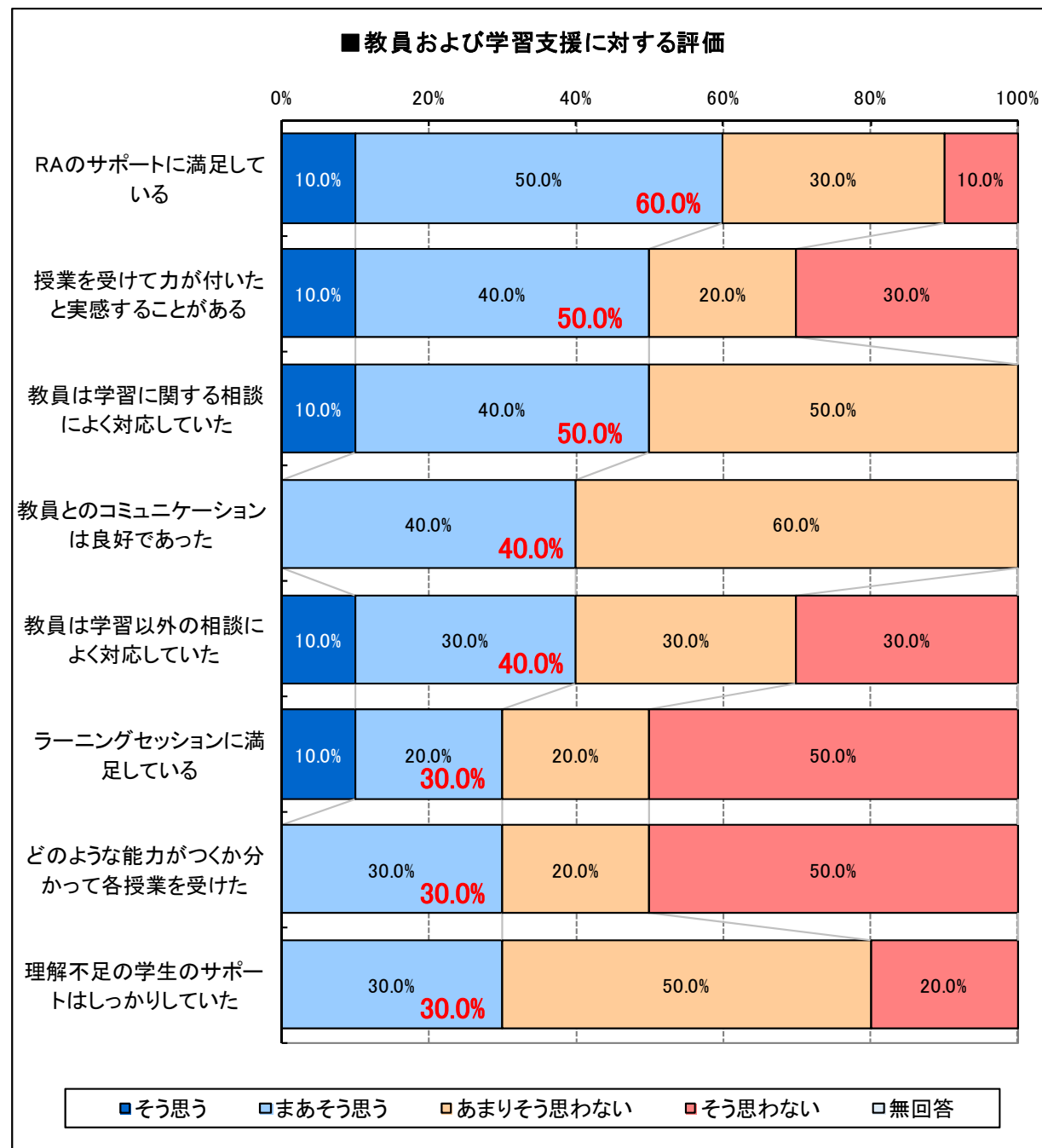
1) 授業に対する評価

- 授業に関しては、7つの科目の満足度を聞いていますが、満足度が最も高かったのは「English STEM教育科目の授業内容」の70.0%であった。ただし、「そう思う」はゼロであった。
- 上記に次いで、「モノづくり教育」「一般科目の授業内容」「穴水湾自然学苑での研修」の3科目で、満足しているという肯定的な意見は60.0%であった。
- 一方、満足という意見が最も少なかったのは「ポジティブ心理学での取り組み内容」の20.0%であった。次に「ポートフォリオシステムの機能」の30.0%が続いていたが、こちらは「そう思わない」が60.0%と非常に多い点特徴的であった。



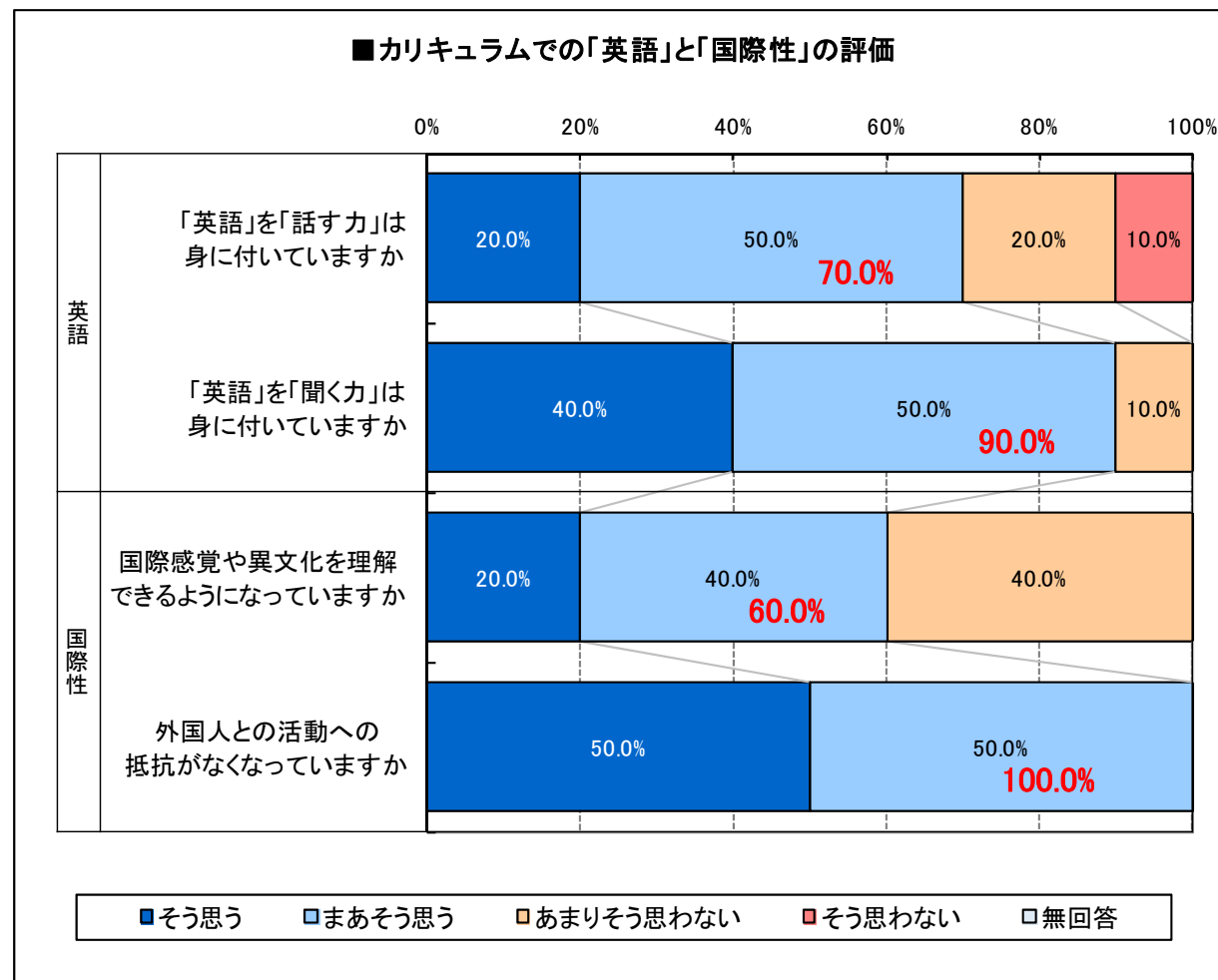
2) 教員および学習支援に対する評価

- 教員および学習支援で満足という意見の合計が最も多かったのは「RAのサポートに満足している」の60.0%であった。
- 上記に次いで、「授業を受けて力が付いたと実感することがある」と「教員は学習に関する相談によく対応していた」では満足という回答が50.0%で、続いて「教員とのコミュニケーションは良好であった」と「教員は学習以外の相談によく対応していた」が40.0%となっていた。
- 一方、満足度が30.0%とやや低かったのは「ラーニングセッションに満足している」「どのような能力がつか分かって各授業を受けた」「理解不足の学生のサポートはしっかりしていた」の3項目であった。



3)カリキュラムでの「英語」と「国際性」の評価

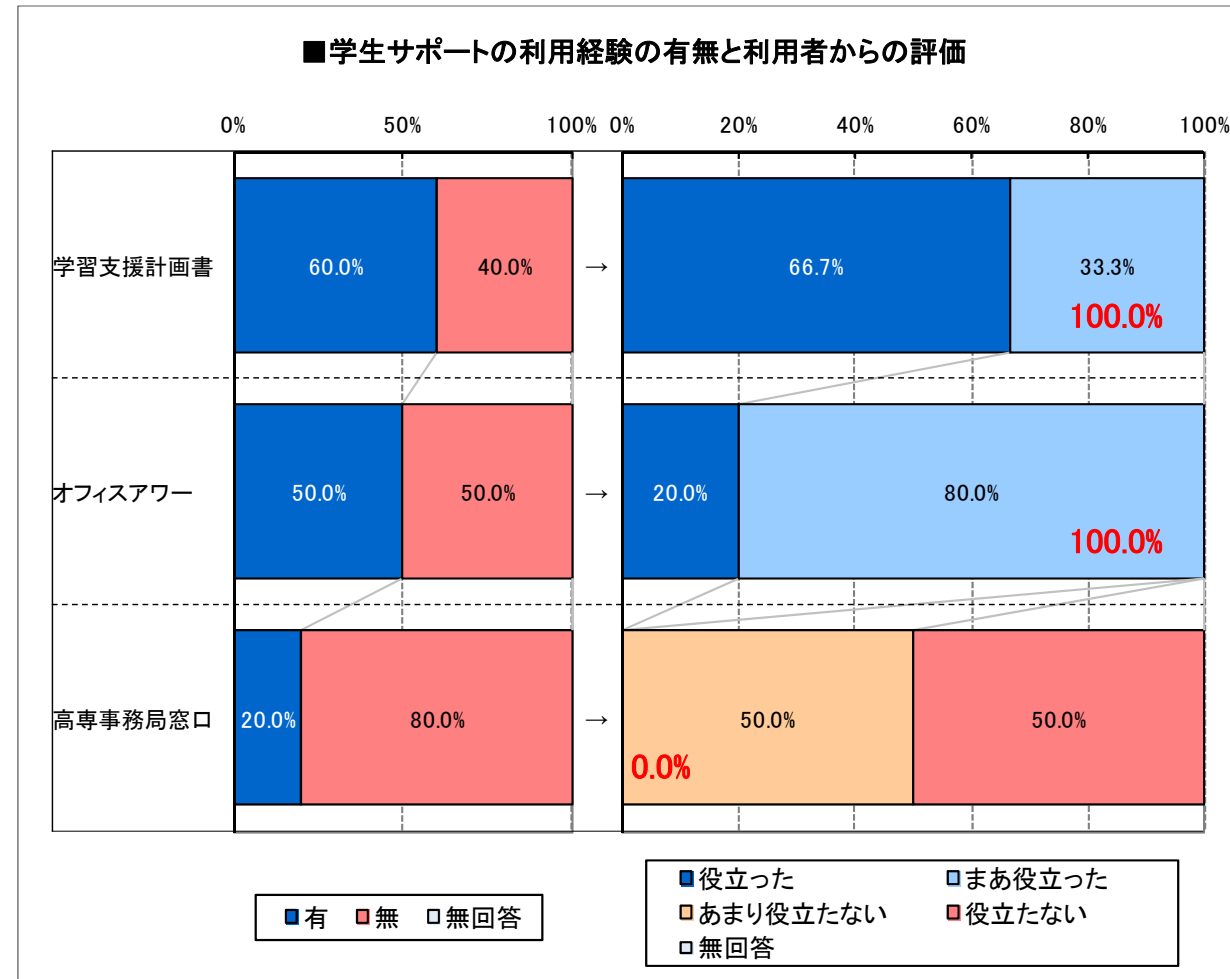
- ICTの特徴である「英語」と「国際性」に関して4つの質問をしたところ、右のグラフのようになった。
- 「英語」に関して、「話す力が身に付いた」では70.0%が、「聞く力が身に付いた」では90.0%が肯定的な意見であり、「聞く力」の方が得意な様子が見えられた。
- 「国際性」では、「外国人との活動への抵抗がなくなっていますか」に対しては、すべてが肯定的な意見であり、「そう思う」が50.0%を占めていた。そして、「国際感覚や異文化を理解できるようになっていますか」に対しては60.0%が肯定的な意見であった。



学生サポート、改善への取り組みに関して

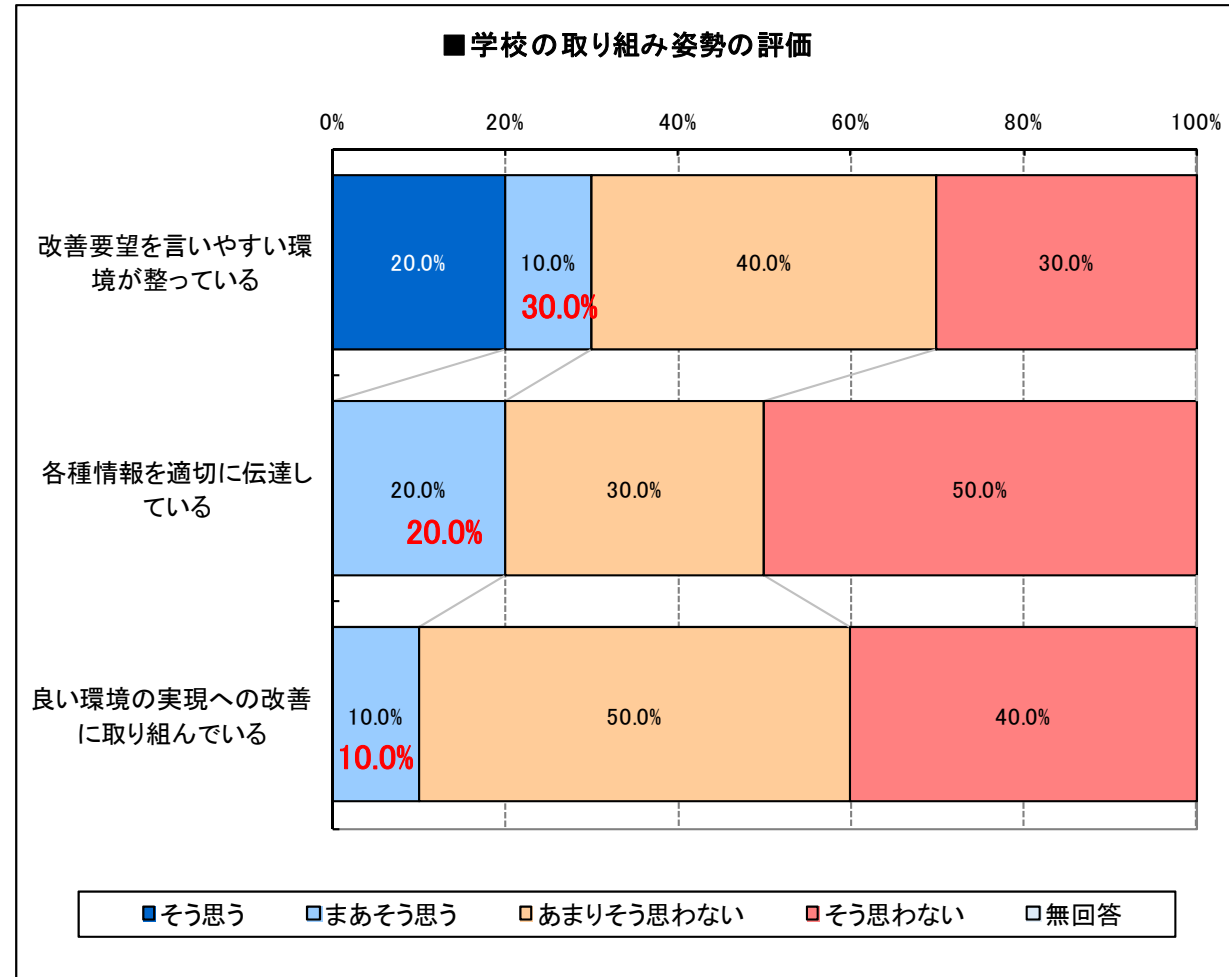
1) 学生サポートの利用経験の有無と利用者からの評価

- 学生サポートの機能に関しては、利用の有無と、各サポートの利用者に満足度を聞いており、全体を利用率によってソートしている。
- 利用率が最も高かったのは「学習支援計画書」の60.0%であり、次いで「オフィスアワー」が50.0%、「高専事務局窓口」が20.0%と続いていた。
- 利用者の満足度を見ると、「学習支援計画書」と「オフィスアワー」で役に立ったという意見の合計が100.0%となっていた。特に「学習支援計画書」では「役に立った」という回答が66.7%を占めていた。そして、「高専事務局窓口」では役に立ったという意見はゼロであり、「役に立たない」が50.0%となっていた。



2) 学校の取り組み姿勢の評価

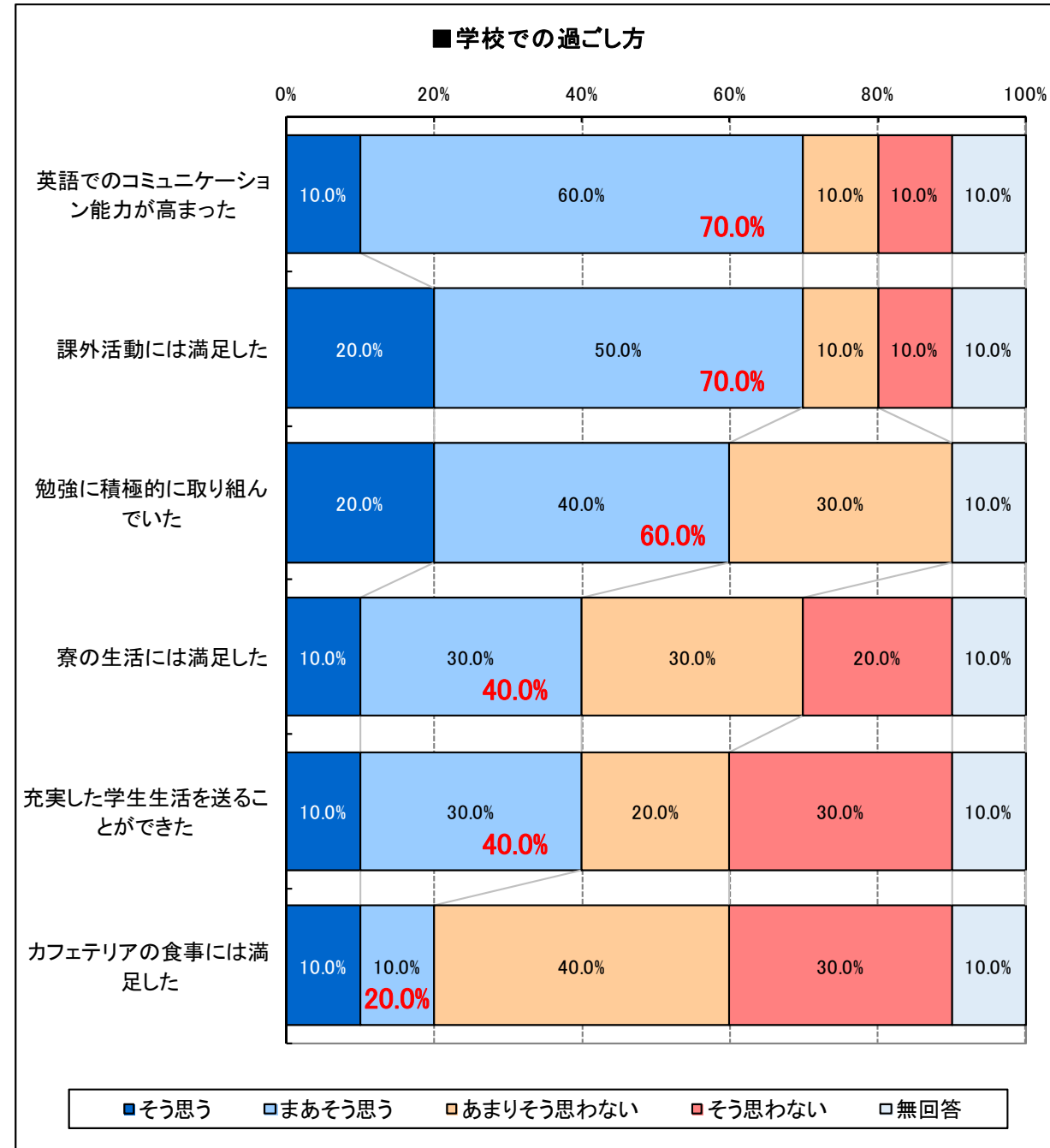
- 改善などに対する学校の取り組み姿勢に関して、肯定的な意見が最も多かったのは「改善要望を言いやすい環境が整っている」の30.0%であった。
- 上記に次いで、「各種情報を適切に伝達している」が20.0%、「良い環境の実現への改善に取り組んでいる」が10.0%であり、いずれも「そう思う」という回答はゼロで、評価は非常に低かった。



学生生活に関して

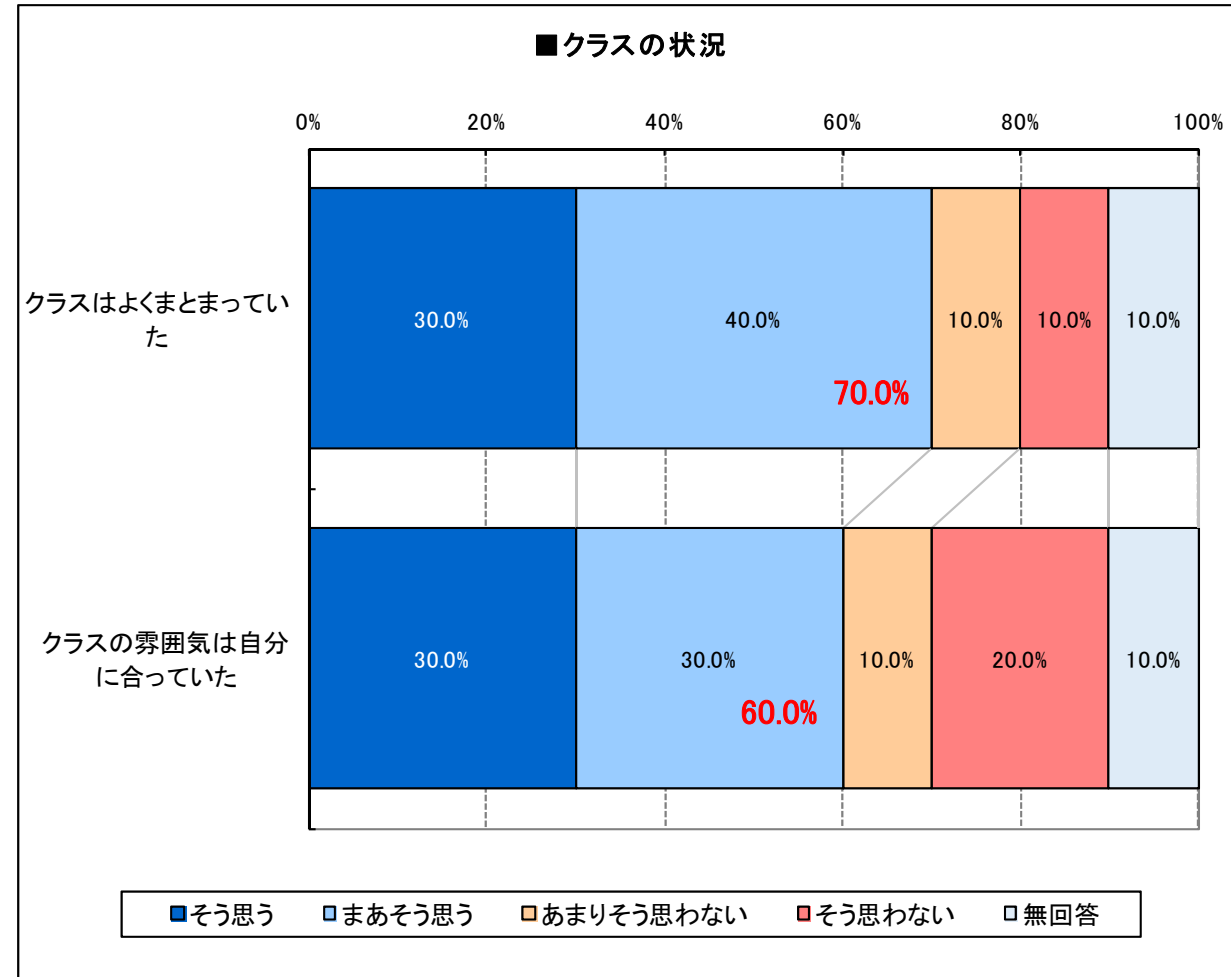
1) 学校での過ごし方

- 学校での過ごし方で肯定的な意見が最も多かったのは「英語でのコミュニケーション能力が高まった」と「課外活動には満足した」の70.0%であった。「課外活動」では「そう思う」の割合が20.0%で、「英語でのコミュニケーション」より多かった。
- 上記に次いで、「勉強に積極的に取り組んでいた」が60.0%、「寮の生活には満足した」と「充実した学生生活を送ることができた」が40.0%で続いていた。
- 一方、最も評価が低かったのは「カフェテリアの食事には満足した」であり、肯定的な意見は20.0%で、否定的な意見が70.0%となっていた。



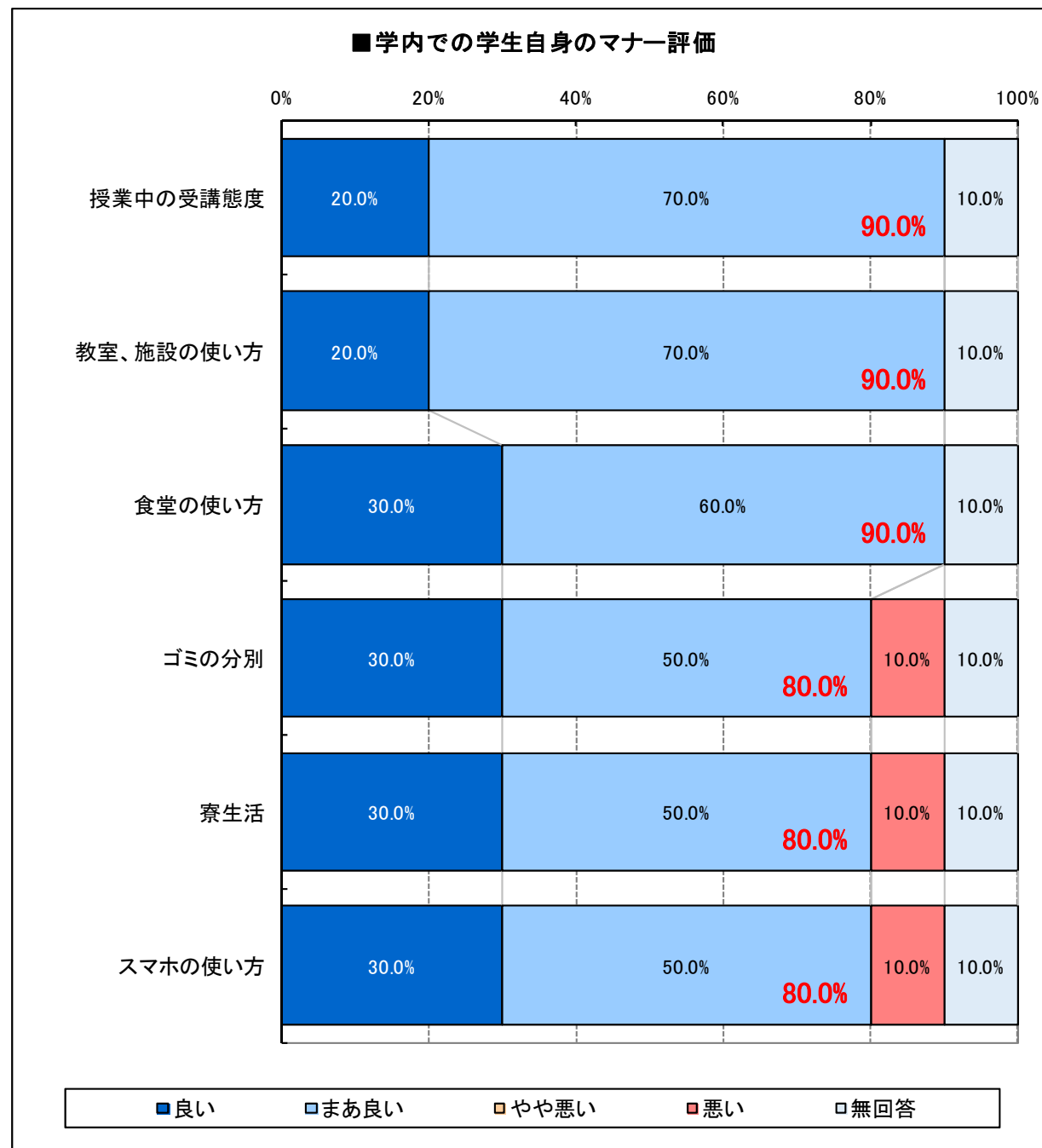
2) クラスの状況

- 学校での過ごし方からクラスに関する2項目を抜き出して別集計してみたところ、「クラスはよくまとまっていた」では「そう思う」が30.0%、「まあそう思う」が40.0%であり、高い評価となっていた。
- 「クラスの雰囲気は自分に合っていた」でも、「そう思う」が30.0%であり、「まあそう思う」の30.0%を加えると、60.0%が肯定的な意見となっていた。



3) 学内での学生自身のマナー評価

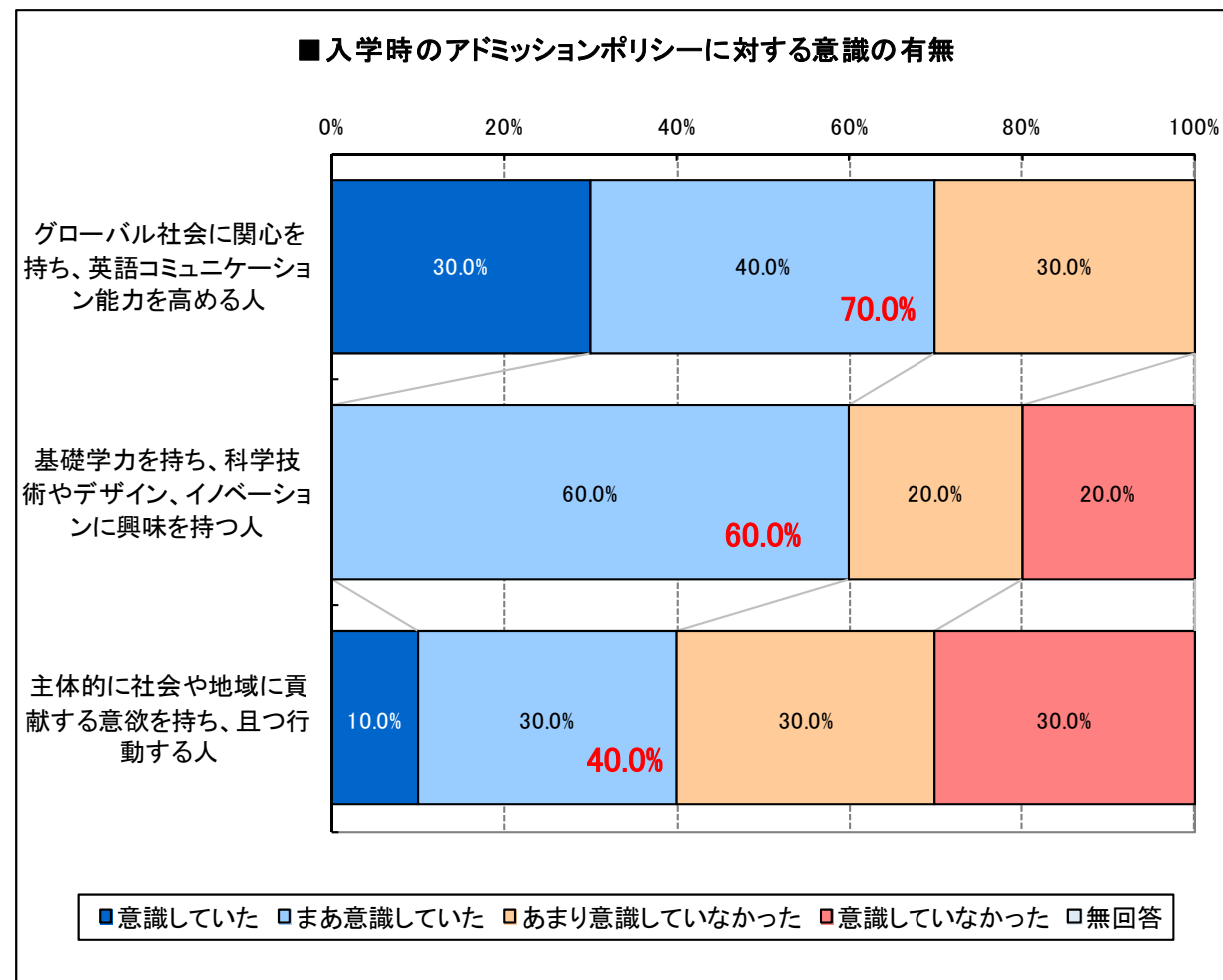
- 学内での学生自身のマナー評価は、「学生自身が自分自身のマナーをどう思うか？」という自己評価を聞く質問になっている。
- すべての項目で肯定的な意見が8割以上であり、自己評価は非常に高く、「授業中の受講態度」「教室、施設の使い方」「食堂の使い方」では90.0%がマナー的に問題がないという意見であり、「ゴミの分別」「寮生活」「スマホの使い方」では80.0%が問題ないという意見であった。



高専の方針に関して

1) 入学時のアドミッションポリシーに対する意識の有無

- 入学時のアドミッションポリシーには3つの項目があるが、各々に対して「意識していたか否か」を聞いている。
- 肯定的な意見が最も多かったのは「グローバル社会に関心を持ち、英語コミュニケーション能力を高める人」の70.0%であり、「意識していた」が30.0%と多く、「まあ意識していた」が40.0%であった。
- 上記に次いで、「基礎学力を持ち、科学技術やデザイン、イノベーションに興味を持つ人」は肯定的な意見が60.0%であった。ただし、「意識していた」はゼロであり、すべて「まあ意識していた」であった。
- 肯定的な意見が最も少なかったのは「主体的に社会や地域に貢献する意欲を持ち、且つ行動する人」であり、「意識していた」が10.0%で、「まあ意識していた」の30.0%を合わせると肯定的な意見は40.0%であった。対する否定的な意見は60.0%であり、中でも「意識していなかった」が30.0%と多くを占めていた。

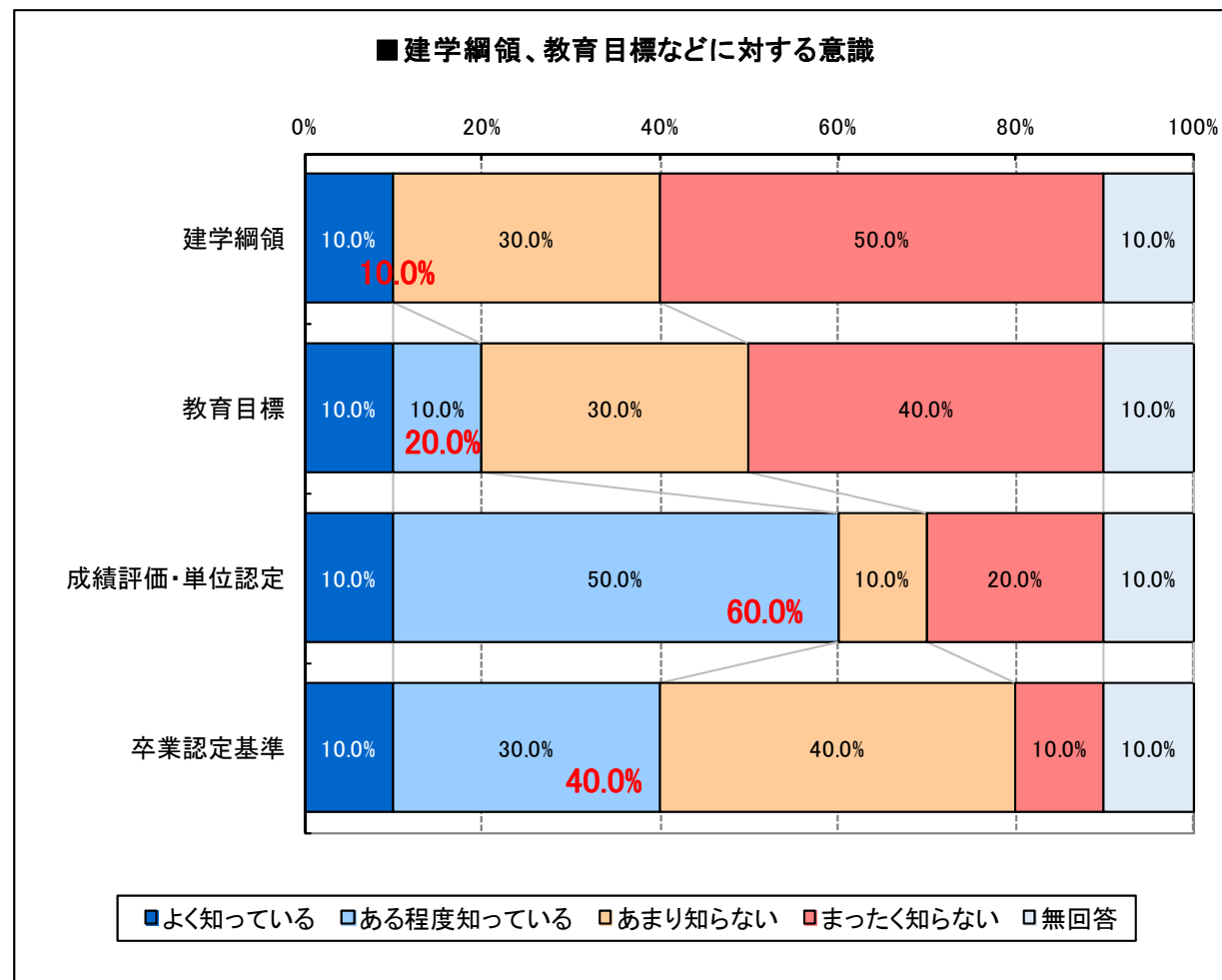


※本来のアドミッションポリシーの文章

- グローバル社会に関心を持ち、英語コミュニケーション能力を高める人
→グローバル社会での活躍に強い関心と探求心を持ち、英語でのコミュニケーション能力を高めようとする人
- 基礎学力を持ち、科学技術やデザイン、イノベーションに興味を持つ人
→しっかりとした基礎学力を持ち、科学技術やデザイン(課題の発見・解決)、イノベーション(新しい価値の創造)に興味を持つ人
- 主体的に社会や地域に貢献する意欲を持ち、且つ行動する人
→そのままの文章

2) 建学綱領、教育目標などに対する意識

- 建学綱領、教育目標などに対する認知度を聞いたところ、最も認知度が高かったのは「成績評価・単位認定」の60.0%であり、唯一、認知度が5割を超えていた。続いて「卒業認定基準」の認知度は40.0%であった。
- 一方、最も認知度が低かったのは「建学綱領」の10.0%であり、「まったく知らない」という回答が50.0%となっていた。そして、「教育目標」の認知度は20.0%で、「まったく知らない」という回答は40.0%であった。

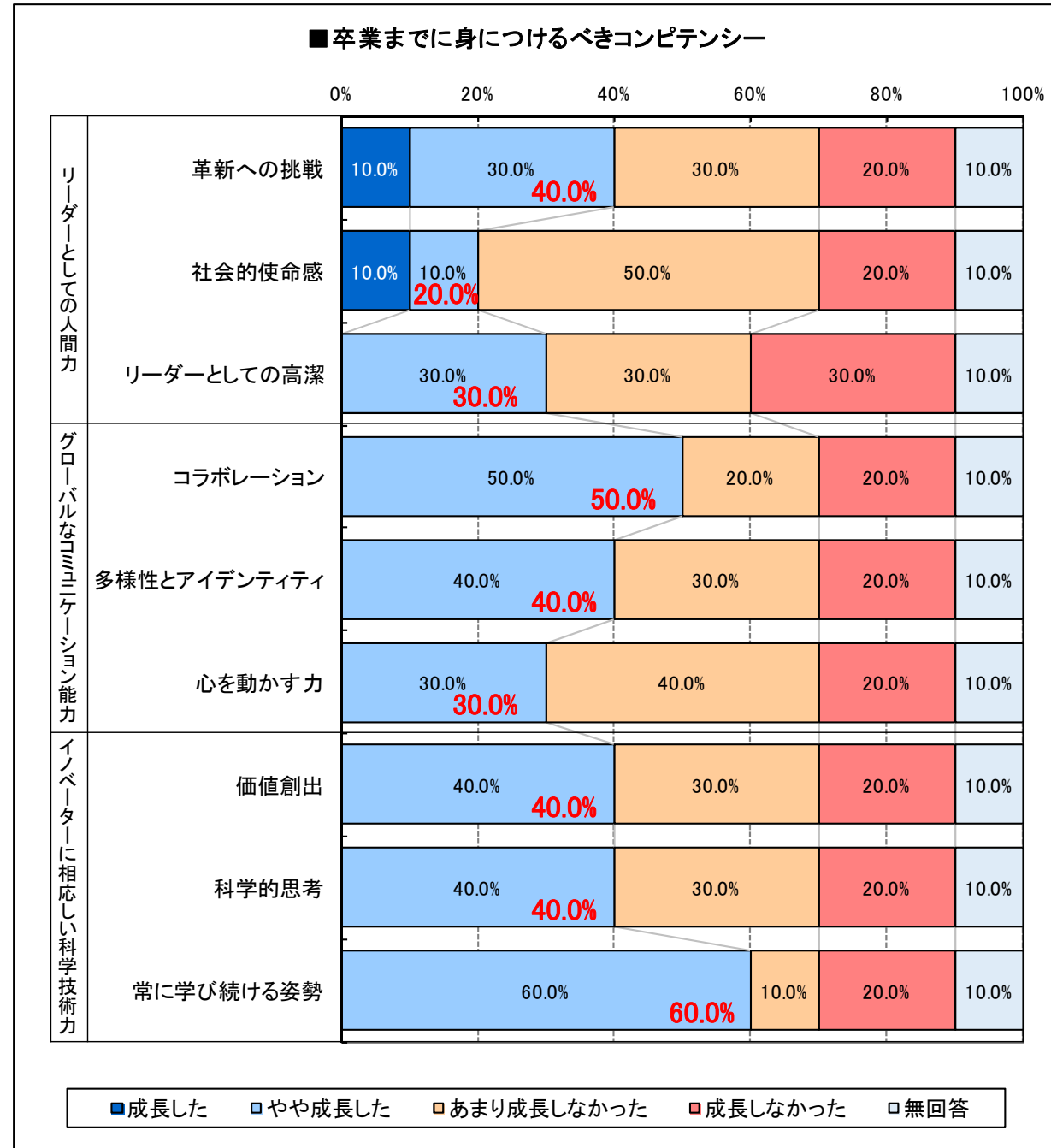


3) 卒業までに身につけるコンピテンシー

- 卒業までに身につけるコンピテンシーは3分野の9項目を聞いているが、「イノベーターに相応しい科学技術力」の分野は肯定的な意見が多めで、「常に学び続ける姿勢」では60.0%が「やや成長した」と回答しており、「価値創出」と「科学的思考」では「やや成長した」が40.0%であった。
- 上記に次いで「グローバルなコミュニケーション能力」分野で肯定的な意見がやや多く、「コラボレーション」が50.0%、「多様性とアイデンティティ」が40.0%、「心を動かす力」が30.0%で、いずれも「やや成長した」という回答であり、「成長した」はゼロであった。
- 「リーダーとしての人間力」の分野はやや低めであったが、肯定的な意見は「革新への挑戦」で40.0%、「社会的使命感」で20.0%であり、この2項目の肯定的意見の中にはいずれも、「成長した」が10.0%入っていた。そして、「リーダーとしての高潔」では「やや成長した」が30.0%であり、「成長しなかった」という回答が唯一30.0%となっていた。

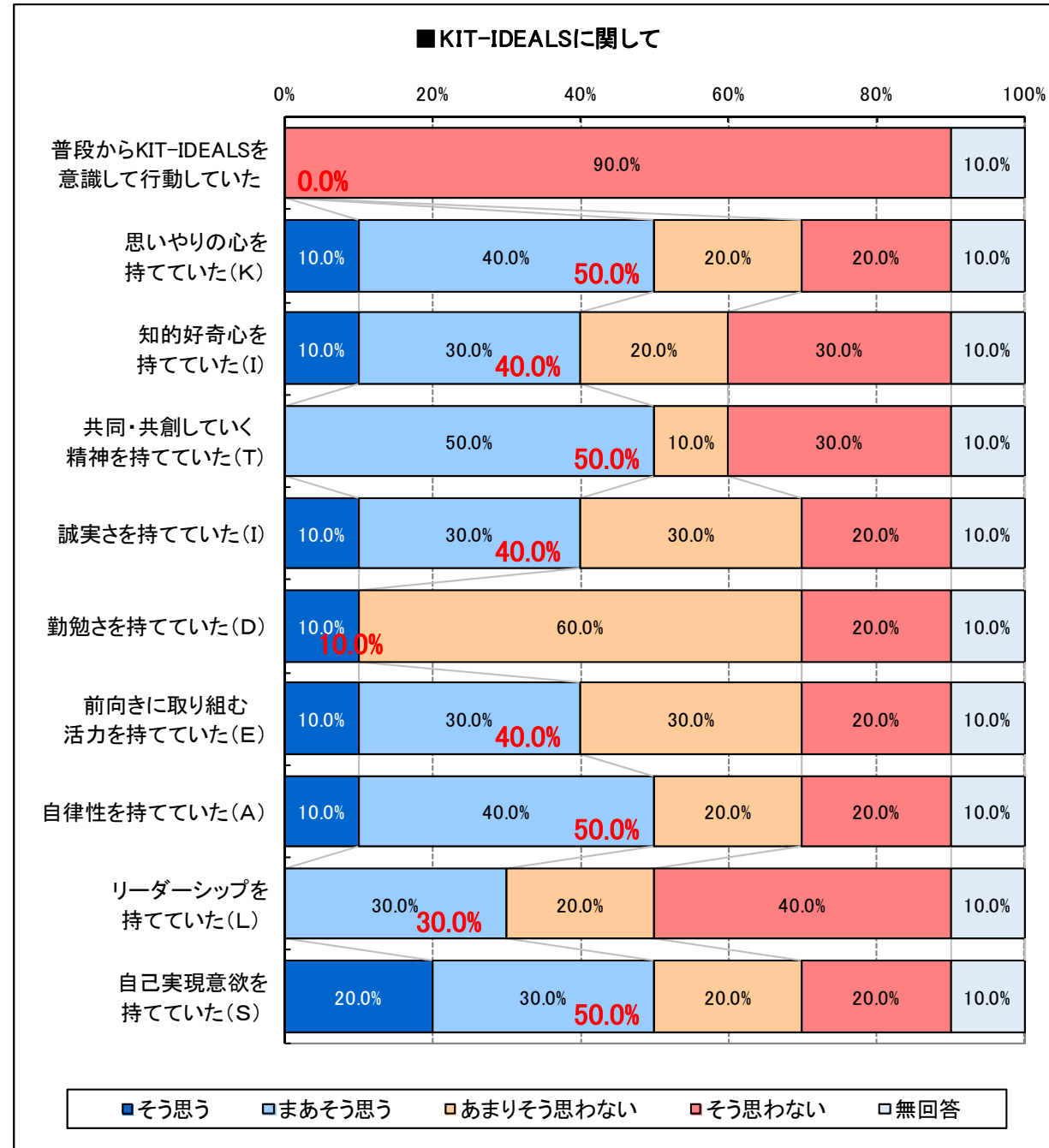
■ 卒業までに身につけるコンピテンシーの一覧

- I 社会に貢献するリーダーとしての人間力
 - ・革新への挑戦
 - ・社会的使命感
 - ・リーダーとしての高潔
- II グローバルに活躍できるコミュニケーション能力
 - ・コラボレーション
 - ・多様性とアイデンティティ
 - ・心を動かす力
- III イノベーターに相応しい卓越した科学技術力
 - ・価値創出
 - ・科学的思考
 - ・常に学び続ける姿勢



4)KIT-IDEALSに関して

- 「普段からKIT-IDEALSを意識して行動していた」では90.0%が「そう思わない」であり、意識が非常に低いことが分かった。
- KIT-IDEALSの9項目の中では「思いやりの心を持っていた(K)」「共同・共創していく精神を持っていた(T)」「自律性を持っていた(A)」「自己実現意欲を持っていた(S)」の4項目で肯定的な意見が50.0%を占めており、「自己実現意欲を持っていた(S)」では「そう思う」が20.0%と多かった。
- 上記に次いで、「知的好奇心を持っていた(I)」「誠実さを持っていた(I)」「前向きに取り組む活力を持っていた(E)」では肯定的な意見が40.0%であり、「リーダーシップを持っていた(L)」では30.0%、「勤勉さを持っていた(D)」では10.0%となっていた。一方、「そう思わない」が最も多かったのは「リーダーシップを持っていた(L)」の40.0%であった。



【Ⅱ】2～5年次 ICT総合アンケート 報告書

全体概略

■調査の目的

本調査は下記の目的に従って実施した。

- 本調査は国際高専の現在の状況を把握し、今後の教育改善を考えるための情報を収集することを主目的とする。
- この調査企画では、在学生と教職員に国際高専の評価を聞き、各々の意識の違いを見いだすことで、今後の学校づくりを考えるためのヒントを得ることも目的とする。
- 本調査は平成15年度から続いており、今回で16回目となる。
- 平成17年度の調査までは年度末(2月初旬)に実施しており、平成18年度と平成19年度は9月中旬の実施に変更したが、平成20年度からは年度末の実施に戻している。
- 平成30年度から、1年次と2～5年次の調査項目が同一ではなくなったため、分析報告書も別立てとなっており、この報告書では2～5年次の分析を行っている。

■調査の概略

項目	内容	
調査概略	調査票による自記入式調査とし、すべて無記名式とした。	
総回答数	387サンプル	
調査方法と回収数	2年次～5年次	・有効回答数 2年次:77サンプル、3年次:69サンプル、4年次:98サンプル、5年次:79サンプル ・今回から1年次は別集計となるため、この報告書からは除外している。 ・各クラスで配布し、回収した。(配布&回収:平成31年2月13日～14日)
	卒業生	・今回は実施せず。
	教職員	・有効回答数 64サンプル ・各教職員に配布し、回収した。(配布:平成31年2月24日、回収締切:平成31年3月1日)
	企業担当者	・今回は実施せず。
調査主体	学校法人 金沢工業大学	
集計	有限会社 アイ・ポイント	

■集計に関して

分野	注意点
加重平均に関して	<ul style="list-style-type: none"> ・各調査項目を属性毎に比較するため、加重平均値を多く活用している。 ・今回の調査では、選択肢を「そう思う～どちらかといえばそう思う～どちらかといえばそう思わない～そう思わない」などのように4択式で構成した。なお、「あてはまらない、分からない」は無回答として処理した。 ・加重平均は上記の選択肢に、+10点、+5点、-5点、-10点を掛けて回答者数で除して算出した。従って、最高点が10点で最低点がマイナス10点となる。 ・「あてはまらない、分からない」「無回答」は回答者数に含めていない。
グラフに関して	<ul style="list-style-type: none"> ・折れ線グラフは主に時系列変化を見る際に利用されるが、この報告書では加重平均を属性毎に比較する際に本来の棒グラフでは見にくくなるため、折れ線グラフで表現しているものもある。
学科別集計、呼称に関して	<ul style="list-style-type: none"> ・学科別の集計は「電気電子工学科」「機械工学科」「グローバル情報学科」の3つの学科で比較を行った。「グローバル情報学科」はH27年度からの新しい呼称であり、5年次のみ「グローバル情報工学科」の所属であるが、新しい呼称に統一している。 ・各学科の略称は「電気電子工学科」を「電気電子」もしくは「T」、「機械工学科」を「機械」もしくは「M」、「グローバル情報学科」を「グローバル」もしくは「G・J」としている。

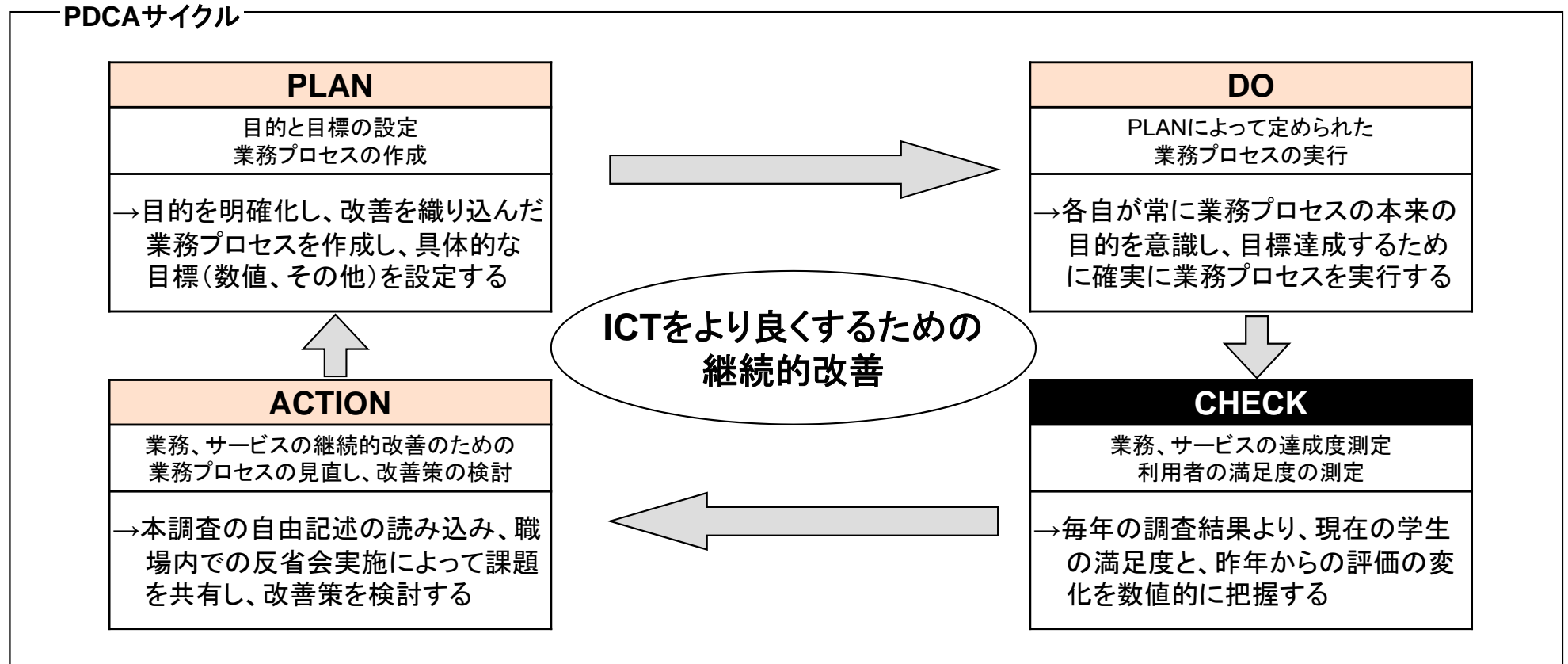
■回答者数に関して

学年	H15年度	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度 (今回分)
1年次	140人	135人	122人	121人	92人	110人	81人	115人	134人	130人	112人	111人	112人	107人	73人	—
2年次	127人	135人	130人	117人	108人	105人	104人	79人	113人	128人	120人	108人	106人	105人	98人	77人
3年次	113人	98人	113人	113人	88人	95人	92人	80人	63人	93人	108人	100人	93人	87人	85人	69人
4年次	121人	109人	113人	121人	114人	103人	103人	102人	91人	76人	101人	116人	107人	101人	82人	98人
5年次	129人	116人	101人	105人	124人	111人	96人	99人	98人	85人	75人	96人	107人	110人	93人	79人
卒業生	66人	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	77人	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	73人	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	49人	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)
教職員	50人	56人	48人	50人	52人	59人	53人	62人	55人	55人	48人	59人	44人	49人	58人	64人
企業担当者	65人	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	36人	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	71人	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	789人	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)
合計	811人	649人	627人	627人	578人	696人	529人	537人	698人	567人	564人	590人	569人	608人	489人	387人

PDCAサイクルに関して

■PDCAサイクルの中での本報告書の位置づけ

本報告書は下記のような業務改善の流れの中で、CHECKステップに位置づけられる。



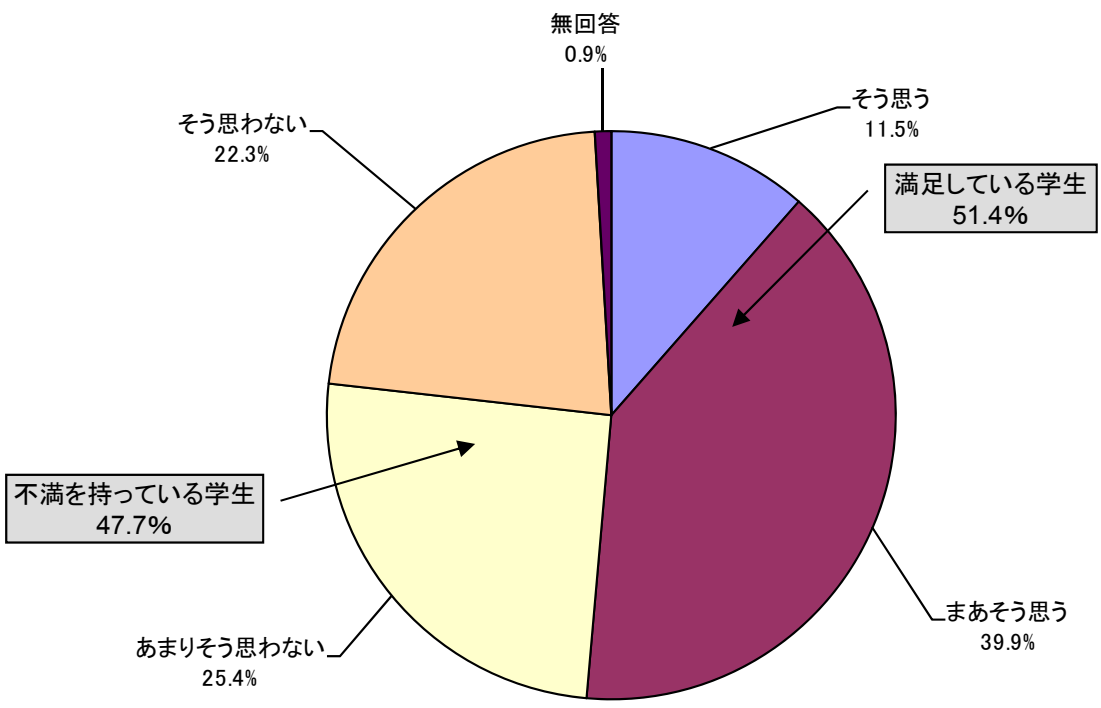
- 今回の調査によって得られた「学生の満足度」は、上記「PDCAサイクル」の中の「CHECKステップ」に相当する。
- この報告書で得られた結果はあくまでもアンケート結果を統計的に分析し、その結果に妥当と思われる理由をつけ加えた「仮説」であり、その検証と活用は今後の「ACTIONステップ」で行うことになる。
- また、ここで得られた数値的な結果を解釈し、国際高専の改善に役立てるのは、実際に現場で教育や学校運営に携わっているメンバーが行うことであり、この報告書はその参考として位置づけられるものである。
- 「PDCAサイクル」は一時的なものではなく、継続的な改善を目指すものである。従って「昨年と比較して評価がどう変化したのか?」「自らが設定した目標は達成したのか?」といった変化を見ることが主眼となる。
- 本報告書は、上記のような位置づけを継続していくことで、国際高専の改善に資することを目的としている。

国際高専の総合的な満足度

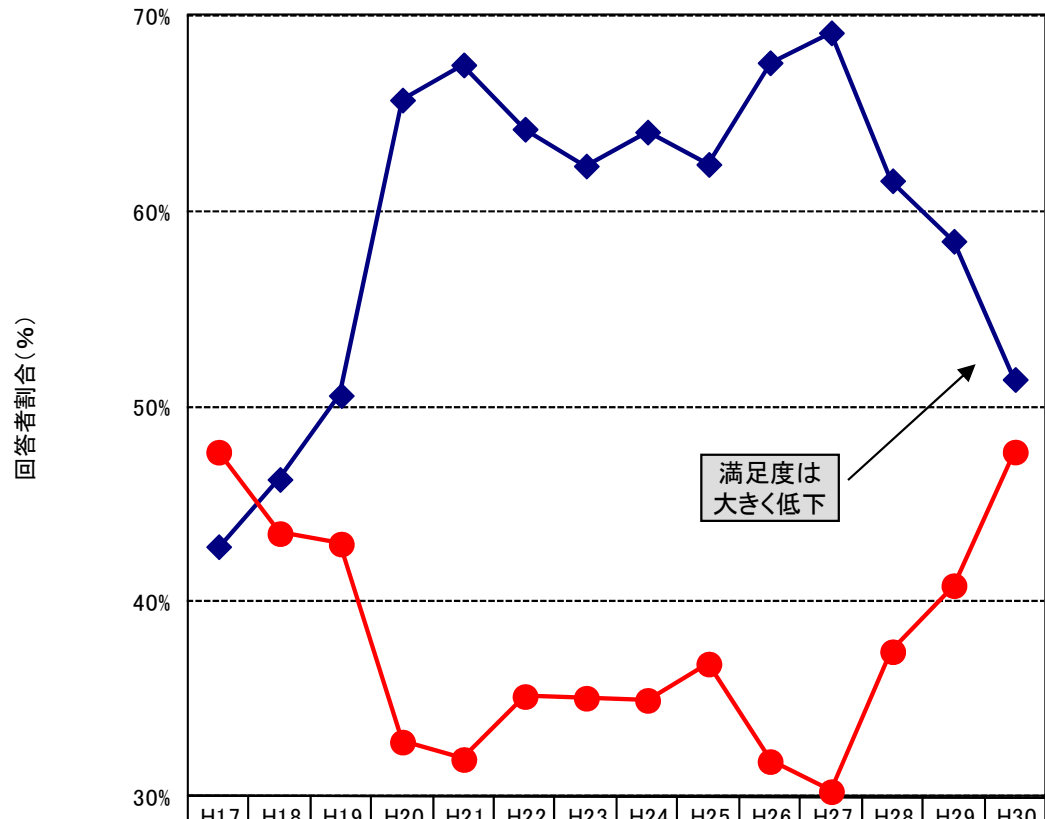
■本年度の総合的な満足度

- 「総合的に見て国際高専に満足していますか？」に対しては、「そう思う」が11.5%、「まあそう思う」が39.9%であり、合わせると51.4%が満足という回答であった。一方、「そう思わない」は22.3%、「あまりそう思わない」は25.4%であり、不満という回答は47.7%となった。
- 「満足している学生」と「不満を持っている学生」の割合を年度別に比較すると、「満足している学生」は前回は7.1ポイントと大きく下回って3年連続の低下となり、H20以降で最低となった。そして、「不満を持っている学生」は前回は6.9ポイント上回って、H17と並んで過去最高となった。

■総合的に見て国際高専に満足していますか？(在校生のみ)



■国際高専の総合的満足度 年度別比較

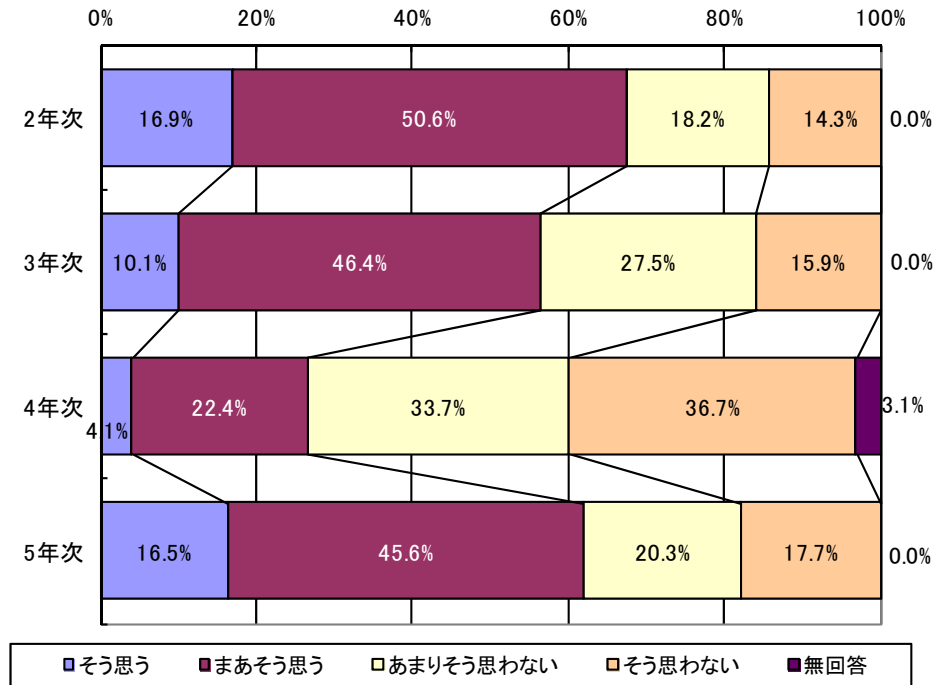


満足している学生	42.8%	46.3%	50.6%	65.7%	67.5%	64.2%	62.3%	64.1%	62.4%	67.6%	69.1%	61.6%	58.5%	51.4%
不満を持っている学生	47.7%	43.5%	43.0%	32.8%	31.9%	35.2%	35.1%	35.0%	36.8%	31.8%	30.3%	37.5%	40.8%	47.7%

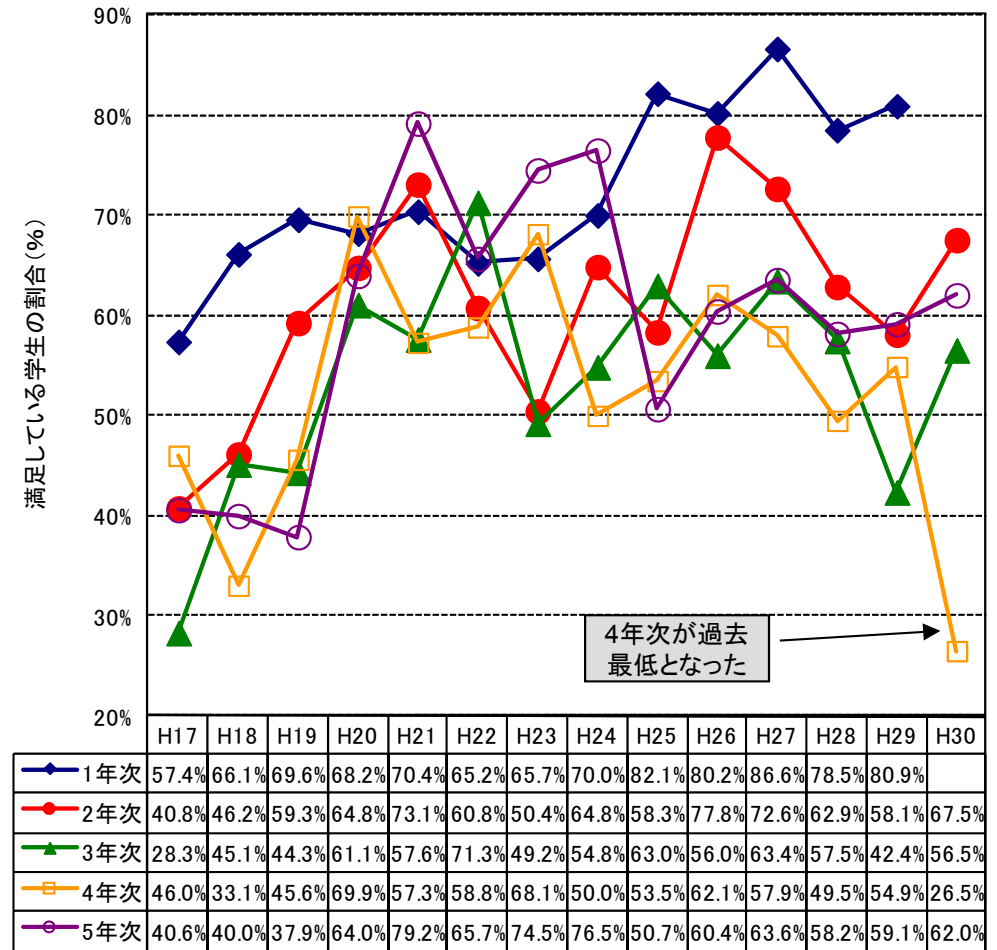
■総合的満足度の学年別比較

- 今回から「1年次」は別の集計となっているため、「2年次」から「5年次」の総合満足度を学年別に比較した。「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた満足度は、「2年次」が67.5%と最も高く、次いで、「5年次」が62.1%、「3年次」が56.5%、「4年次」が26.5%と続いており、「2年次」から「4年次」にかけての急激な低下と、「4年次」の満足度が非常に低い点が特徴的であった。
- 総合満足度の学年別・年度別比較を見たところ、「4年次」の満足度は前回から28.4ポイントと大きく低下して過去最低となっていた。一方、その他の学年はいずれも前年よりも満足度が高くなっており、特に「3年次」は14.1ポイント、「2年次」は9.4ポイントと大きく前年を上回っていた。

■国際高専の総合的満足度 学年別比較



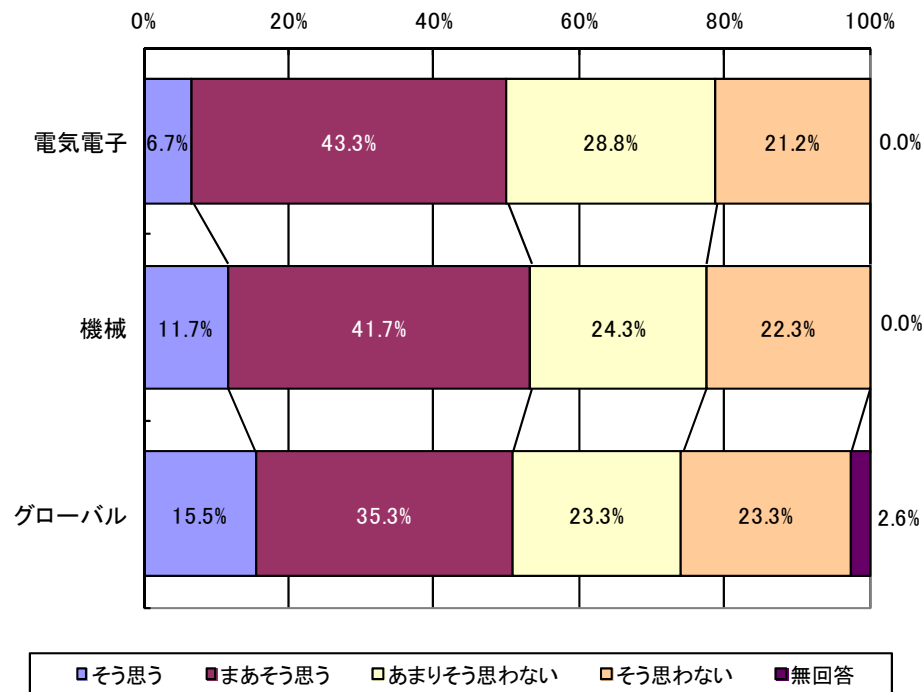
■国際高専の総合的満足度 学年別・年度別比較



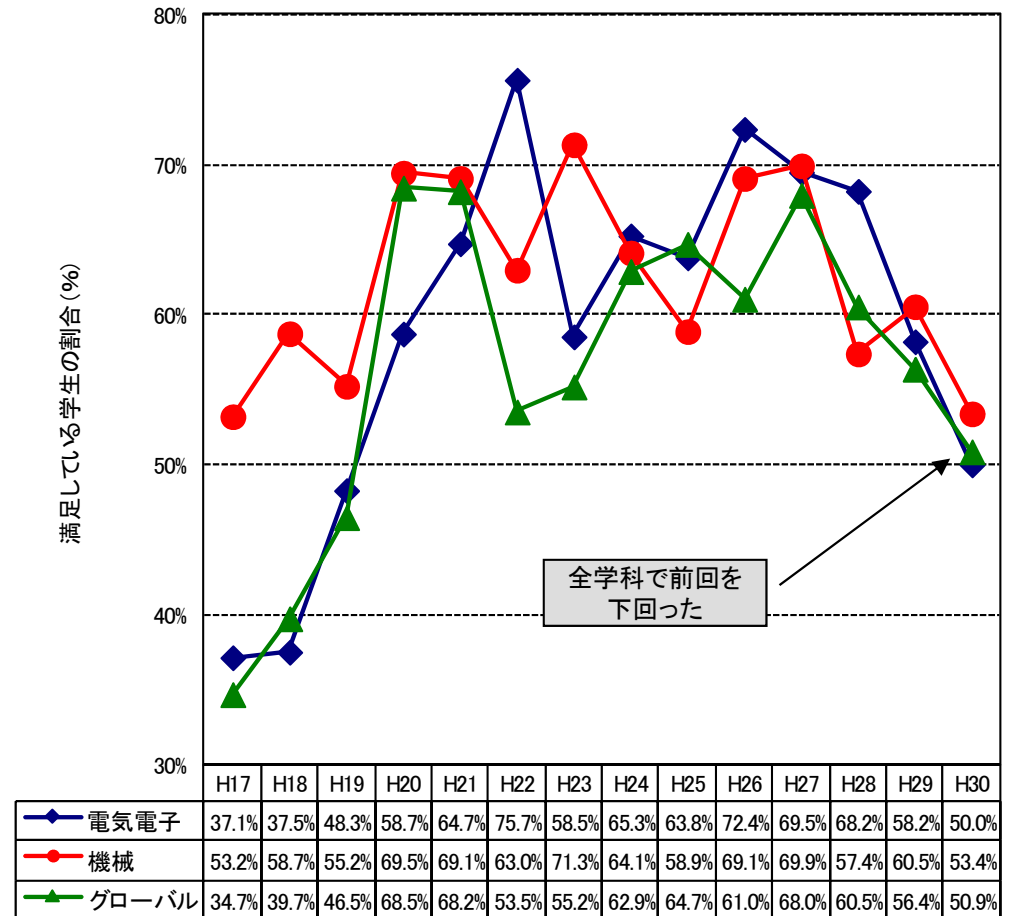
■総合的満足度の学科別比較

- 「総合的満足度」の学科別比較を見ると、「機械」が53.4%と最も高く、「グローバル」が50.9%、「電気電子」が50.0%であり、最も大きな差でも3.4ポイントであり、ほとんど差はないと言える。ただし、「そう思う」だけを見ると「グローバル」が15.5%で、高さが目立っていた。
- 年度別に学科の比較をすると、今回はすべての学科で前回の満足度を下回る結果となっていた。最も大きく低下していたのは「電気電子」の8.2ポイントであり、「機械」が7.1ポイント、「グローバル」が5.5ポイントであった。そして、「機械」はH17に次いで過去2番目の低さであり、「1年次」が別集計になったことも大きいですが、満足度の低さが目立つ結果となった。

■国際高専の総合的満足度 学科別比較(在学生のみ)



■国際高専の総合的満足度 学科別・年度別比較

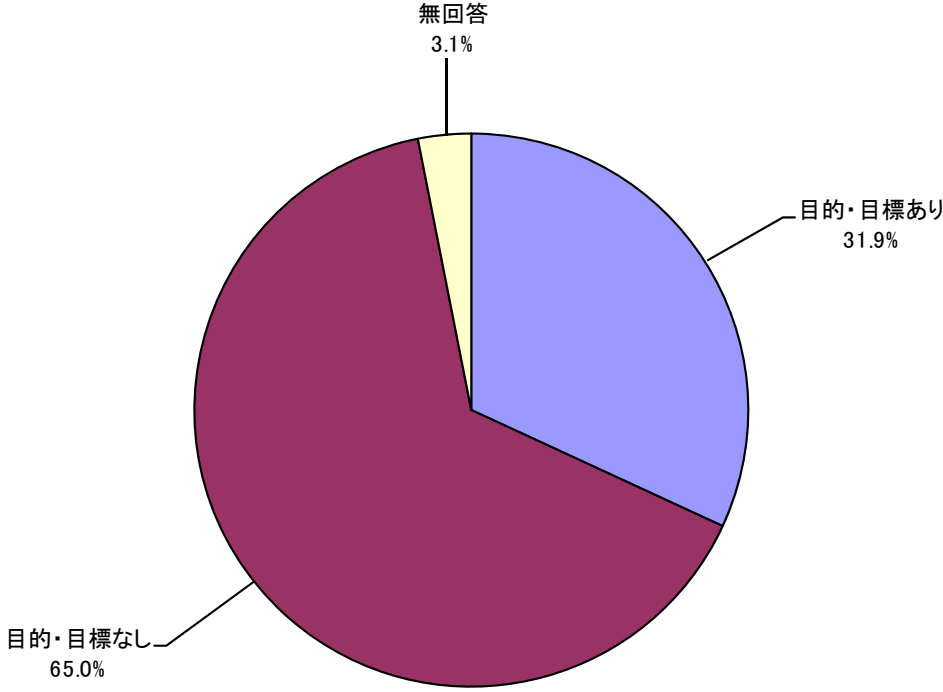


目的・目標に関する意識に関して

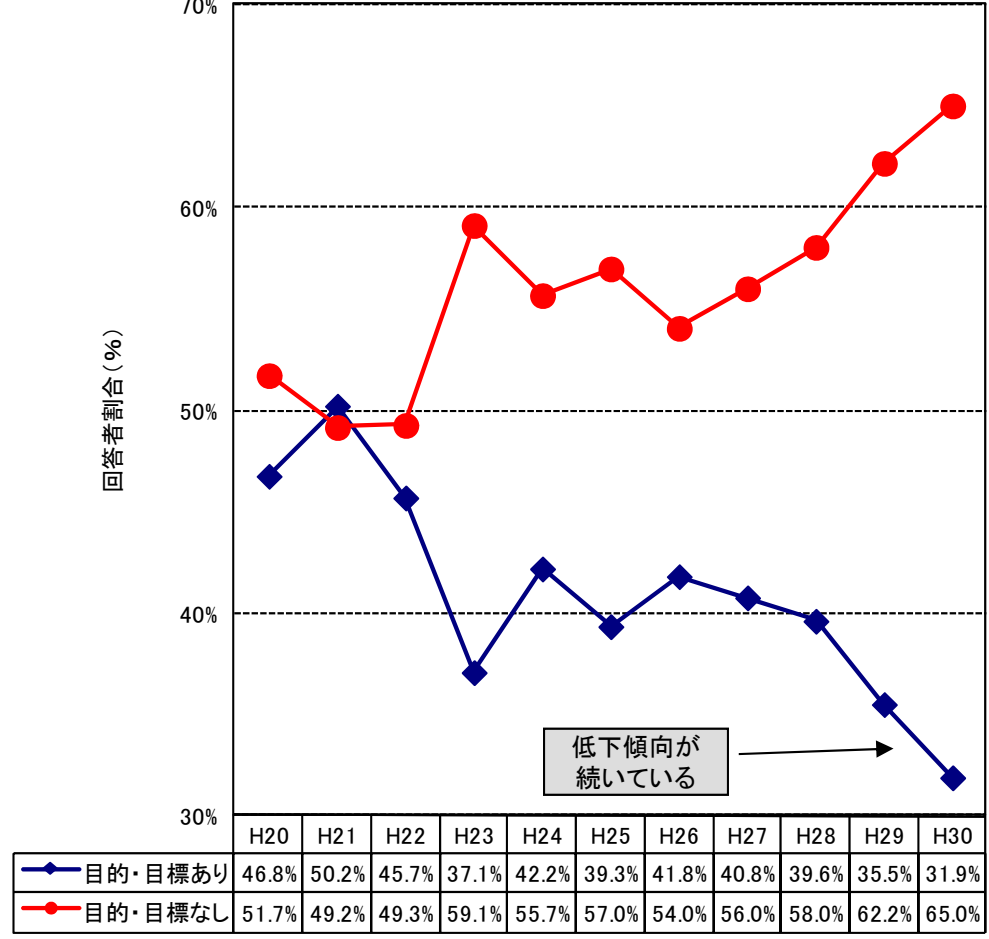
■在学中の「目的・目標」の意識

- 「高専生活を送る上で何らかの目的・目標を持っていますか？」では、「目的・目標あり」が31.9%、「目的・目標なし」が65.0%となり、「目的・目標なし」の割合が約2倍となっていた。
- 年度別の比較を見ると、「目的・目標あり」はH26から低下傾向が続き、今回は前回は3.6ポイント下回って過去最低となった。そして、「目的・目標なし」は前回は2.8ポイント上回って過去最高となった。

■在学中の「目的・目標」の意識



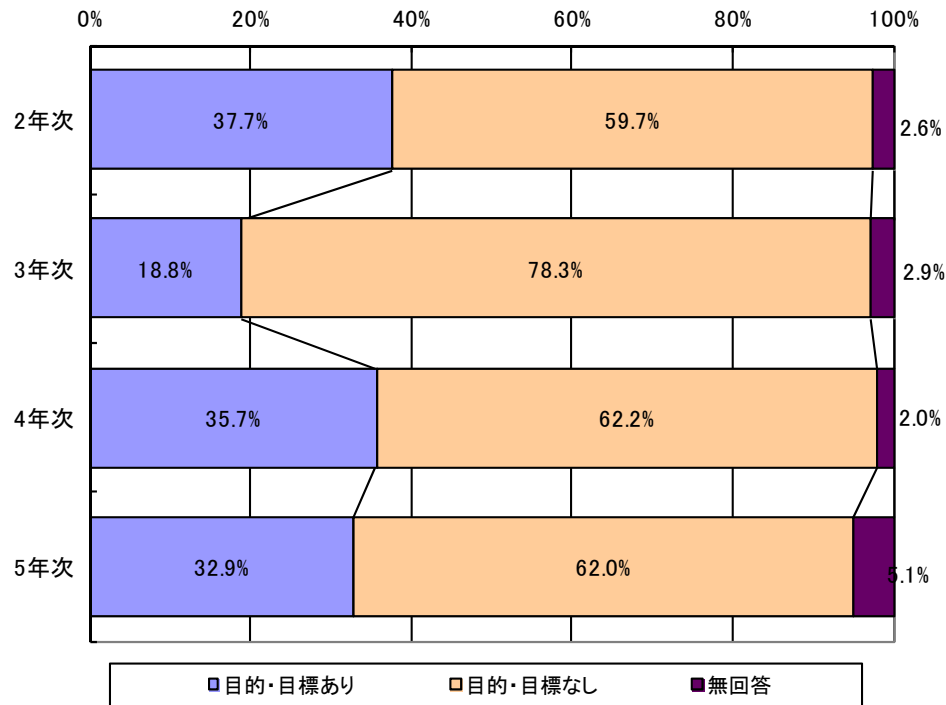
■在学中の「目的・目標」の意識 年度別比較



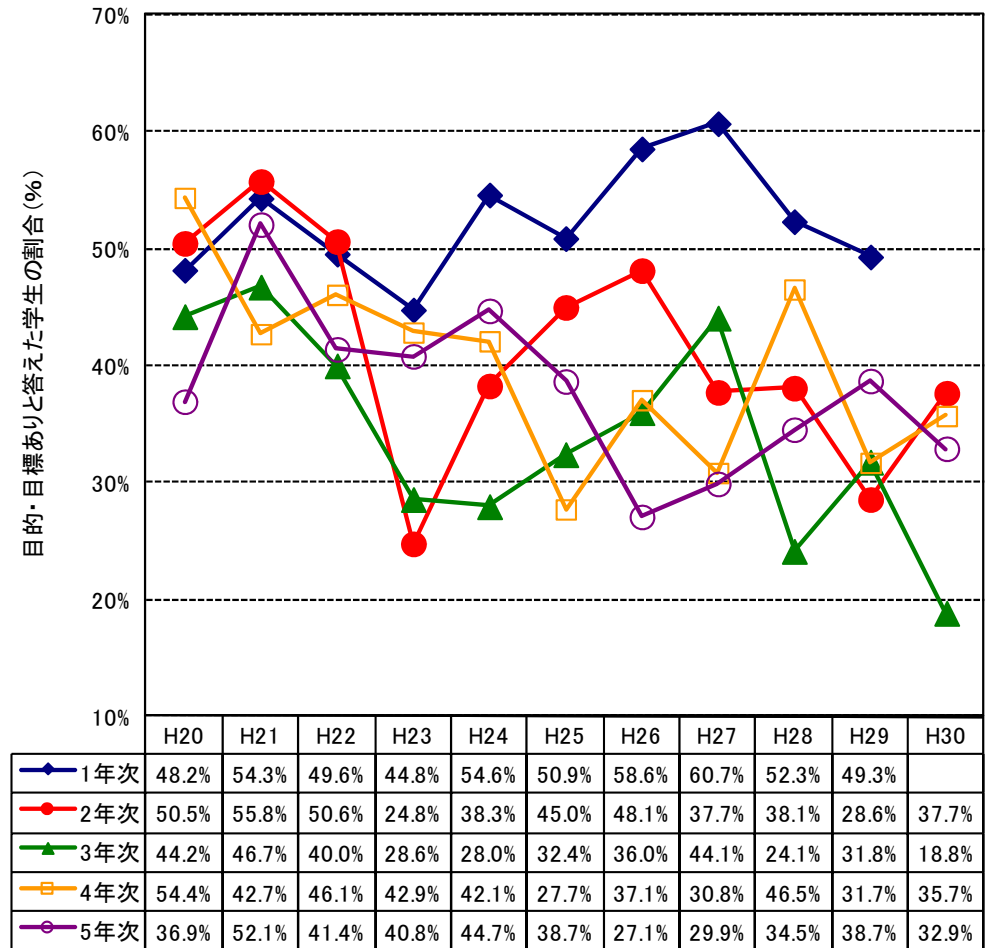
■「目的・目標」の意識の学年別比較

- 「目的・目標あり」の割合を学年別に比較すると、「2年次」が37.7%で最も多く、次いで、「4年次」が35.7%、「5年次」が32.9%と続いており、ここまでの3学年の差はあまり大きくなかった。そして、「3年次」が18.8%と非常に少なくなっており、学年との相関関係は見られなかった。
- 学年別・年度別に「目的・目標あり」の割合を比較すると、「2年次」は前回より9.1ポイント、「4年次」は4.0ポイント増加していた。一方、「3年次」は前回より13.0ポイント低下して過去最低となり、「5年次」は5.8ポイント低下して、H26からの増加傾向が止まっていた。

■在学中の「目的・目標」の意識 学年別比較



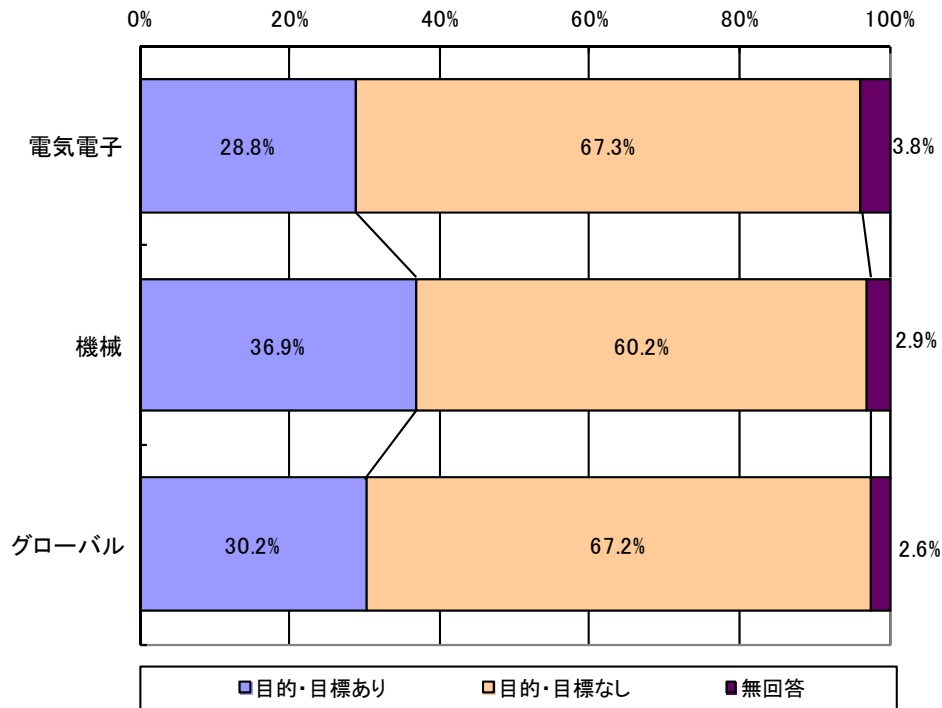
■在学中の「目的・目標」の意識 学年別・年度別比較



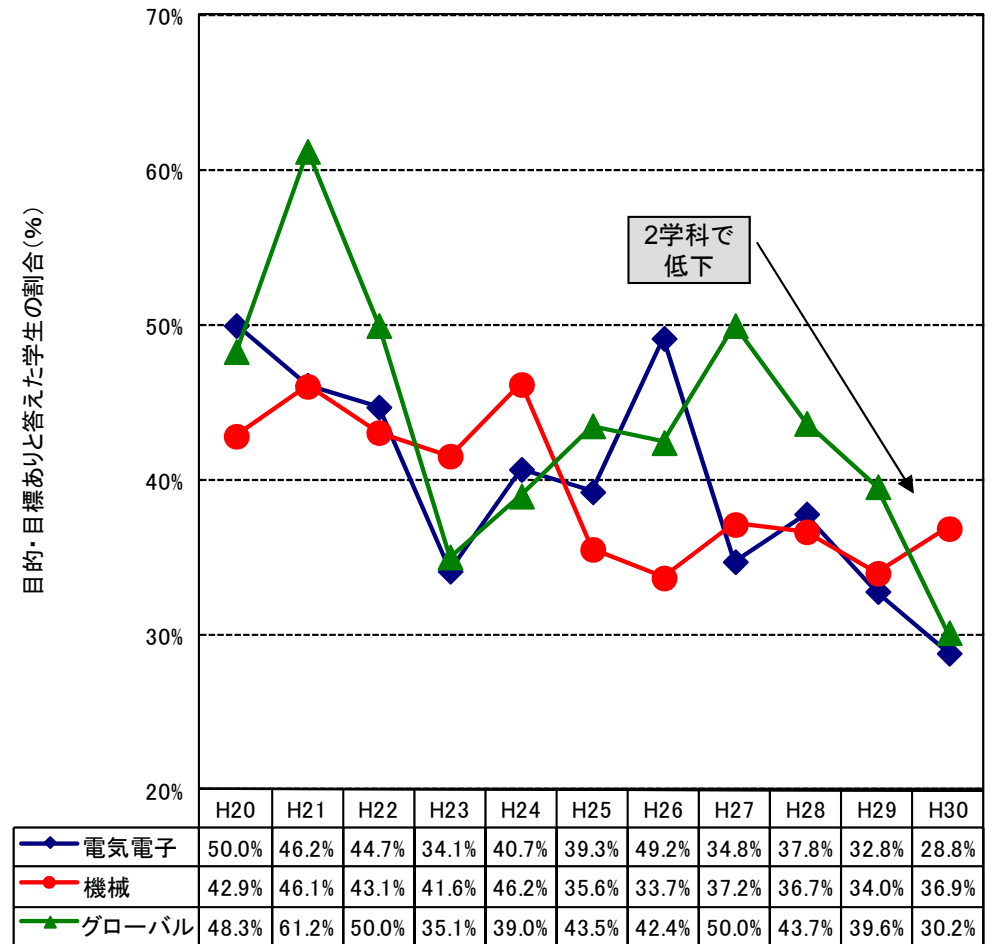
■「目的・目標」の意識の学科別比較

- 「目的・目標あり」の割合を学科別に比較すると、「機械」が36.9%と最も多く、「グローバル」が30.2%、「電気電子」が28.8%と続いており、差は最大で8.1ポイントであった。
- 学科別・年度別比較を見ると、「機械」は前回は2.9ポイント上回ったものの、他の2学科は前回は下回っており、「グローバル」は前回から9.4ポイント低下、「電気電子」は4.0ポイント低下して、いずれも過去最低となっていた。

■在学中の「目的・目標」の意識 学科別比較



■在学中の「目的・目標」の意識 学科別・年度別比較

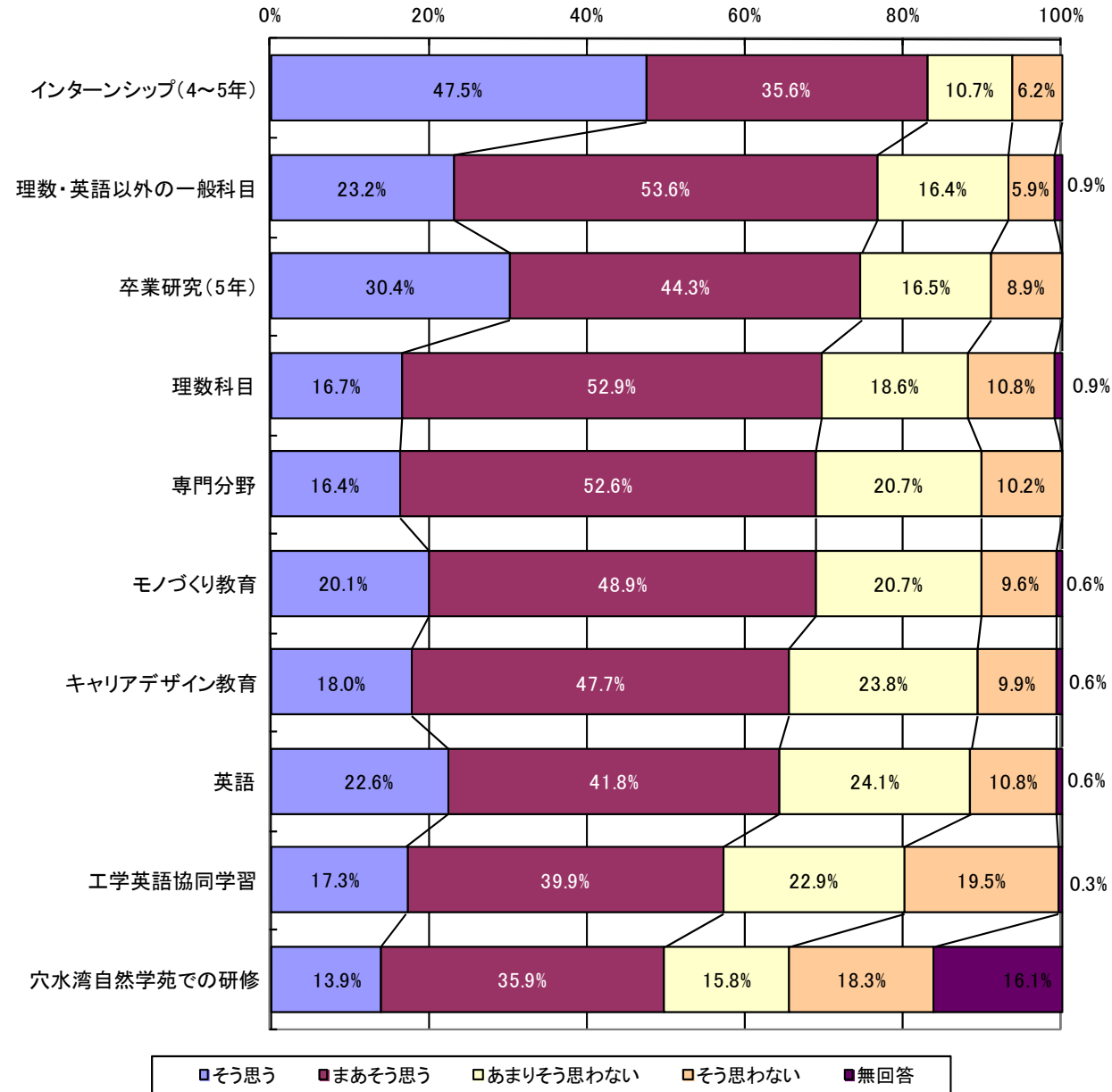


授業に関して

■授業に対する評価

- 授業に対する評価で、最も満足度が高かったのは「インターンシップ」の83.1%であった。次いで、「理数・英語以外の一般科目」が76.8%、「卒業研究」が74.7%、「理数科目」が69.6%、「専門分野」が69.0%と続いており、「そう思う」だけを見ると「インターンシップ」の47.5%が突出していた。
- 一方、最も満足度が低かったのは「穴水湾自然学苑での研修」の49.8%であり、「インターンシップ」との差は33.3ポイントであった。そして、「工学英語協同学習」が57.2%、「英語」が64.4%となっていた。

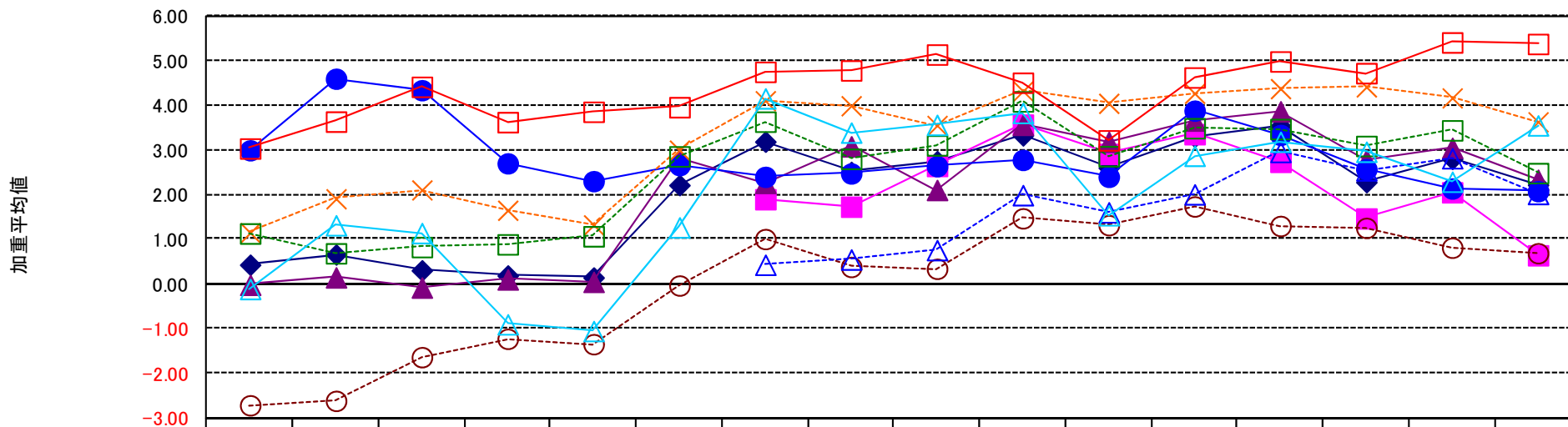
■授業に対する満足度(在学生のみ)



■授業に対する評価の年度別比較

- 授業評価の年度別比較を見ると、「卒業研究」は前回は上回ってH25以降で最も高い評価となっていたが、他の科目はすべて前回は下回っていた。
- 前回からの低下は、ほとんどの項目でわずかな低下で、「インターンシップ」の評価などは非常に高い状態を維持していた。ただし、「工学英語協同学習」の低下は大きく、過去最低の評価となり、「英語」もわずかな差ではあるが過去最低となった。

■授業評価 年度別比較

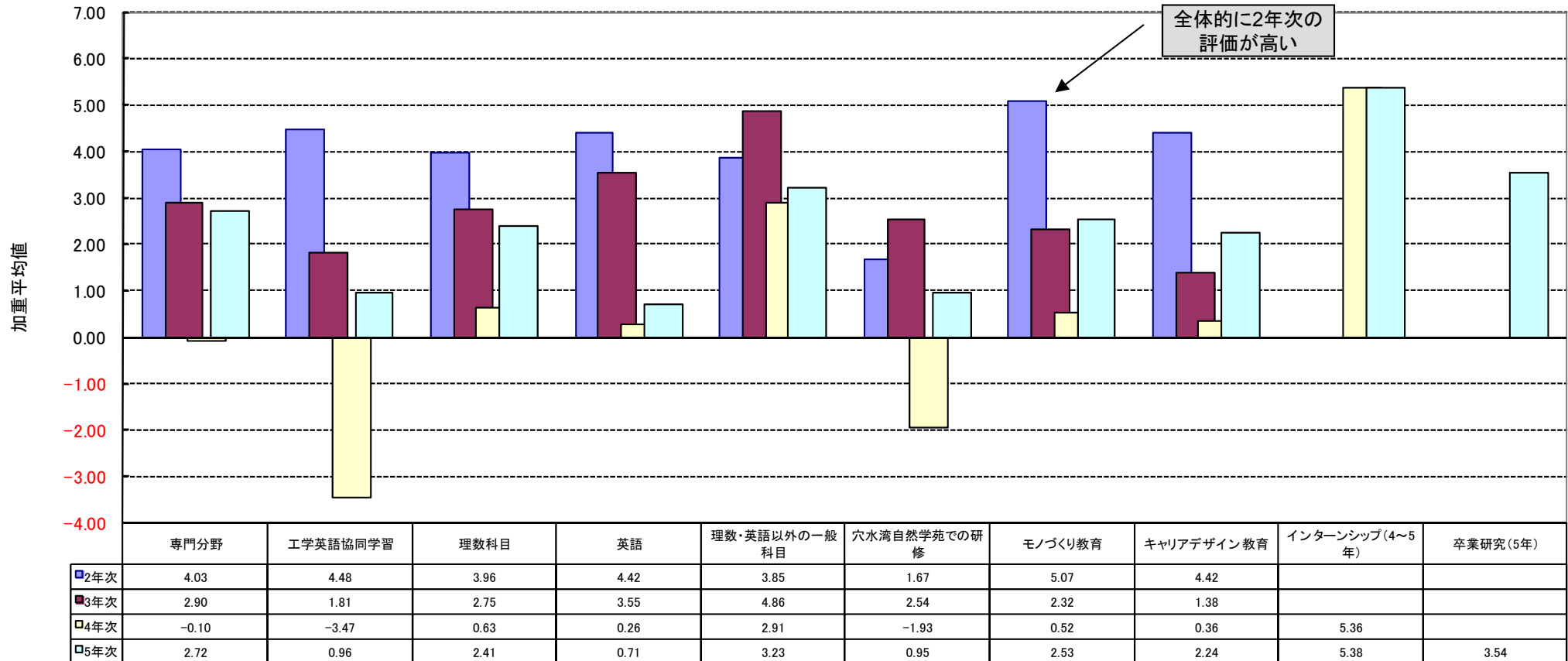


	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
◆ 専門分野	0.43	0.65	0.30	0.18	0.14	2.21	3.18	2.51	2.75	3.32	2.60	3.29	3.53	2.27	2.80	2.21
■ 工学英語協同学習							1.89	1.72	2.64	3.56	2.91	3.35	2.73	1.46	2.05	0.64
▲ 理数科目	-0.03	0.14	-0.09	0.10	0.04	2.80	2.26	3.08	2.10	3.56	3.18	3.65	3.86	2.77	3.04	2.33
● 英語	2.99	4.59	4.33	2.70	2.30	2.65	2.39	2.47	2.63	2.77	2.39	3.88	3.33	2.56	2.13	2.07
× 理数・英語以外の一般科目	1.14	1.90	2.10	1.64	1.32	2.99	4.10	3.99	3.54	4.32	4.04	4.26	4.37	4.41	4.16	3.63
○ 穴水湾自然学苑での研修	-2.72	-2.62	-1.64	-1.23	-1.35	-0.04	1.00	0.38	0.33	1.46	1.31	1.73	1.29	1.25	0.81	0.68
□ モノづくり教育	1.13	0.68	0.82	0.88	1.06	2.85	3.63	2.80	3.10	4.08	2.86	3.48	3.46	3.08	3.43	2.48
△ キャリアデザイン教育							0.42	0.54	0.75	1.98	1.60	2.00	2.95	2.54	2.81	2.01
□ インターンシップ	3.03	3.63	4.41	3.62	3.85	3.95	4.74	4.78	5.13	4.50	3.21	4.62	4.98	4.71	5.40	5.37
△ 卒業研究	-0.12	1.31	1.13	-0.91	-1.06	1.26	4.15	3.38	3.56	3.82	1.53	2.86	3.18	2.95	2.28	3.54

■授業に対する評価の学年別比較

- 授業評価を学年別に比較したところ、「2年次」が受講している科目ではほとんどで「2年次」の評価が最も高く、特に「工学英語協同学習」「モノづくり教育」「キャリアデザイン教育」の評価の高さが目立っていた。
- 全体的に「2年次」の高さが目立っていたが、「理数・英語以外の一般科目」と「穴水湾自然学苑での研修」は「3年次」の評価が最も高かった。そして、「3年次」には特に低いものは見られなかった。
- 一方、低さが目立っていたのは「4年次」であり、「専門分野」「工学英語協同学習」「穴水湾自然学苑での研修」はマイナスとなっており、特に後者の2科目は大きくマイナスとなっていた。
- 「インターンシップ」は「4年次」と「5年次」だけに聞いた質問であるが、いずれも評価が高く、「5年次」だけに聞いた「卒業研究」の評価も低くなかった。

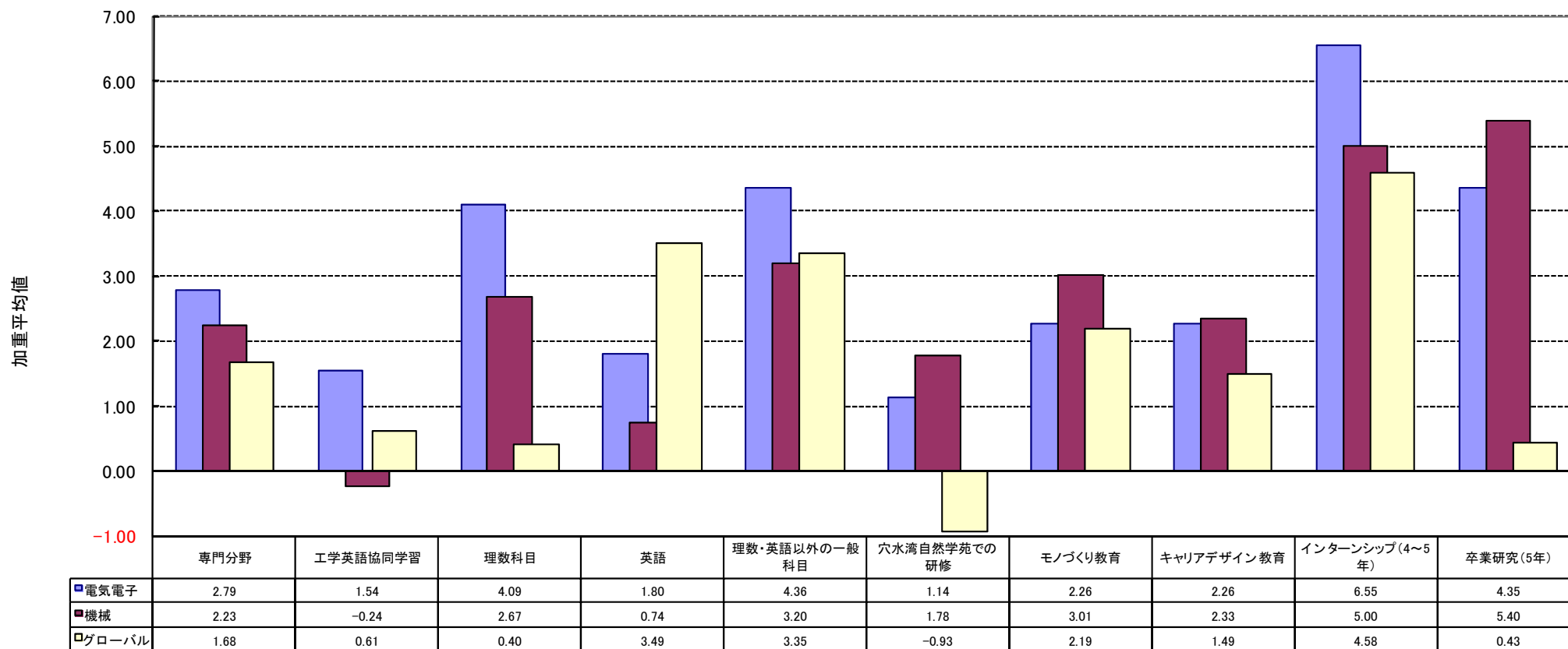
■授業評価 学年別比較



■授業に対する評価の学科別比較

- 授業に対する評価の学科別比較を見ると、「電気電子」は評価が高いものが多く、「専門分野」「工学英語協同学習」「理数科目」「理数・英数以外の一般科目」「インターンシップ」は最も高く、特に目立って低いものは見られなかった。
- 「機械」は目立った高さではないが、「穴水湾自然学苑での研修」「モノづくり教育」「キャリアデザイン教育」「卒業研究」で最も高い評価をしていた。一方、特徴的であったのは「工学英語協同学習」であり、わずかではあるがマイナスの評価となっていた。
- 「グローバル」は「英語」の評価は高かったものの、他には目立って高いものは見られなかった。「工学英語協同学習」と「理数・英語以外の一般科目」では「電気電子」に次ぐ評価ではあったが、その他の科目は評価が低いものも多く、特に「理数科目」「穴水湾自然学苑での研修」「卒業研究」の低さは目立っており、「穴水湾自然学苑での研修」はマイナスの評価となっていた。

■授業評価 学科別比較

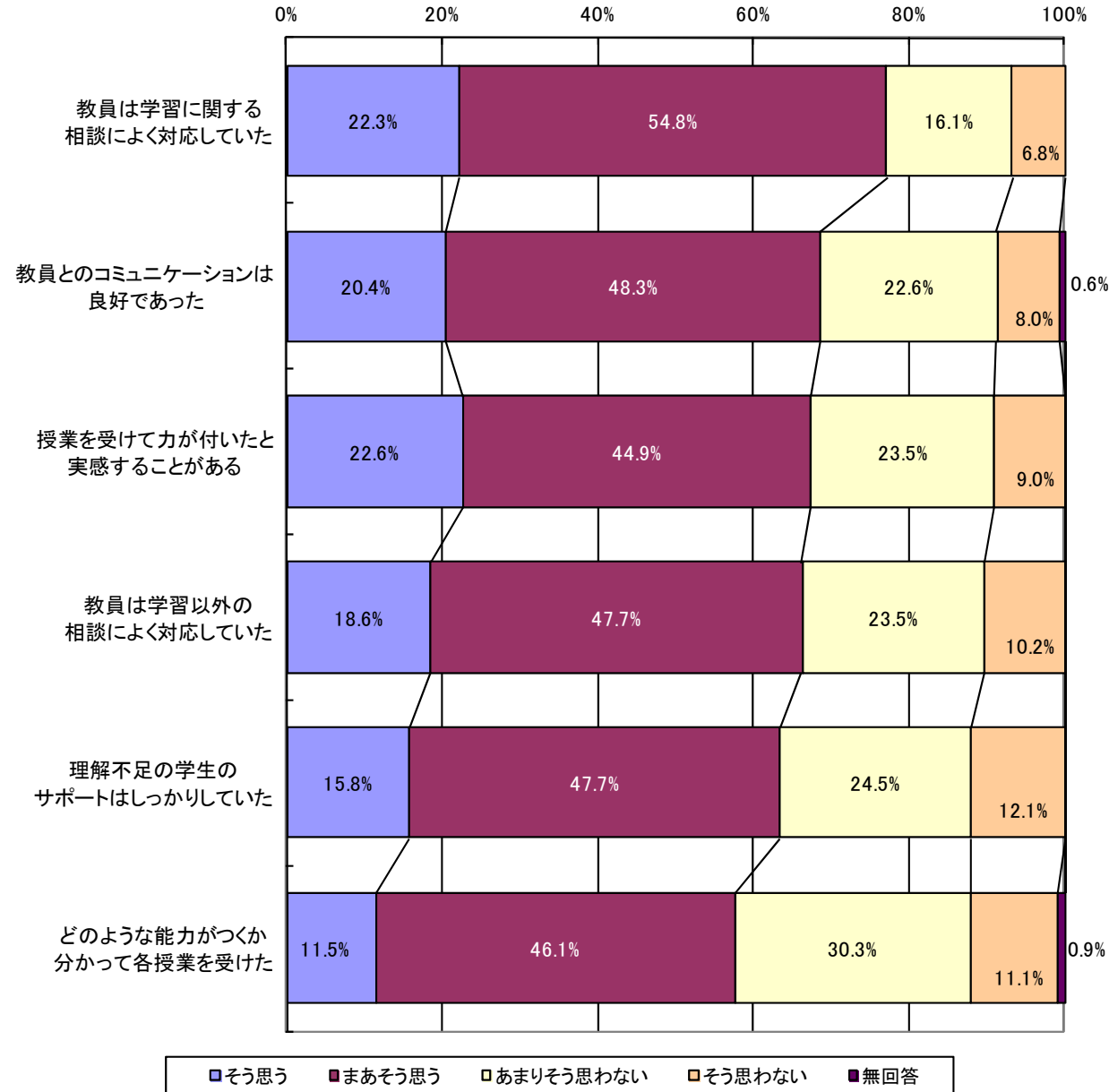


教員および学習支援に関して

■教員および学習支援の満足度

- 「教員および学習支援」で最も満足度が高かったのは「教員は学習に関する相談によく対応していた」の77.1%であった。次いで、「教員とのコミュニケーションは良好であった」が68.7%、「授業を受けて力が付いたと実感することがある」が67.5%と続いていた。
- 一方、最も満足度が低かったのは「どのような能力がつか分かって各授業を受けた」の57.6%であり、「理解不足の学生のサポートはしっかりしていた」が63.5%で続いていた。

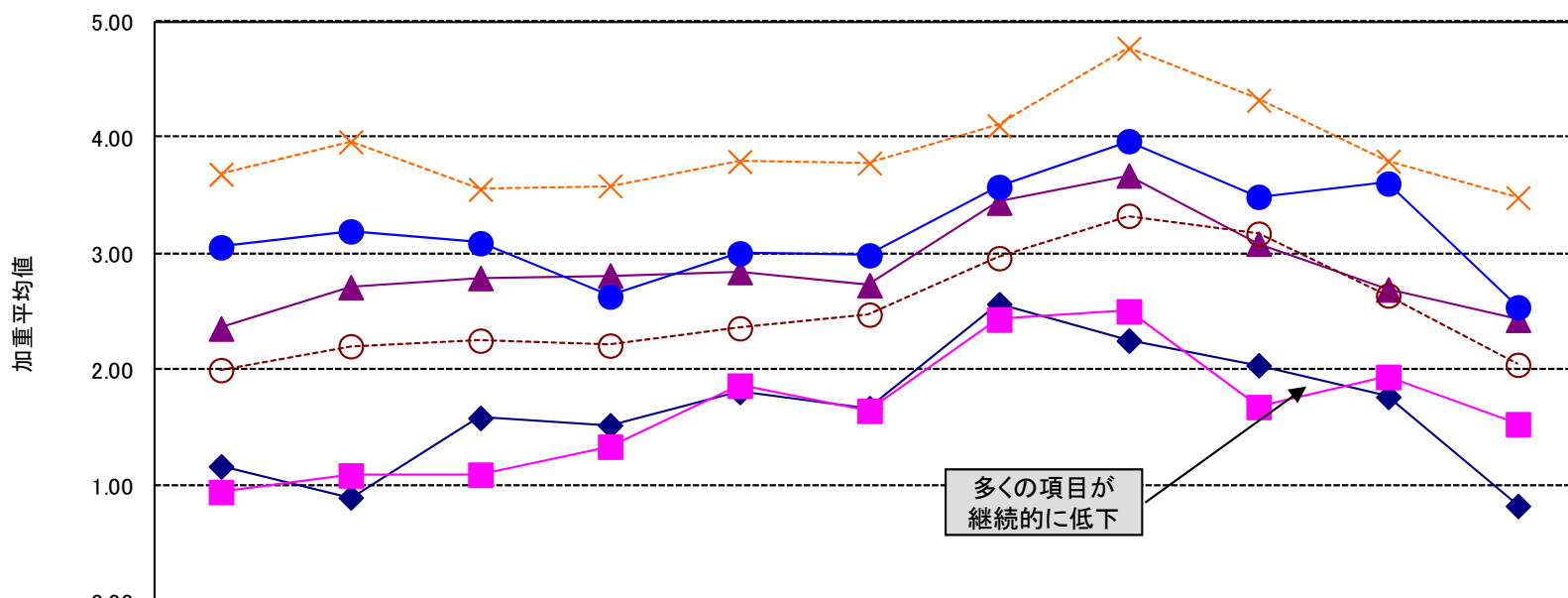
■教員および学習支援の満足度(在学生のみ)



■教員および学習支援の満足度の年度別比較

- 「教員および学習支援の満足度」を年度別に比較したところ、すべての項目で前回の評価を下回っていた。
- 特に低下が大きかったのは「教員とのコミュニケーションは良好であった」であり、過去最低の満足度となった。他に「どのような能力がつか分かって各授業を受けた」「教員は学習に関する相談によく対応していた」もわずかな差ではあるが過去最低となった。
- 上記も含めてほとんどの項目でH27あたりから低下傾向が続いており、過去最低とはならなかった項目でも非常に低い評価であった。

■教員および学習支援評価 年度別比較

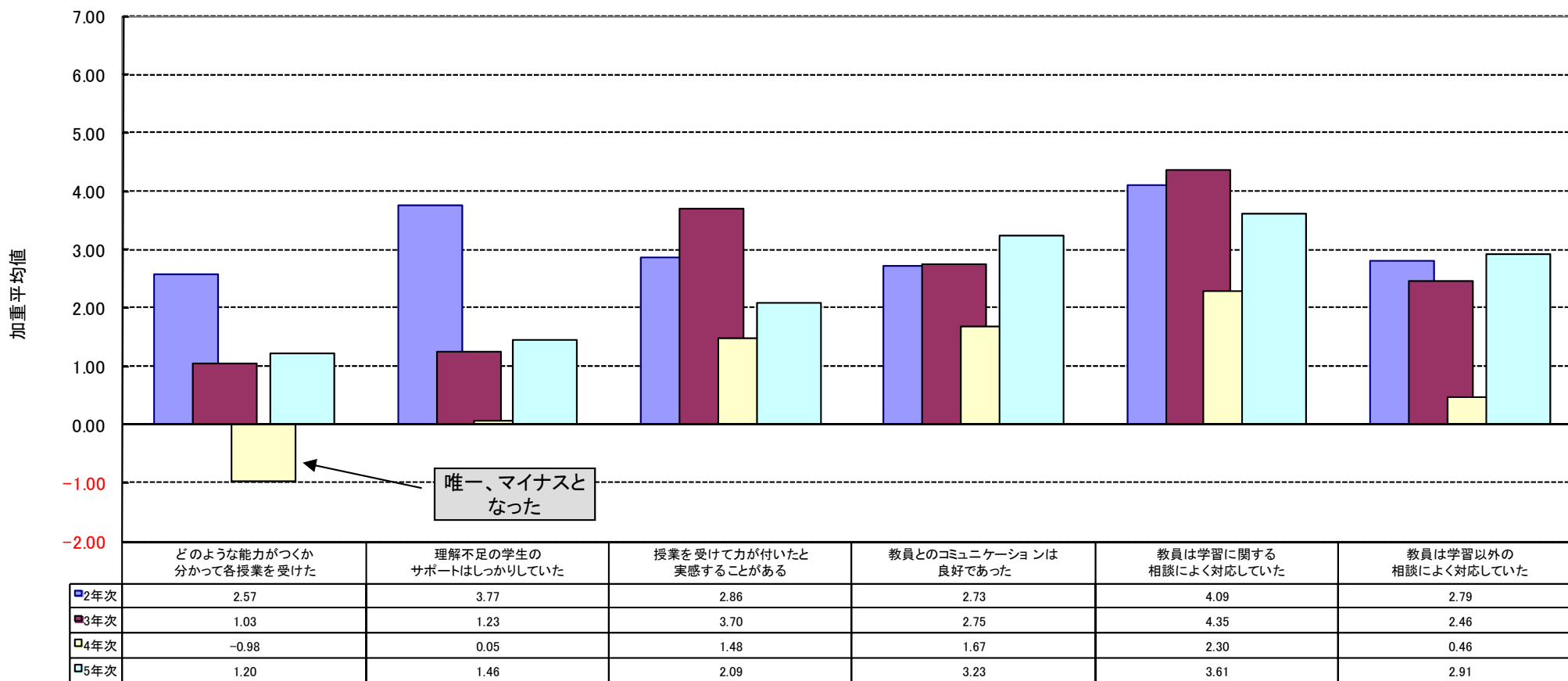


	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
◆ どのような能力がつか分かって各授業を受けた	1.17	0.90	1.59	1.52	1.81	1.67	2.57	2.25	2.04	1.77	0.83
■ 理解不足の学生のサポートはしっかりしていた	0.95	1.09	1.10	1.34	1.86	1.65	2.43	2.50	1.68	1.94	1.53
▲ 授業を受けて力が付いたと実感することがある	2.36	2.71	2.79	2.81	2.84	2.73	3.44	3.67	3.09	2.69	2.43
● 教員とのコミュニケーションは良好であった	3.06	3.19	3.09	2.63	3.00	2.99	3.58	3.97	3.49	3.60	2.54
× 教員は学習に関する相談によく対応していた	3.69	3.96	3.55	3.58	3.79	3.78	4.10	4.77	4.32	3.80	3.48
○ 教員は学習以外の相談によく対応していた	2.00	2.20	2.25	2.21	2.36	2.48	2.96	3.33	3.17	2.64	2.04

■教員および学習支援の満足度の学年別比較

- 「教員および学習支援の満足度」を学年別に比較したところ、全項目で「4年次」の評価が最も低かった。特に「どのような能力がつか分かって各授業を受けた」は全体を通して唯一のマイナスとなっていた。他にも「理解不足の学生のサポートはしっかりしていた」「教員は学習以外の相談によく対応していた」はわずかにプラスであるが、厳しい評価であった。
- 全体的に満足度が高い学年は見られなかったが、「2年次」には低いものは見られず、「どのような能力がつか分かって各授業を受けた」と「理解不足の学生のサポートはしっかりしていた」は高さが目立っていた。
- 「3年次」は目立った高さではないが「授業を受けて力が付いたと実感することがある」と「教員は学習に関する相談によく対応していた」が高く、「5年次」は「教員とのコミュニケーションは良好であった」と「教員は学習以外の相談によく対応していた」の満足度が高かった。

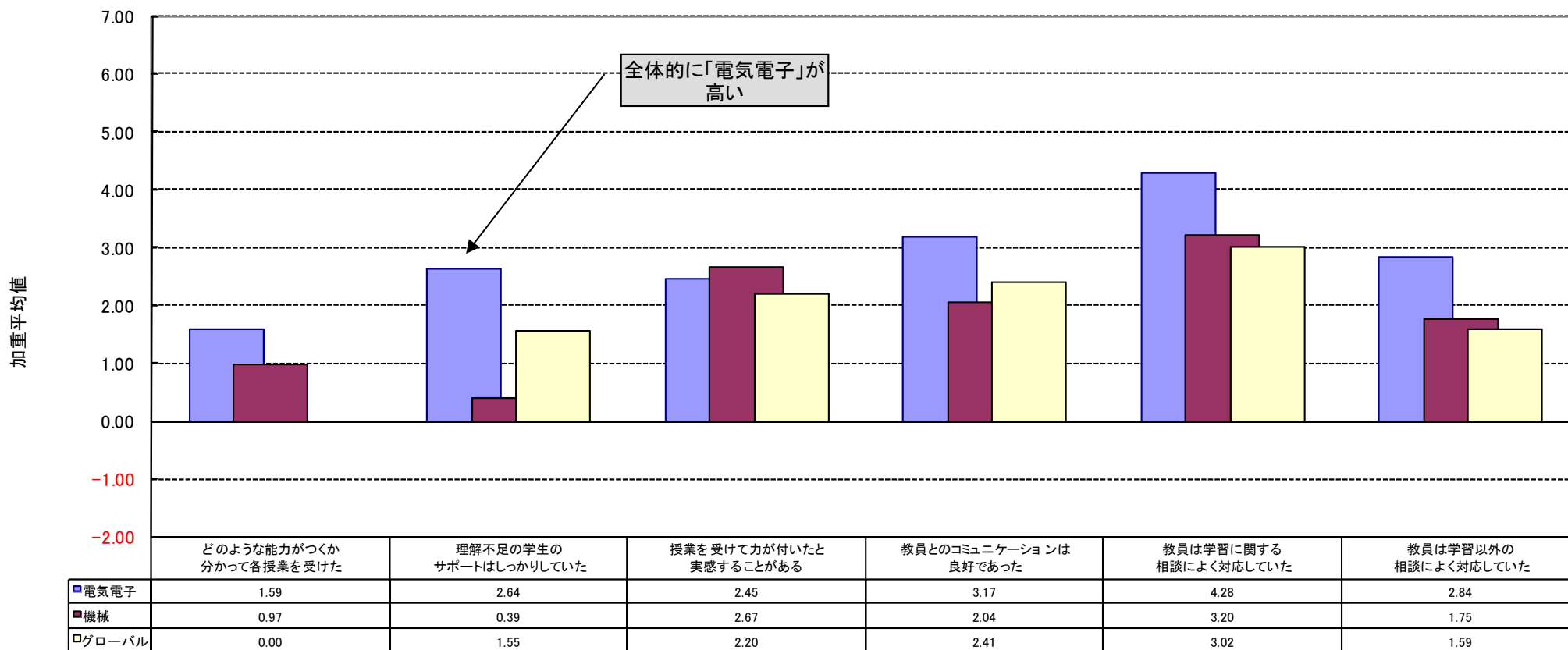
■教員および学習支援評価 学年別比較



■教員および学習支援の満足度の学科別比較

- 学科別に教員および学習支援の満足度を比較すると、目立った高さではないが全体的に「電気電子」の満足度が高かった。特に「コミュニケーション」「学習に関する相談」「学習以外の相談」など、教員との関係が良好な様子が見えられた。
- 「機械」は、差はわずかであるものの「授業を受けて力が付いたと実感することがある」が最も高かった。一方で「理解不足の学生のサポートはしっかりしていた」と「教員とのコミュニケーションは良好であった」は最も低かった。
- 「グローバル」は、「どのような能力がつくか分かって各授業を受けた」の評価がゼロとなっており、事前の理解が不足している様子が見えられた。また、わずかな差ではあるが「授業を受けて力が付いたと実感することがある」「教員は学習に関する相談によく対応していた」「教員は学習以外の相談によく対応していた」は最も低かった。

■教員および学習支援評価 学科別比較

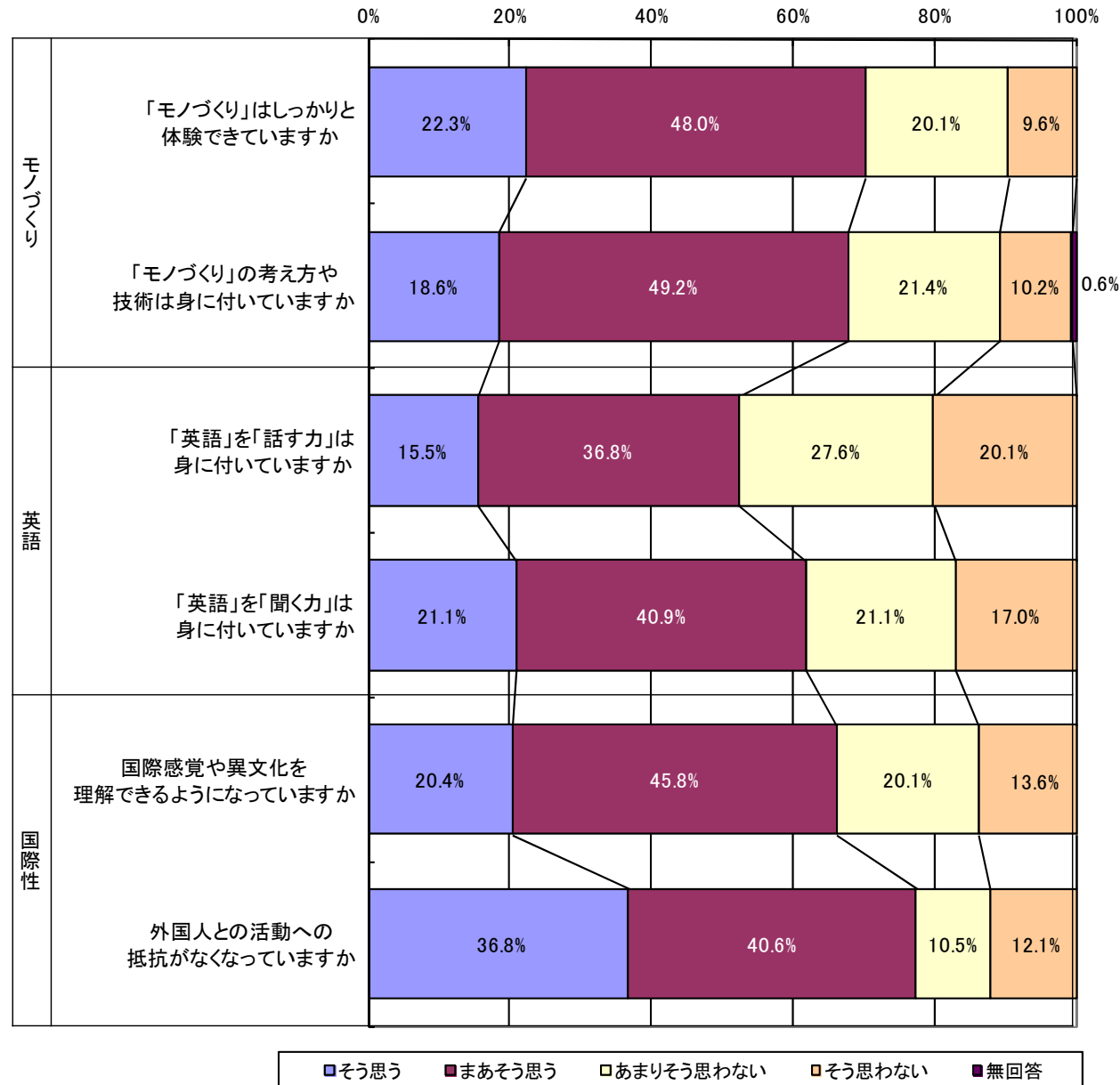


「モノづくり」「英語」「国際性」に関して

■「モノづくり」「英語」「国際性」に対する評価

- 「モノづくり」「英語」「国際性」の3分野6項目の評価を、「そう思う」と「まあそう思う」を合計した「肯定的な意見」で比較した。
- 「モノづくりはしっかりと体験できていますか」では70.3%、「モノづくりの考え方や技術は身に付いていますか」では67.8%であり、いずれも約7割が肯定的な意見であった。
- 「英語」の「話す力は身に付いていますか」では52.3%、「聞く力」では62.0%が肯定的な意見であり、「聞く力」に対する自信の方がやや強かった。
- 「国際性」の「国際感覚や異文化を理解できるようになっていますか」では66.2%、「外国人との活動への抵抗がなくなっていますか」では77.4%が肯定的な意見であった。特に「外国人との活動への抵抗」では「そう思う」が36.8%と多く、外国人への抵抗が少ない様子がうかがえた。

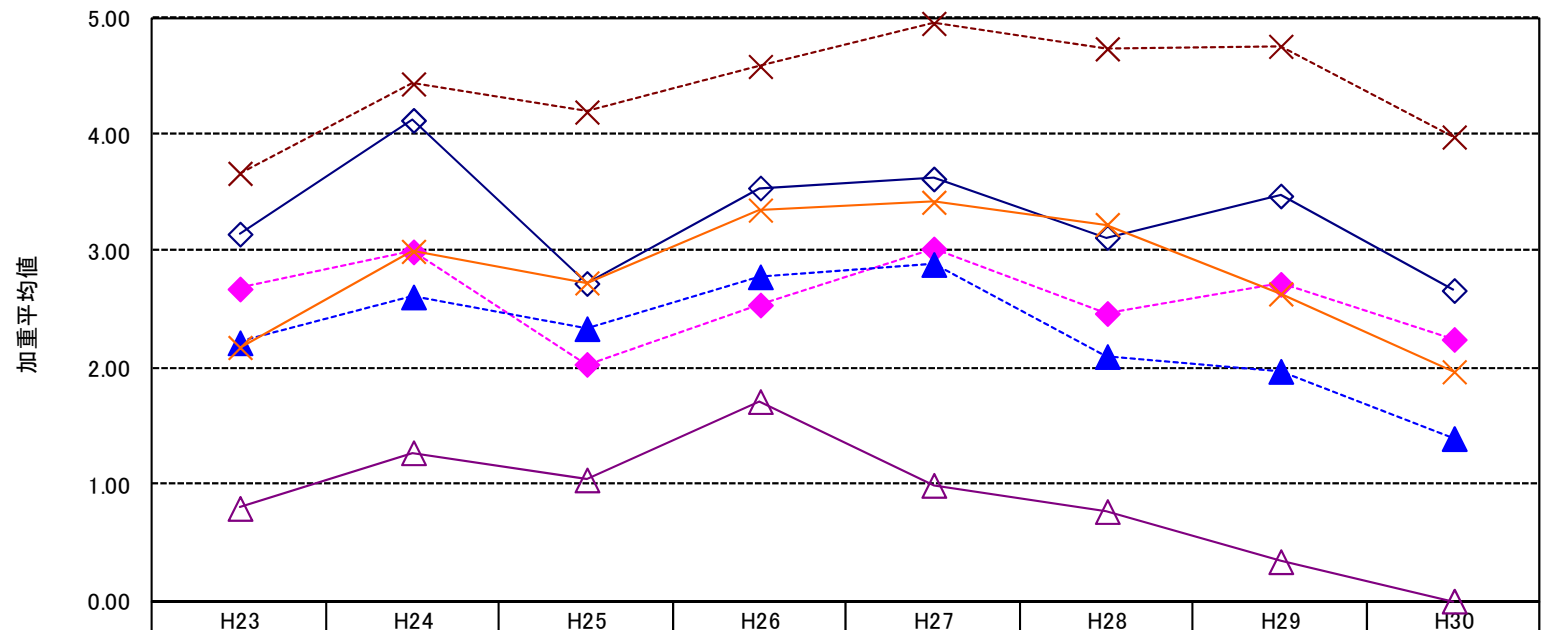
■「モノづくり」「英語」「国際性」の評価(在学生のみ)



■「モノづくり」「英語」「国際性」に対する評価の年度別比較

- 「モノづくり」「英語」「国際性」の6項目はすべて前を下回っていた。
- 「モノづくりはしっかりと体験できていますか」はH25を下回って過去最低の評価となり、「モノづくりの考え方や技術は身に付いていますか」はH25に次いで、これまでで2番目の低さであった。
- 「英語」の「話す力」はH26から、「聞く力」はH27から評価が低下する傾向が続いており、今回は2項目ともに過去最低の評価となった。
- 「国際性」の「外国人との活動への抵抗がなくなっていますか」の評価は高いものの、H23に次いで過去2番目の低さであり、「国際感覚や異文化を理解できるようになっていますか」はH27から低下傾向が続いて今回は過去最低の評価となっていた。

■「モノづくり」「英語」「国際性」の評価 年度別比較

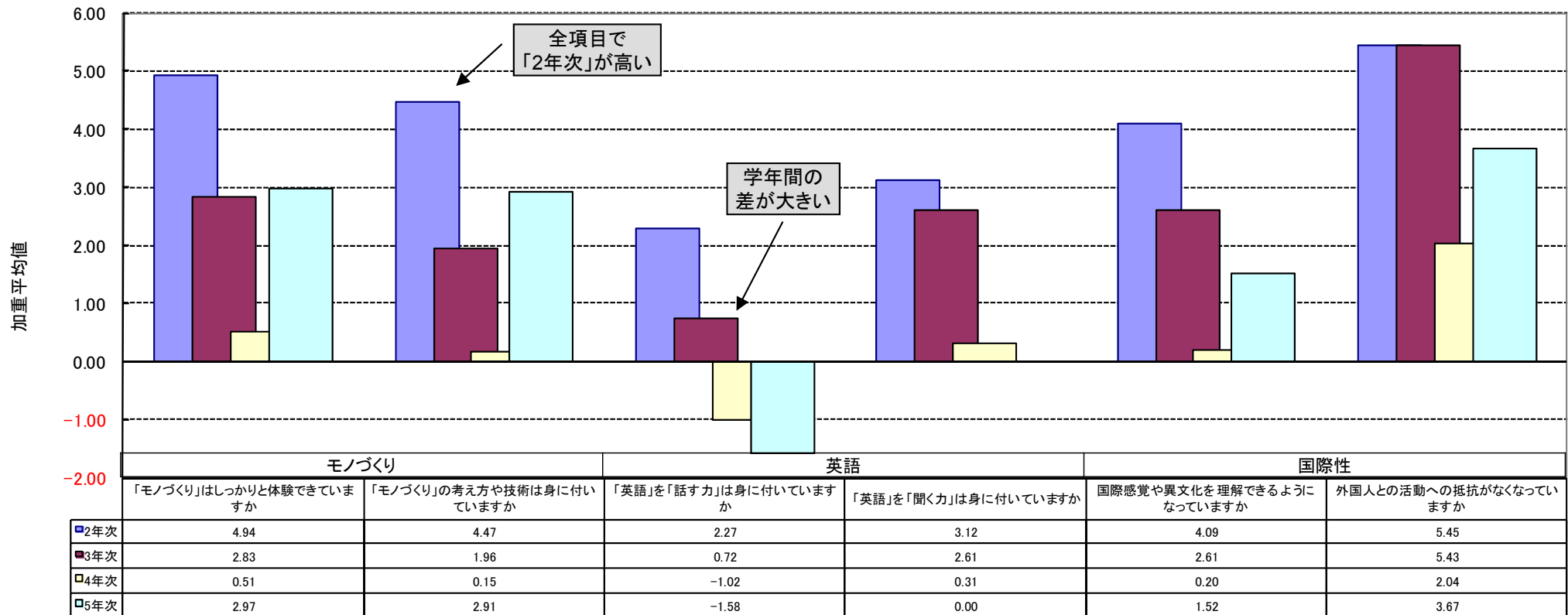


モノづくり	—◇— 「モノづくりはしっかりと体験できていますか	3.15	4.12	2.72	3.54	3.62	3.12	3.47	2.66
	- - -◇- - - 「モノづくりの考え方や技術は身に付いていますか	2.68	2.99	2.03	2.54	3.02	2.47	2.72	2.24
英語	—△— 「英語」を「話す力」は身に付いていますか	0.79	1.27	1.04	1.71	0.99	0.77	0.34	0.00
	- - -△- - - 「英語」を「聞く力」は身に付いていますか	2.21	2.61	2.34	2.78	2.89	2.10	1.97	1.39
国際性	—×— 国際感覚や異文化を理解できるようになっていますか	2.17	3.00	2.73	3.35	3.42	3.23	2.63	1.97
	- - -×- - - 外国人との活動への抵抗がなくなっていますか	3.67	4.43	4.19	4.58	4.95	4.73	4.76	3.98

■「モノづくり」「英語」「国際性」に対する評価の学年別比較

- 「モノづくり」「英語」「国際性」に対する評価を学年別に比較したところ、すべての項目で「2年次」の評価が最も高く、特に「モノづくり」に関する2項目の高さが目立っていた。
- 一方、全体的に低かったのは「4年次」で、ほとんどの項目で最も低い評価であり、スコアもわずかにプラススコアになる状況であった。ただし、例外であったのは「英語」の2項目であり、「話す力」「聞く力」の両者共に「5年次」の評価が最も低かった。
- 項目ごとの特徴を見ると、「英語」の「話す力」は学年が上がるほど評価が低下していた。「話す力」は「4年次」と「5年次」がマイナススコアであり、苦手意識がありそうであった。

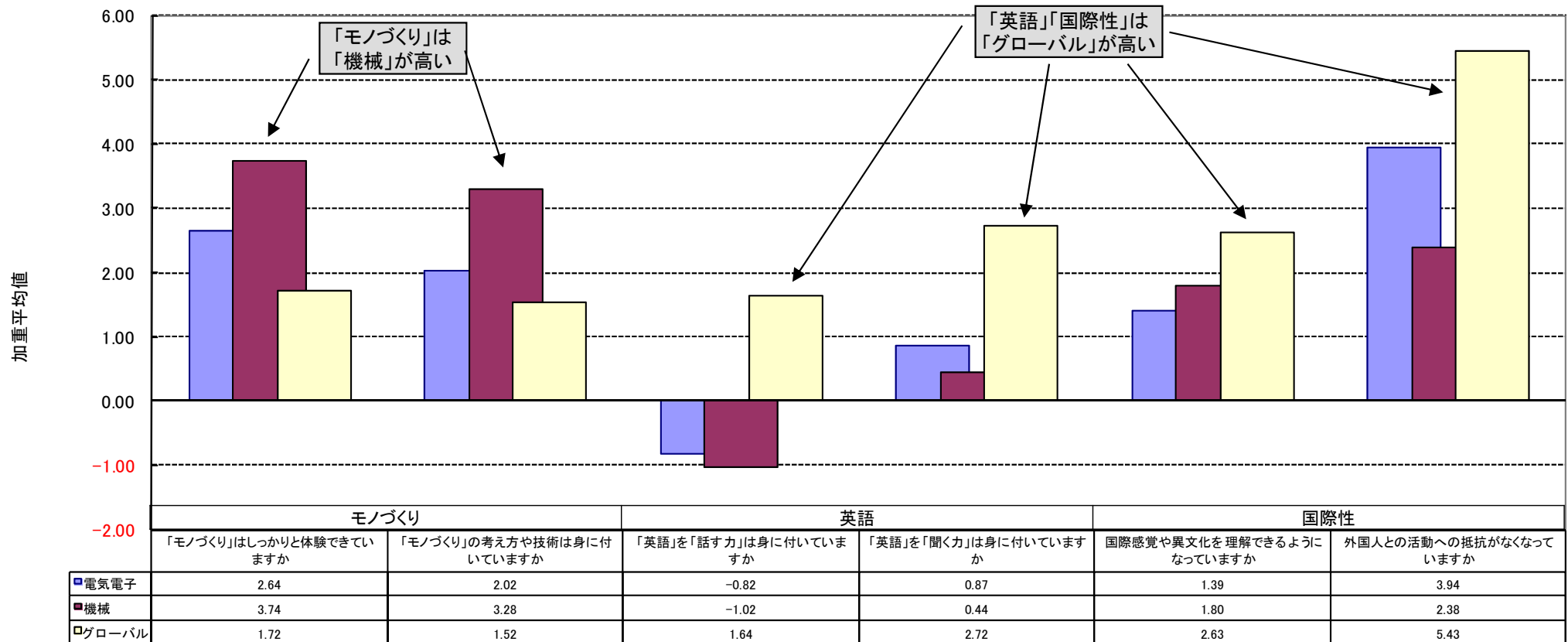
■「モノづくり」「英語」「国際性」の評価 学年別比較



■「モノづくり」「英語」「国際性」に対する評価の学科別比較

- 「モノづくり」「英語」「国際性」の評価を学科別に比較したところ、「モノづくり」の2項目は「機械」の評価が高く、「英語」「国際性」の4項目は「グローバル」が高くなっており、学科の特徴があらわれていた。
- 「モノづくり」に関する2項目は「機械」が目立って高かったが、次いで、「電気電子」「グローバル」の順となっていた。
- 「英語」と「国際性」に関する4項目は「グローバル」が最も高かった。そして、「英語」の2項目と「外国人との活動への抵抗」は「機械」が最も低く、「国際感覚や異文化の理解」は「電気電子」が最も低かった。また、「英語を話す力」は「グローバル」以外のすべての学科でマイナススコアとなっており、強い苦手意識がありそうであった。

■「モノづくり」「英語」「国際性」の評価 学科別比較



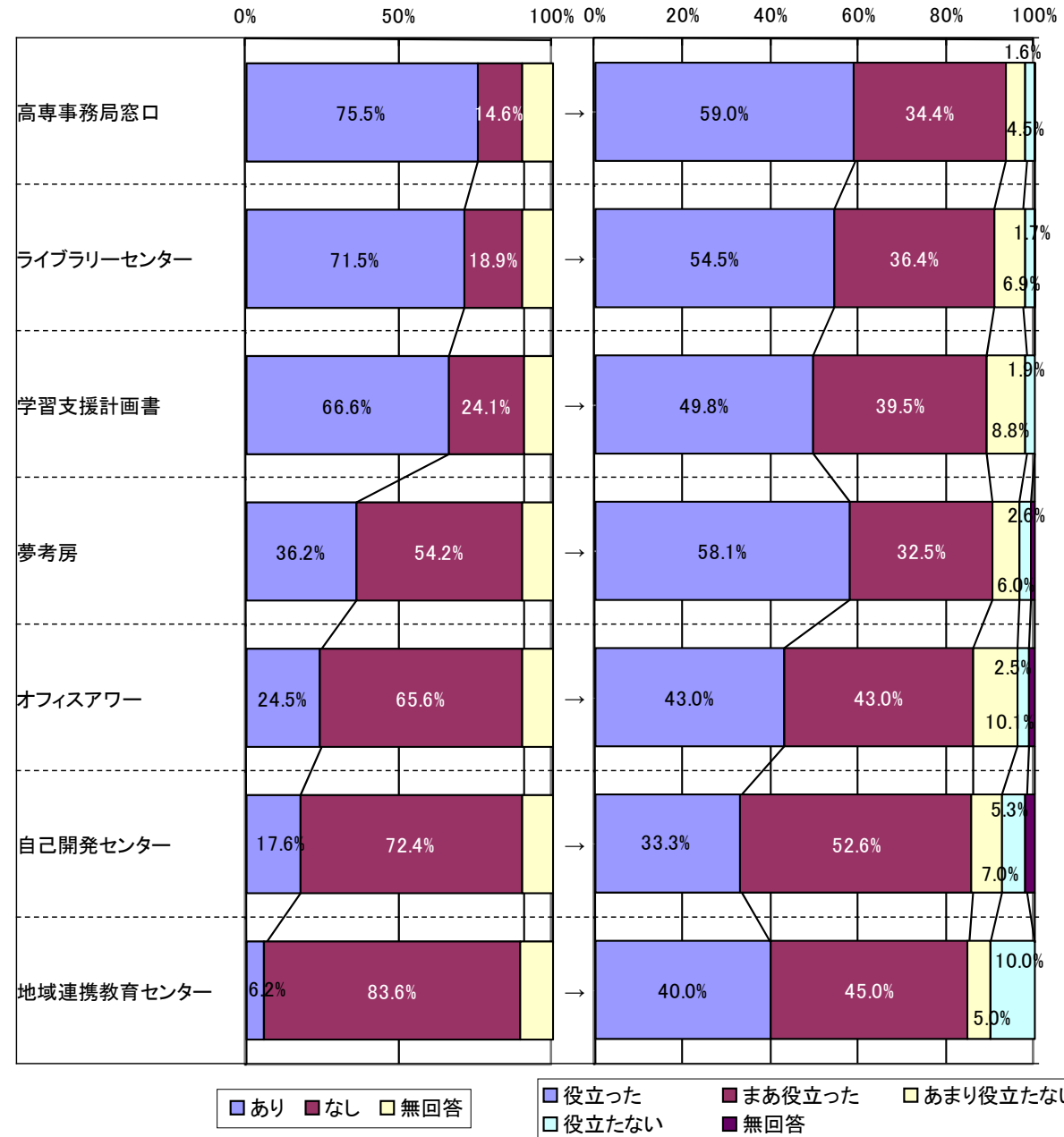
学生サポートに関して

■学生サポートの満足度

- 学生サポートは利用の有無と、各サポートの利用者に満足度を聞いており、グラフは利用率によってソートしている。
- 利用率が最も高かったのは「高専事務局窓口」の75.5%であり、次いで、「ライブラリーセンター」が71.5%、「学習支援計画書」が66.6%となっていた。
- 一方、利用率が最も低かったのは「地域連携教育センター」の6.2%であり、「自己開発センター」が17.6%、「オフィスアワー」が24.5%となっていた。
- 各サポートの利用者の満足度を見ると、すべてで8割以上が肯定的な意見であり、満足度は高いと言える。中でも「高専事務局窓口」の満足度は93.4%と高く、「ライブラリーセンター」が90.9%、「夢考房」が90.6%と、3項目が9割を超える高い満足度となっていた。

■学生サポートの利用の有無(左グラフ)と満足度(右グラフ)

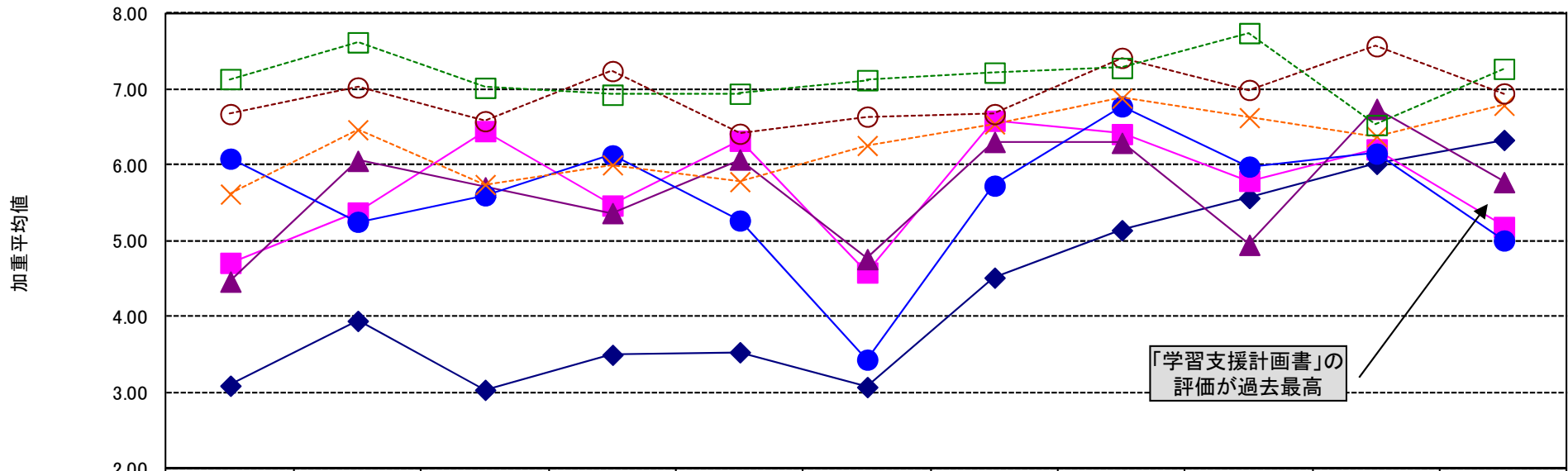
(※満足度は利用者からの結果)



■ 学生サポートの満足度(利用者のみ)の年度別比較

- 学生サポートの満足度を年度別に比較したところ、「事務局窓口」「ライブラリーセンター」「学習支援計画書」は前回は上回っていた。特に「学習支援計画書」はH25から評価が上がる傾向が継続しており、今回は過去最高の評価となった。
- 上記の3項目以外はすべて前回の評価を下回っていたが、いずれもH28からH29にかけては評価が上がっており、変化の幅の違いはあるものの、ここ3年間はよく似た評価となっている。しかし、「オフィスアワー」と「地域連携教育センター」は前回からの低下がやや大きく、H26以降では最も低い評価となっていた。

■ 学生サポート評価 年度別比較

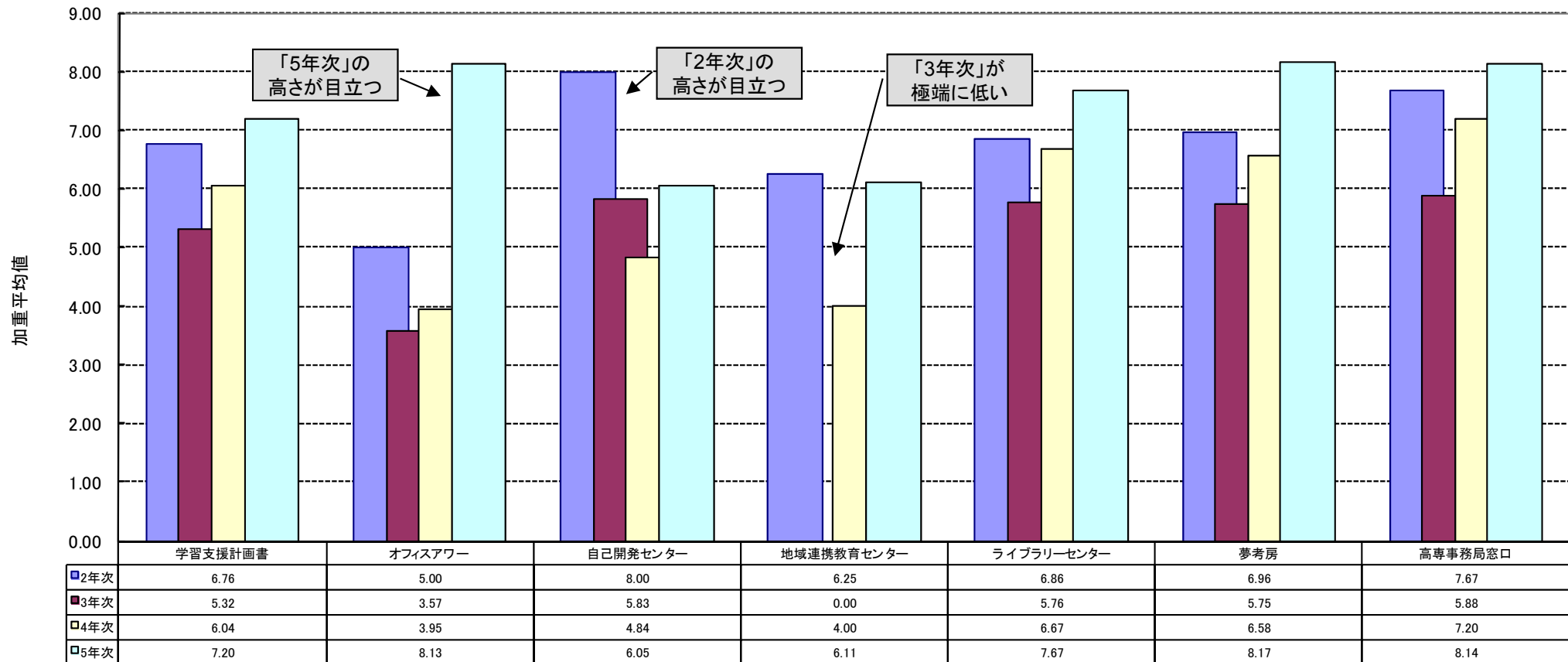


	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
◆ 学習支援計画書	3.08	3.94	3.03	3.49	3.53	3.07	4.51	5.14	5.56	6.01	6.33
■ オフィスアワー	4.71	5.37	6.44	5.46	6.32	4.58	6.58	6.40	5.79	6.20	5.18
▲ 自己開発センター	4.46	6.05	5.70	5.36	6.07	4.75	6.30	6.29	4.94	6.74	5.77
● 地域連携教育センター	6.08	5.25	5.60	6.12	5.26	3.43	5.72	6.77	5.97	6.15	5.00
× ライブラリーセンター	5.61	6.46	5.74	6.00	5.78	6.25	6.54	6.88	6.62	6.37	6.78
○ 夢考房	6.67	7.02	6.57	7.23	6.41	6.63	6.67	7.41	6.99	7.56	6.94
□ 事務局窓口	7.13	7.61	7.01	6.92	6.94	7.11	7.21	7.27	7.74	6.52	7.26

■ 学生サポートの満足度(利用者のみ)の学年別比較

- 学生サポート満足度の学年別比較を見ると、多くの項目で学年間の差はそれほど大きくなかったが、「5年次」で高い評価のものも多く見られた。「5年次」は「自己開発センター」と「地域連携教育センター」以外の項目で最も高く、特に「オフィスアワー」の高さが目立っていた。
- 上記以外では「2年次」が「自己開発センター」を高く評価している点が目立っていた。逆に低い評価が目立っていたのは「3年次」の「地域連携教育センター」であったが、これは「3年次」の利用者が2名しかいないために、結果が極端に出たものである。ただし、「3年次」はほとんどの項目で最も評価が低く、学生サポートに対する不満が強そうであった。

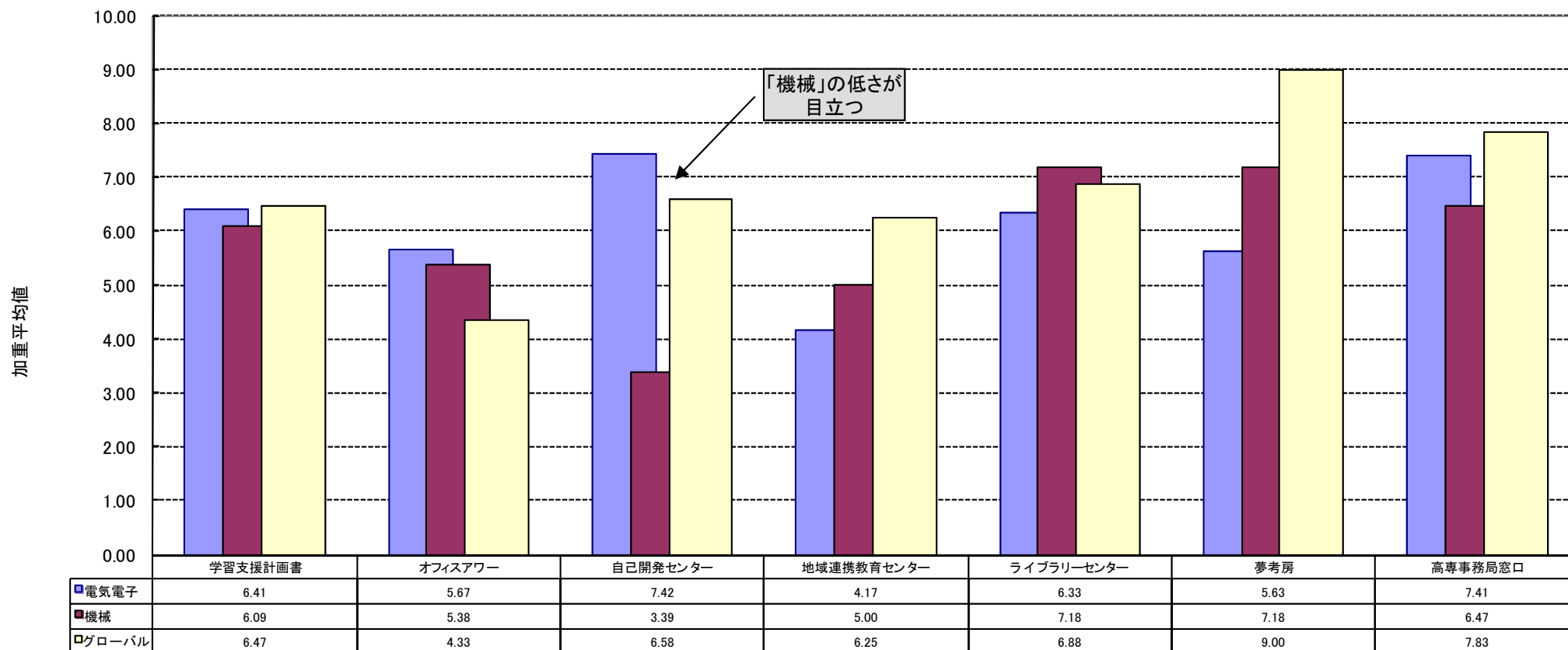
■ 学生サポート評価 学年別比較



■ 学生サポートの満足度(利用者のみ)の学科別比較

- 学生サポートの満足度を学科別に比較したところ、全体的に高かったり低かったりという学科は見られなかった。
- 「学習支援計画書」だけは学科間の差が小さかったが、その他の項目のいくつかは学科間の差が大きかった。「自己開発センター」の「機械」の評価は、他の2学科に比べて目立って低かった。そして、「夢考房」では「グローバル」の高さが目立っており、「電気電子」が低かった。

■ 学生サポート評価 学科別比較

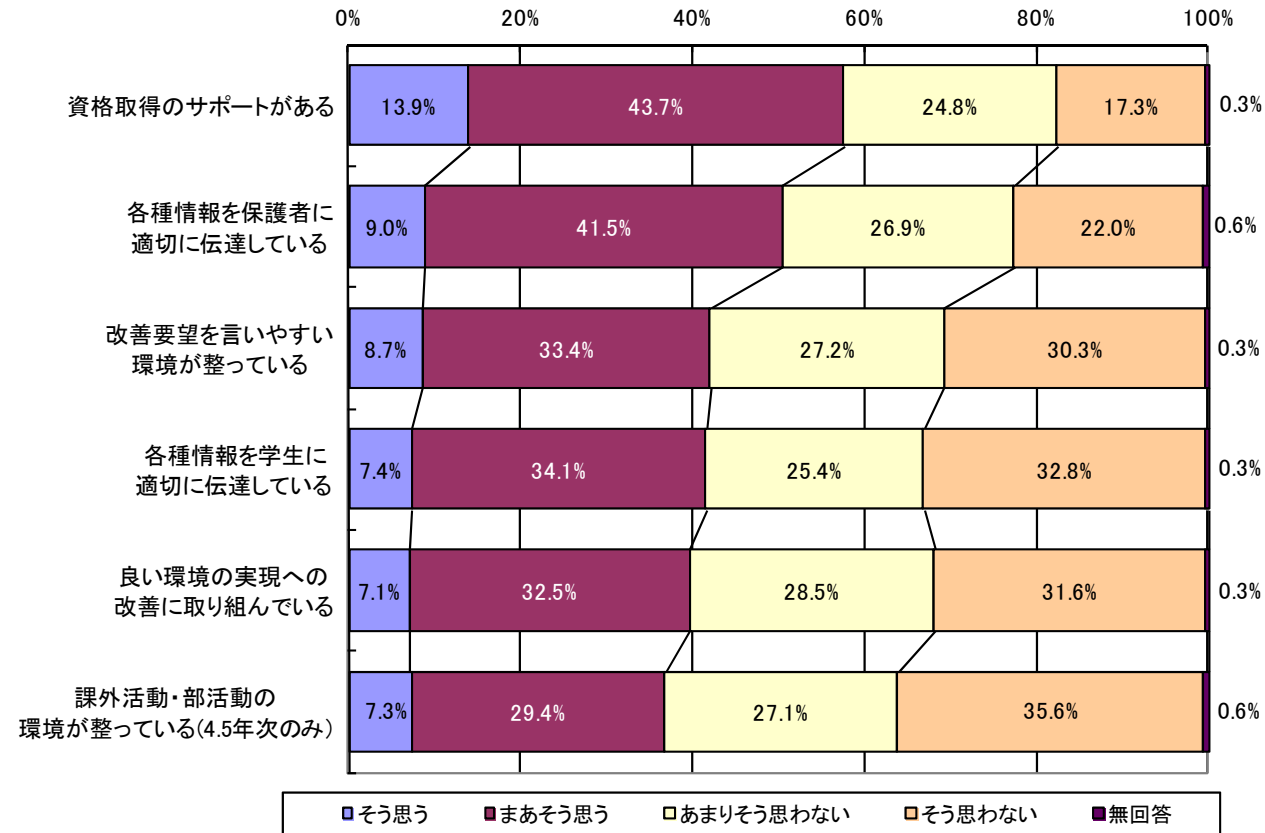


学校の取り組み姿勢に関して

■学校の取り組み姿勢の評価

- 学校の取り組み姿勢の評価に関して、「そう思う」と「まあそう思う」の合計で比較したところ、「資格取得のサポートがある」では57.6%が肯定的な意見であり、最も評価が高かった。
- 上記に次いで、「各種情報を保護者に適切に伝達している」が50.5%、「改善要望を言いやすい環境が整っている」が42.1%で続いていた。
- 一方、最も評価が低かったのは4、5年次のみ聞いた「課外活動・部活動の環境が整っている」で、肯定的な意見は36.7%であり、「そう思わない」という回答が35.6%と、多さが目立っていた。

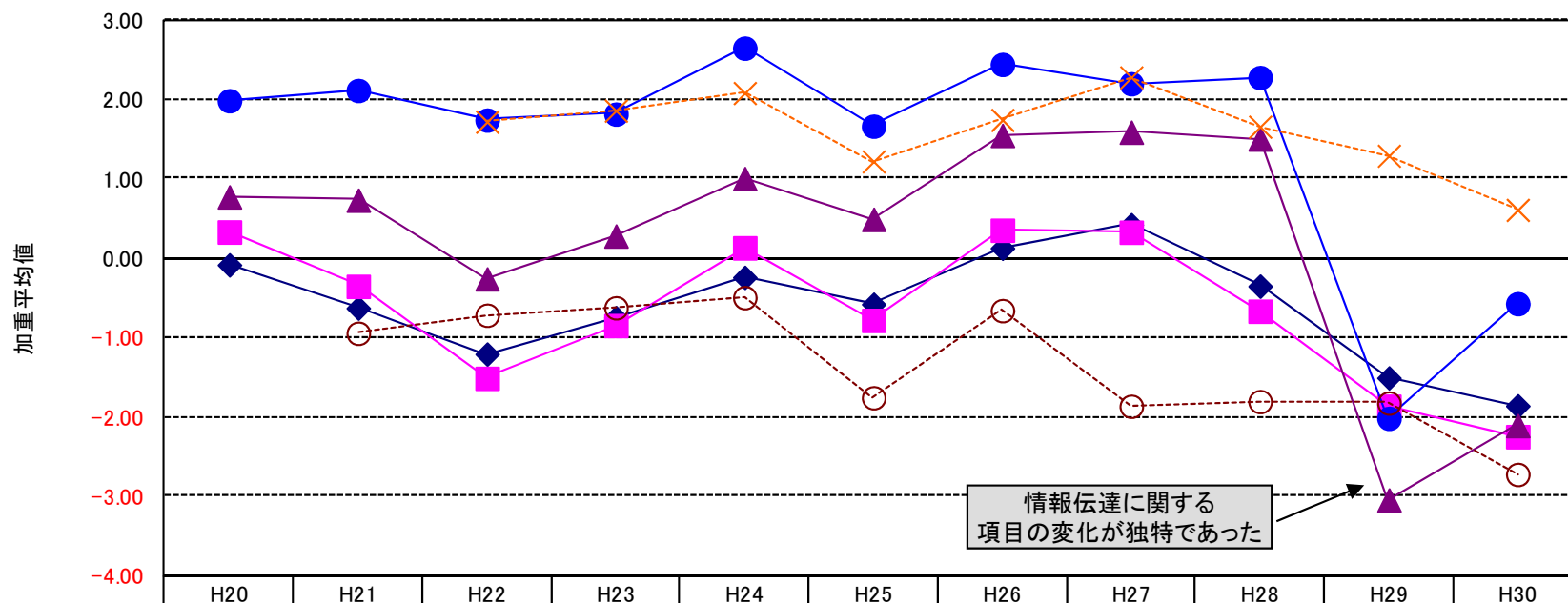
■学校の取り組み姿勢の評価(在学生のみ)



■学校の取り組み姿勢の評価の年度別比較

- 学校の取り組み姿勢の経年変化を見たところ、情報伝達に関する2つの項目の変化が特徴的であった。これは「各種情報を学生に適切に伝達している」と「各種情報を保護者に適切に伝達している」の2項目であるが、今回は「大雪の日の休校案内の不備」があったために非常に厳しい評価となっていたが、今回は評価が上がっていた。ただし、H28以前に比べると非常に低い評価と言える。
- 上記2項目以外はいずれも前回は下回っており、「資格取得のサポートがある」「改善要望を言いやすい環境が整っている」「良い環境の実現への改善に取り組んでいる」の3項目はH27から継続的に低下する傾向が続いており、いずれも過去最低の評価となった。また、「課外活動・部活動の環境が整っている」もH27からの横這いが低下に転じており、こちらも過去最低の評価となった。

■学校の取り組み姿勢の評価(在学生のみ) 年度別比較

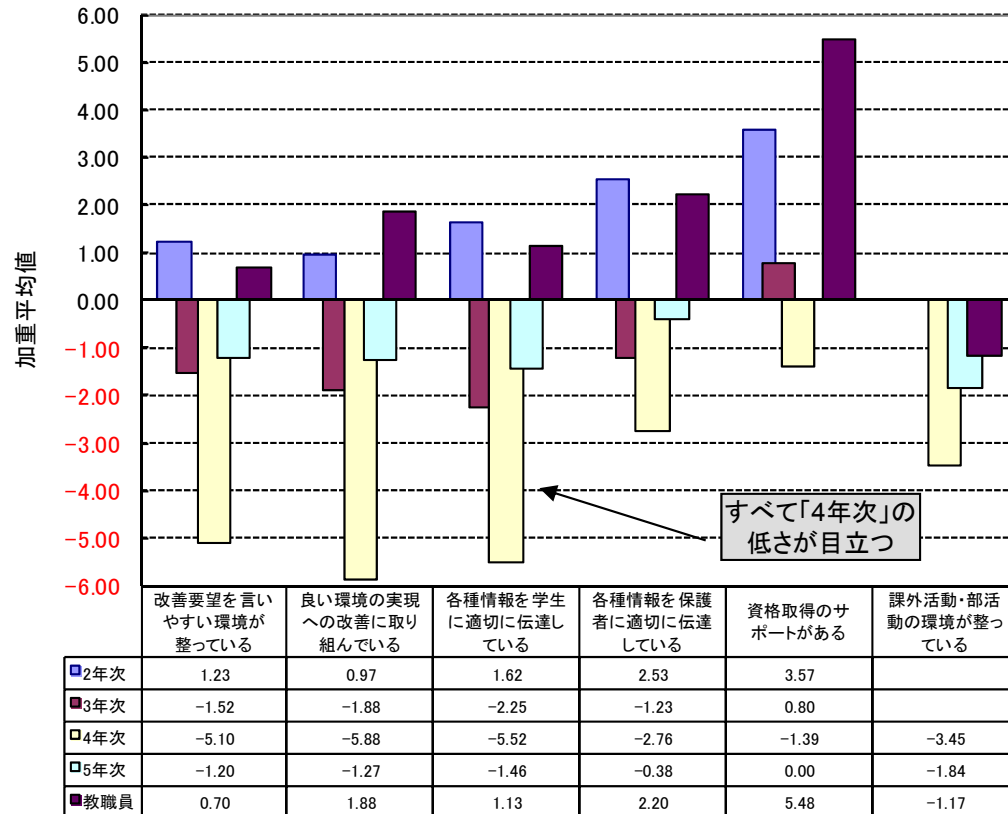


	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
改善要望を言いやすい環境が整っている	-0.09	-0.63	-1.21	-0.75	-0.24	-0.58	0.12	0.42	-0.36	-1.51	-1.86
良い環境の実現への改善に取り組んでいる	0.33	-0.36	-1.52	-0.85	0.13	-0.79	0.35	0.32	-0.67	-1.87	-2.25
各種情報を学生に適切に伝達している	0.77	0.73	-0.26	0.28	1.00	0.49	1.54	1.58	1.50	-3.05	-2.11
各種情報を保護者に適切に伝達している	1.98	2.11	1.74	1.81	2.64	1.66	2.44	2.19	2.27	-2.02	-0.58
資格取得のサポートがある			1.72	1.86	2.08	1.22	1.74	2.28	1.65	1.29	0.61
課外活動・部活動の環境が整っている		-0.95	-0.72	-0.63	-0.50	-1.76	-0.66	-1.87	-1.81	-1.83	-2.73

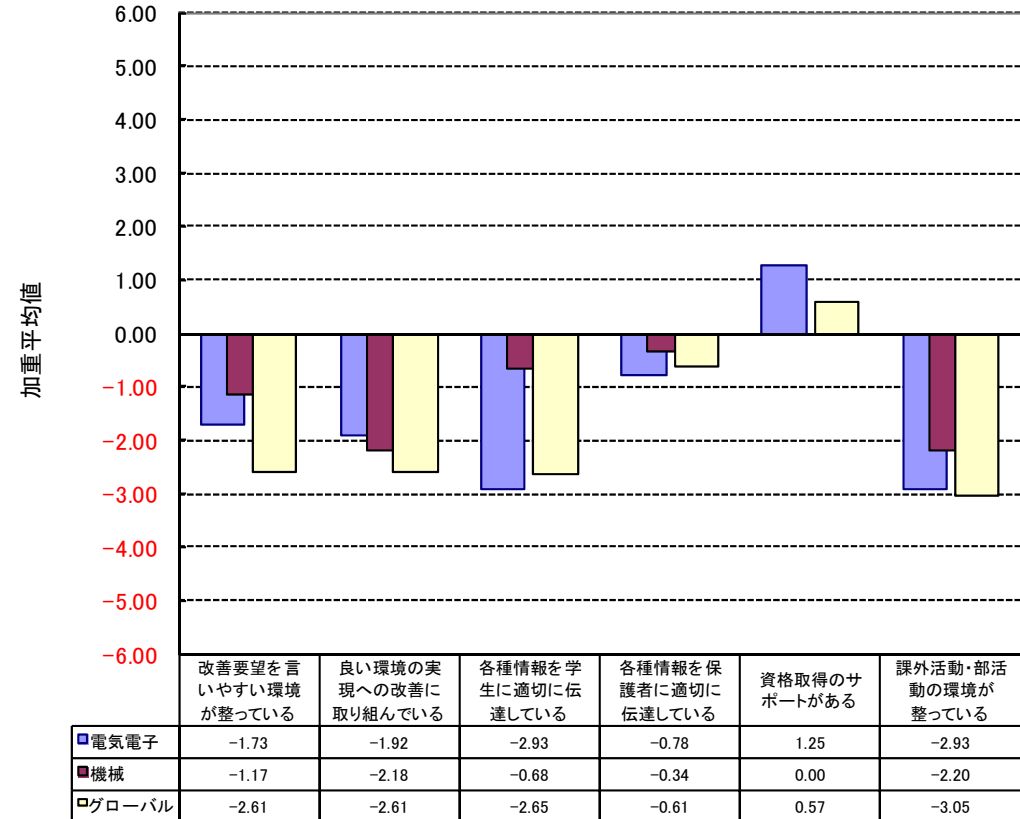
■学校の取り組み姿勢の評価の学年別比較、学科別比較

- 学校の取り組み姿勢の学年別比較を見ると、学生の中では全項目で「2年次」が最も高く、すべての項目がプラススコアとなっていた。一方、「3年次」から「5年次」はほとんどマイナススコアであり、特に「4年次」はすべての項目が大きくマイナススコアとなっており、最も低い評価であった。
- 「教職員」の評価を見ると、「課外活動・部活動の環境が整っている」は学生と同様にマイナスとなっているものの、他の項目はプラスであった。中でも「資格取得のサポートがある」は非常に高い評価となっており、学生との意識の差が見られた。
- 学科別の比較を見ると、特定の学科が高かったり、低かったりという傾向は見られず、ほとんどの項目で3学科共にマイナススコアとなっていた。大きな差ではないが「グローバル」の評価が全体的に低めで、「機械」がやや高めであった。

■学校の取り組み姿勢の評価 学年別比較(教職員も含む)



■学校の取り組み姿勢の評価 学科別比較

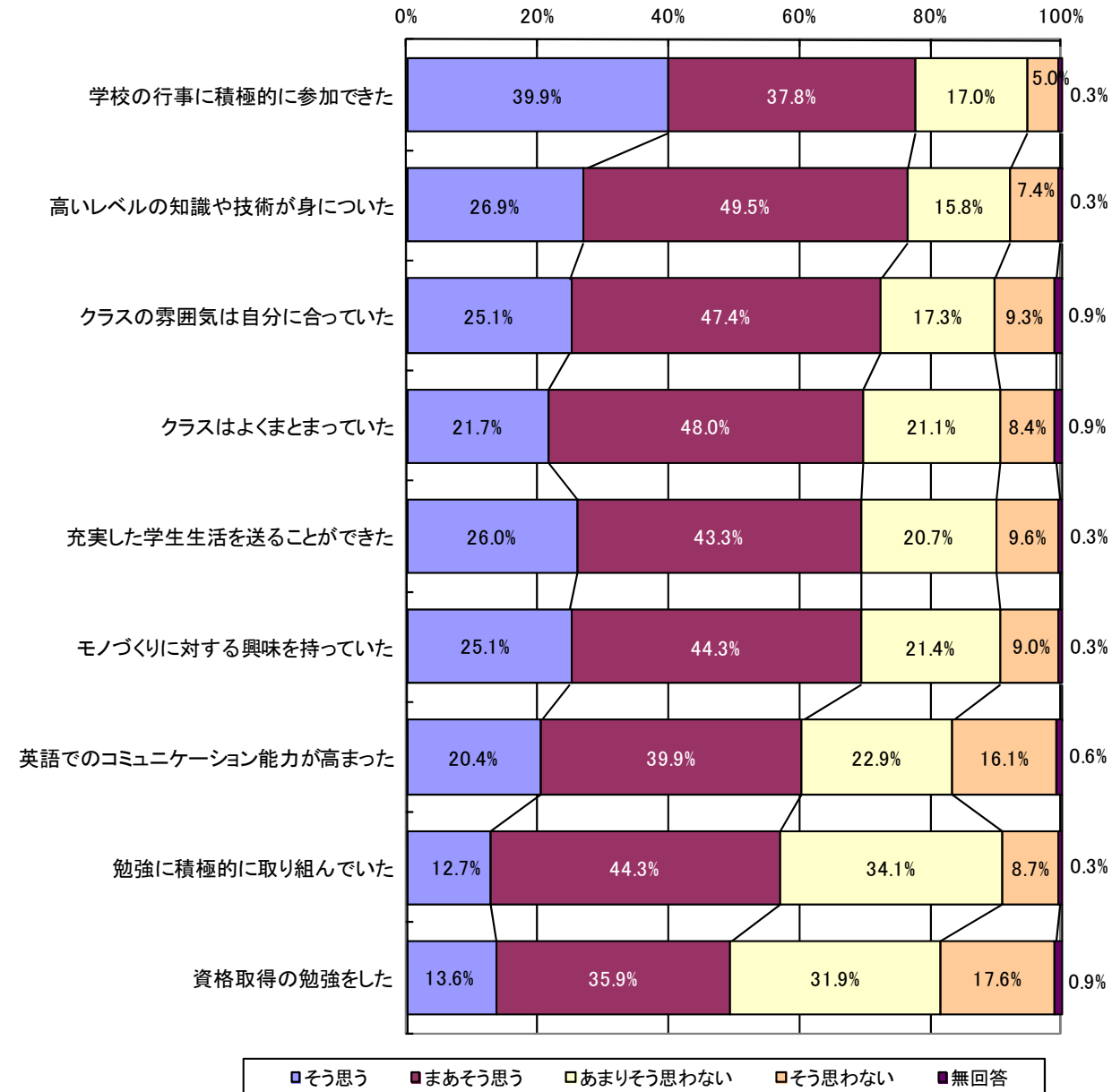


学校での過ごし方に関して

■学校での過ごし方

- 学校での過ごし方で「そう思う」と「まあそう思う」の合計を見ると、「学校の行事に積極的に参加できた」が77.7%で最も多く、特に「そう思う」が39.9%で多さが目立っていた。
- 上記に次いで、「高いレベルの知識や技術が身についた」が76.4%、「クラスの雰囲気は自分に合っていた」が72.5%、「クラスはよくまとまっていた」が69.7%で続いており、クラスの状況は良さそうであった。
- 一方、肯定的な意見が最も少なかったのは「資格取得の勉強をした」の49.5%であり、半数は否定的な意見であった。そして、「勉強に積極的に取り組んでいた」が57.0%、「英語でのコミュニケーション能力が高まった」が60.3%で続いていた。

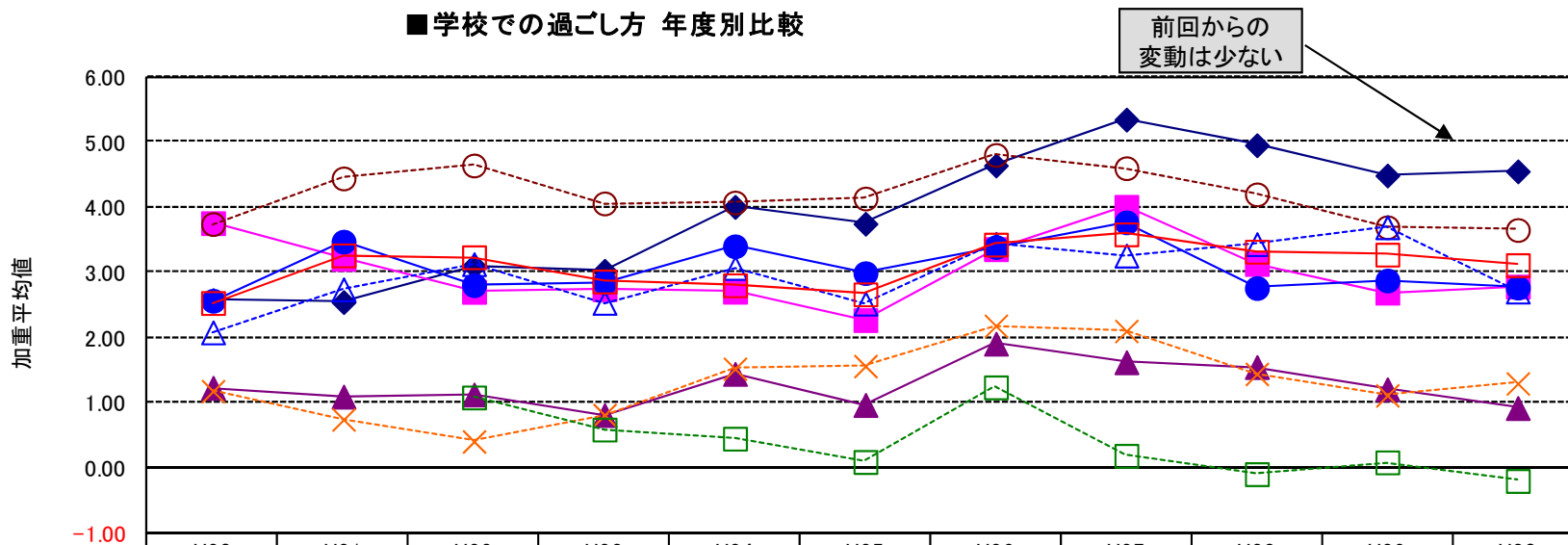
■学校での過ごし方(在学生のみ)



■学校での過ごし方の年度別比較

- 学校での過ごし方を年度別に比較したところ、前回からの変動はあまり大きくはなかった。
- 前回は上回ったのは「学校の行事に積極的に参加できた」「充実した学生生活を送ることができた」「英語でのコミュニケーション能力が高まった」の3項目であったが、上昇はいずれもわずかであり、ほぼ横這いと言える変化であった。
- 上記以外の項目はすべて前回は下回っていたが、ほとんどの項目はわずかな変化であった。唯一、大きく低下していたのは「クラスはよくまとまっていた」であり、H26以降で最も低くなっていた。他には、「高いレベルの知識や技術が身についた」「資格取得の勉強をした」がわずかな差ではあるが過去最低のスコアとなっていた。

■学校での過ごし方 年度別比較

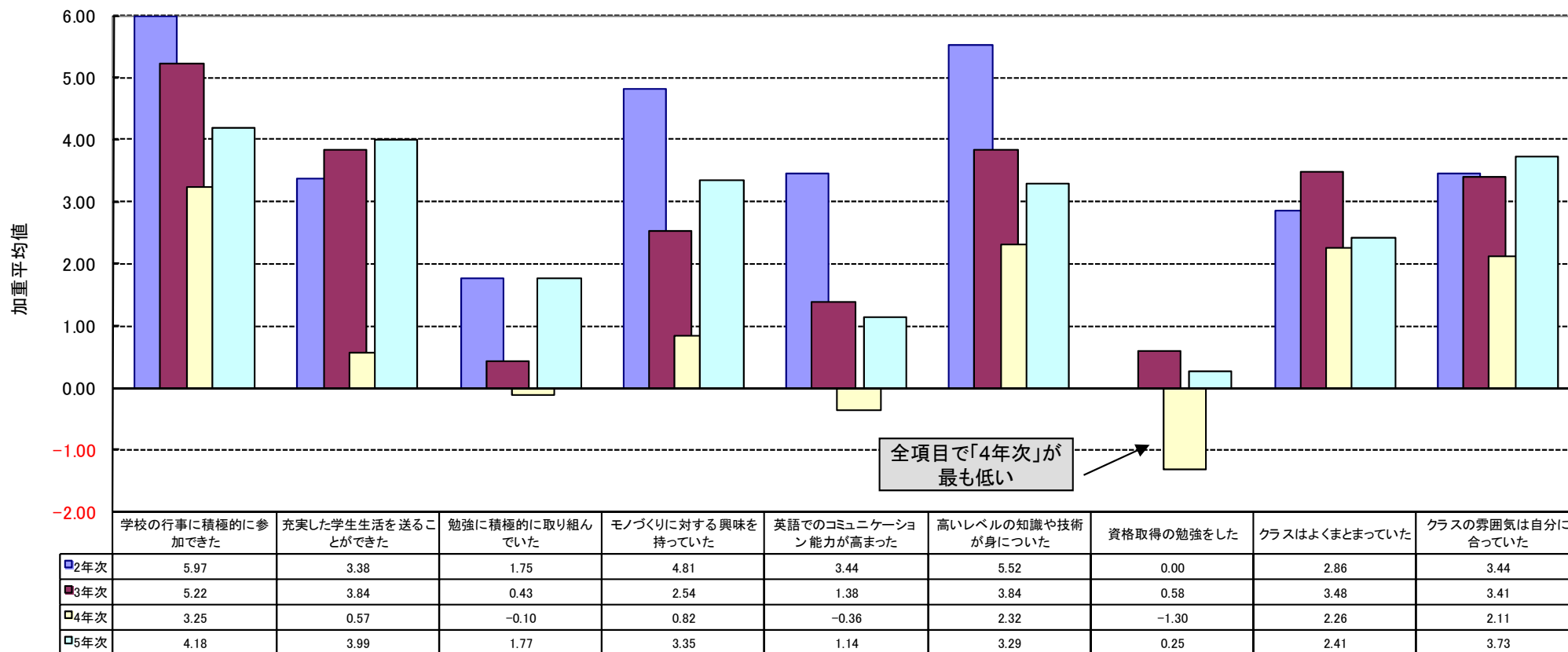


項目	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
● 学校の行事に積極的に参加できた	2.57	2.54	3.10	3.02	4.00	3.75	4.64	5.34	4.95	4.49	4.55
■ 充実した学生生活を送ることができた	3.75	3.21	2.70	2.74	2.70	2.27	3.36	4.01	3.13	2.69	2.78
▲ 勉強に積極的に取り組んでいた	1.23	1.09	1.12	0.81	1.44	0.96	1.90	1.62	1.54	1.20	0.92
● モノづくりに対する興味を持っていた	2.56	3.47	2.80	2.84	3.40	2.99	3.39	3.77	2.76	2.87	2.76
× 英語でのコミュニケーション能力が高まった	1.18	0.74	0.40	0.81	1.52	1.56	2.18	2.10	1.44	1.11	1.29
○ 高いレベルの知識や技術が身についた	3.74	4.44	4.64	4.06	4.07	4.13	4.80	4.60	4.20	3.69	3.65
□ 資格取得の勉強をした			1.08	0.59	0.45	0.09	1.23	0.18	-0.10	0.08	-0.20
△ クラスはよくまとまっていた	2.08	2.74	3.13	2.53	3.07	2.52	3.44	3.26	3.43	3.69	2.70
□ クラスの雰囲気は自分に合っていた	2.53	3.26	3.23	2.86	2.80	2.66	3.43	3.58	3.32	3.27	3.11

■学校での過ごし方の学年別比較

- 学校での過ごし方の学年別比較を見ると、すべての項目で「4年次」の評価が最も低かった。特に「資格取得の勉強をした」は大きくマイナスとなっており、他に「英語でのコミュニケーション能力が高まった」「勉強に積極的に取り組んでいた」もマイナスとなっており、「充実した学生生活を送ることができた」の低さも気になる点と言える。
- 一方、全体的に高いという学年は見られなかったが、「2年次」はいくつか高いものが見られ、特に「モノづくりに対する興味を持っていた」「英語でのコミュニケーション能力が高まった」「高いレベルの知識や技術が身についた」の高さが目立っていた。
- 学年間の差が小さかったのは「クラスはよくまとまっていた」であった。また、「クラスの雰囲気は自分に合っていた」は「4年次」はやや低いものの、他の学年の差は小さかった。

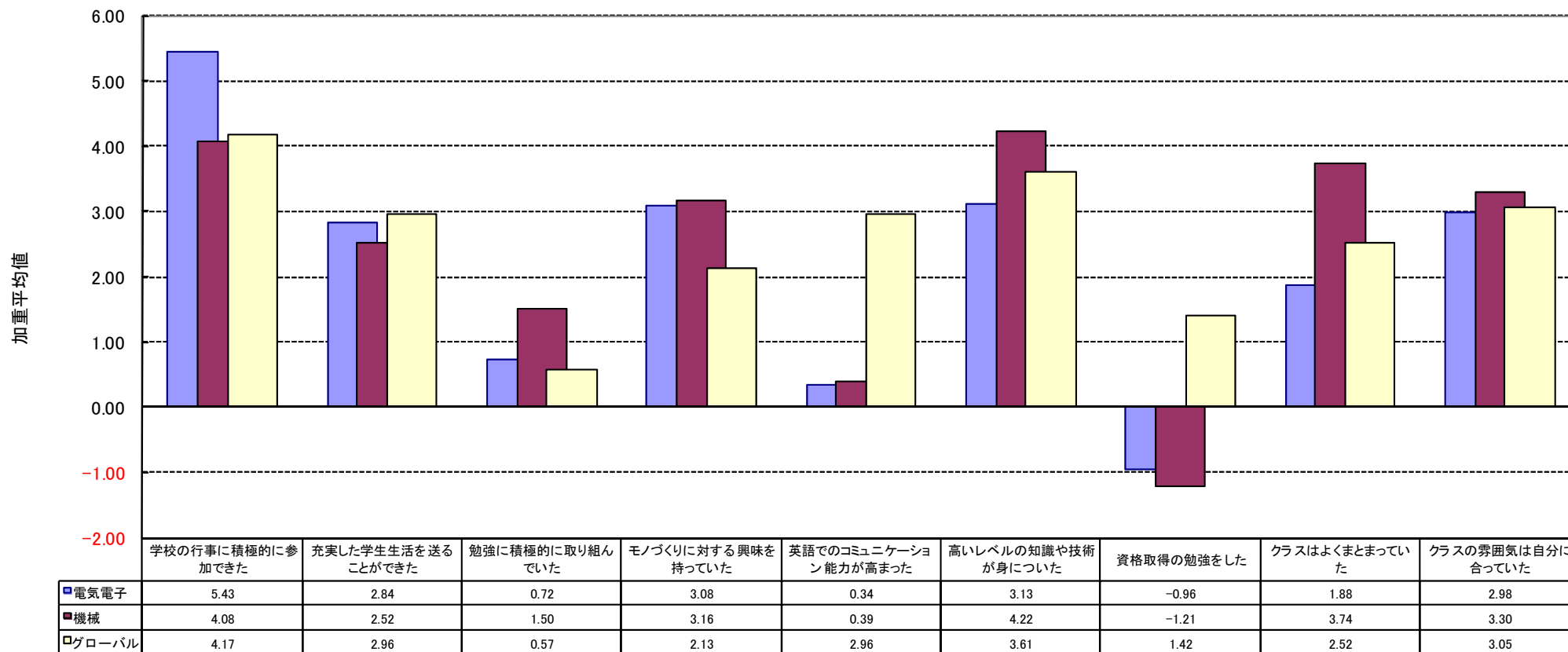
■学校での過ごし方 学年別比較



■学校での過ごし方の学科別比較

- 学校での過ごし方を学科別に比較すると、特定の学科が全体的に高かったり、低かったりという特徴は見られなかった。
- 「電気電子」は「学校の行事に積極的に参加できた」の高さが目立っていた。そして、「クラスはよくまとまっていた」がやや低いものの、その他には目立って高いもの、低いものは見られなかった。
- 「機械」は「勉強に積極的に取り組んでいた」「高いレベルの知識や技術が身についた」「クラスはよくまとまっていた」の高さが目立っており、「資格取得の勉強をした」がマイナスとなっていた。
- 3学科の中で「グローバル」は「英語でのコミュニケーション能力が高まった」が非常に高く、学科の特徴がうかがえた。また、「資格取得の勉強をした」は唯一のプラススコアとなっていた。そして、「モノづくりに対する興味を持っていた」はやや低かったものの、他に低いものは見られなかった。

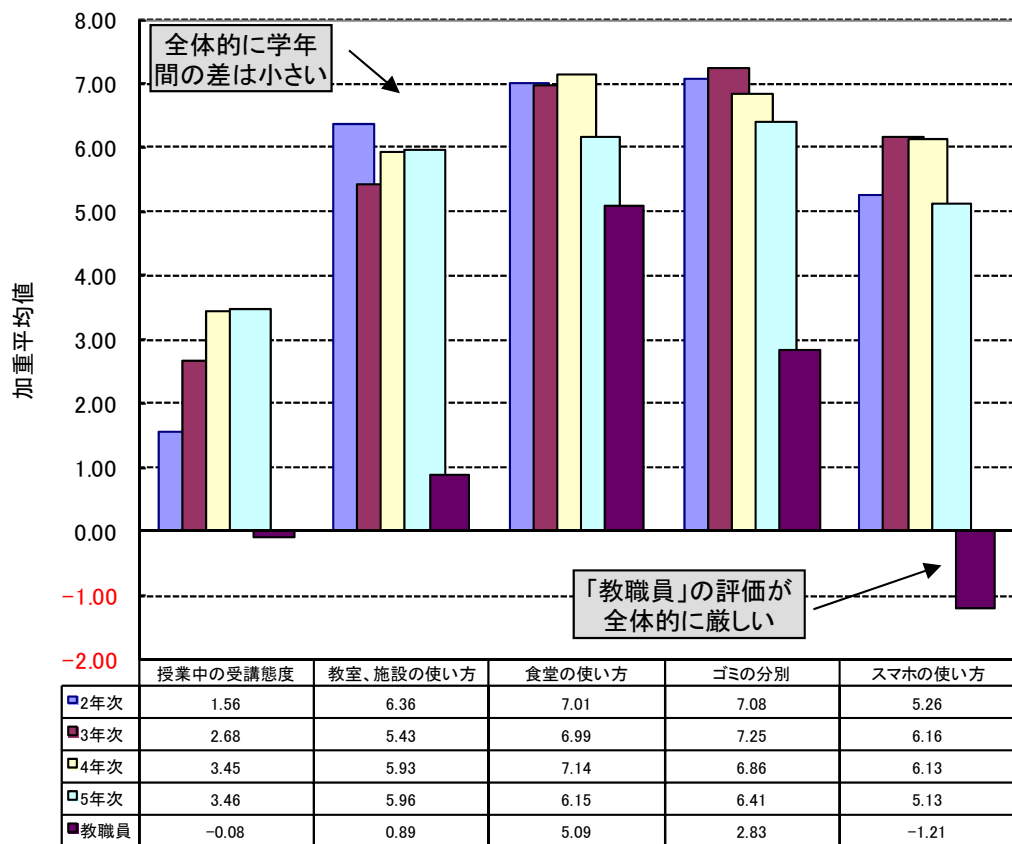
■学校での過ごし方 学科別比較



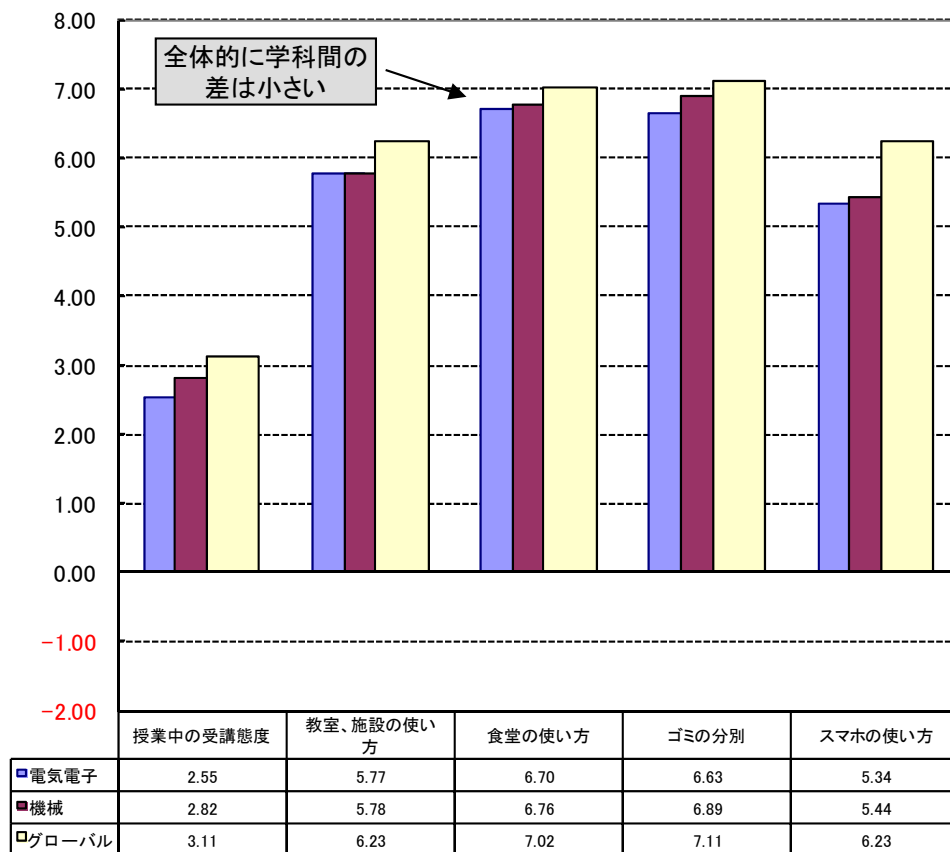
■学内での自分自身のマナーの学年別比較 学科別比較

- 自分自身のマナーの学年別比較を見ると、学生の中では学年間の差は小さく、学年との相関関係もほとんど見られなかった。やや差が大きかったのは「授業中の受講態度」であり、「2年次」が低めであった。
- 「教職員」にも学生のマナーを聞いているが、全体的に厳しい評価となっていた。特に「スマホの使い方」は大きくマイナススコアとなっており、学生との意識の差がうかがえた。また、「授業中の受講態度」「教室、施設の使い方」「ゴミの分別」も非常に厳しい評価をしていた。
- 学科別の比較では学科間の差は非常に少なかった。ただし、わずかな差ではあるが全項目で「グローバル」の自己評価が最も高く、「スマホの使い方」ではやや差がついていた。一方、こちらもわずかな差ではあるが、全項目で「電気電子」の自己評価が最も低くなっていた。

■学内での自分自身のマナー 学年別比較 (教職員も含む)



■学内での自分自身のマナー 学科別比較

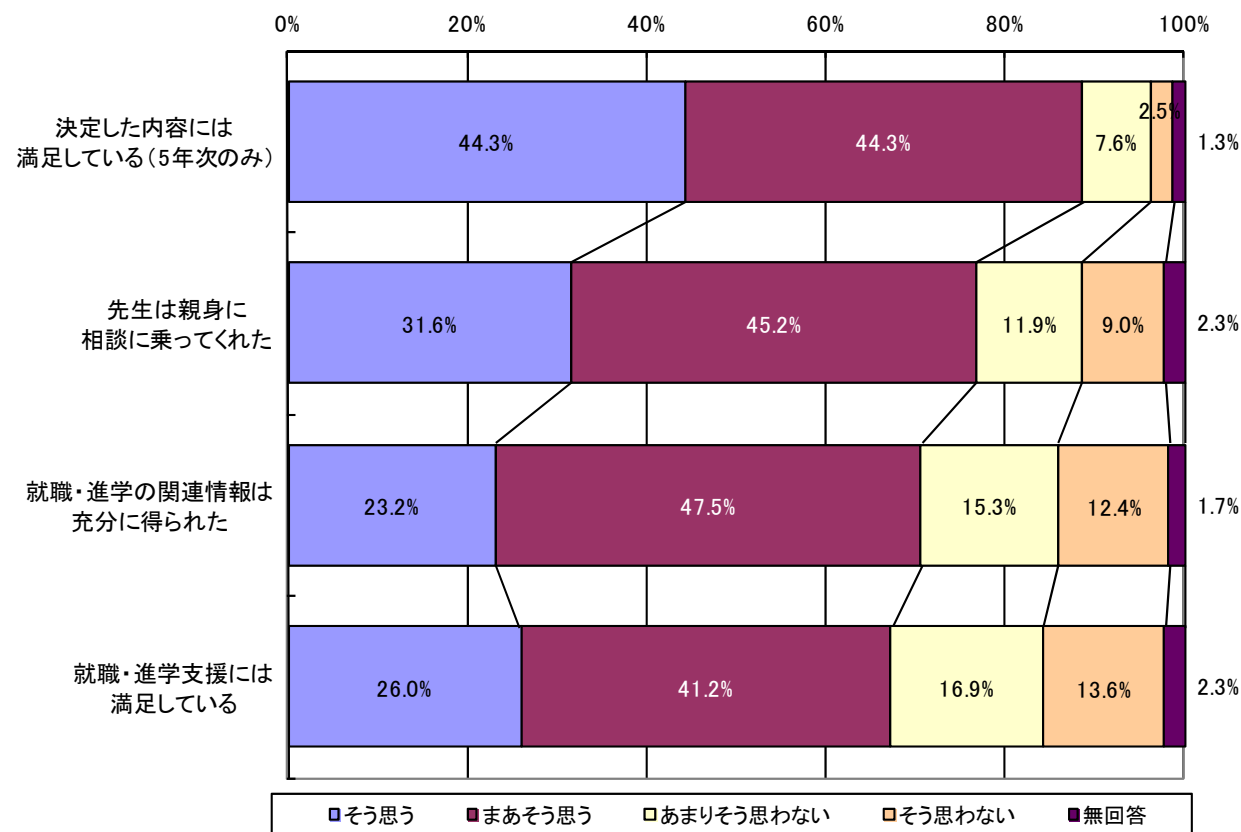


就職・進学支援に関して

■就職・進学支援に関して

- 「就職・進学支援」の評価は「4年次」と「5年次」のみに聞いている。
- 満足度が最も高かったのは、「5年次」にのみ聞いた「決定した内容には満足している」であり、88.6%が満足という回答であった。
- 上記に次いで、「先生は親身に相談に乗ってくれた」が76.8%、「就職・進学の関連情報は十分に得られた」が70.7%であった。
- 最も低かったのは「就職・進学支援には満足している」の67.2%であったが、7割近くが支援に満足し、9割近くが決定した内容に満足していることになる。

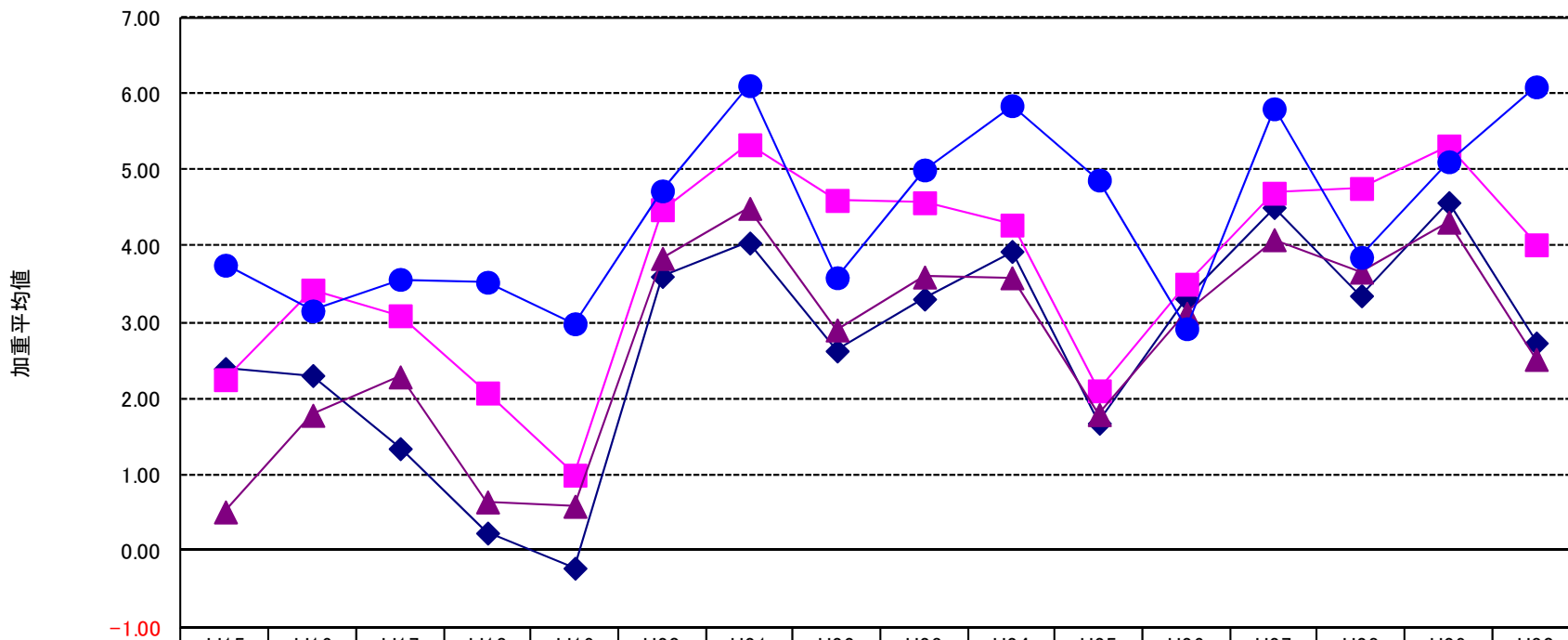
■就職・進学支援の評価(4年次、5年次のみ)



■就職・進学支援の評価の年度別比較

- 「就職・進学支援」に関する質問はH15から続けているが、H20に調査票を大幅に見直したため、一気に傾向が変わっている。
- 今回は「決定した内容には満足している」だけが前を上回り、H21に次いで過去2番目の高さとなっていた。
- 上記以外は前を上回っており、「就職・進学の関連情報は十分に得られた」と「就職、進学支援には満足している」はH26以降で最も低い満足度となった。

■就職・進学支援の評価 年度別比較

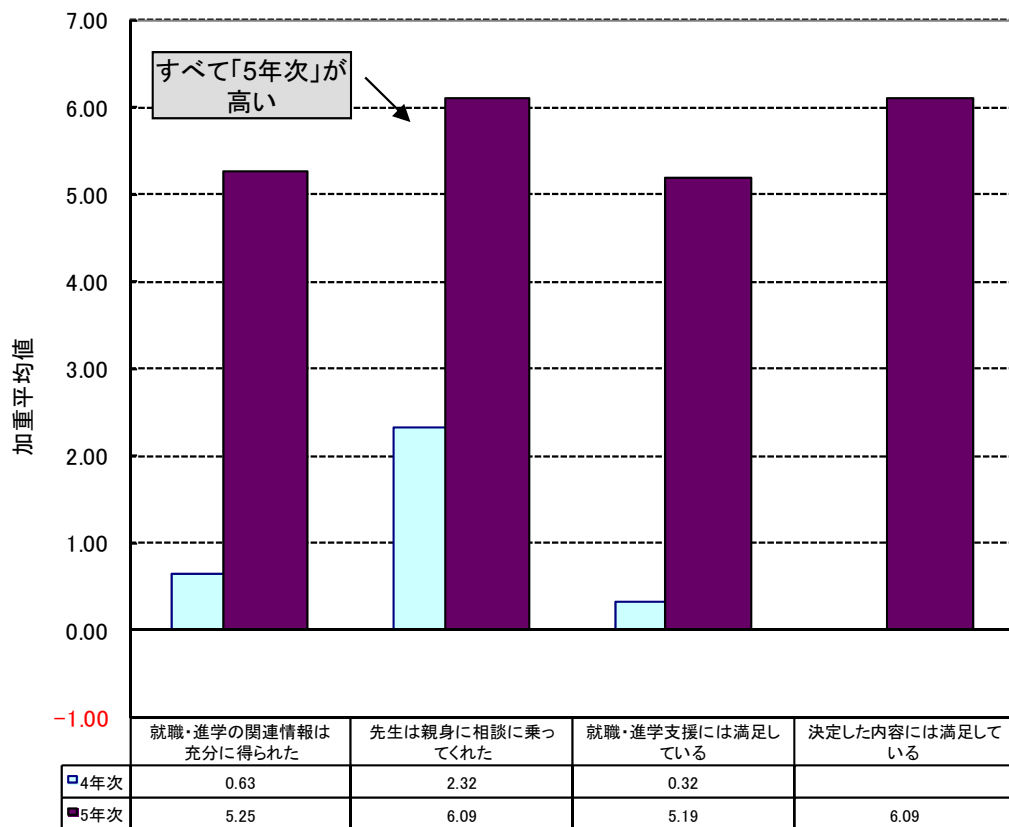


◆ 就職・進学の関連情報は十分に得られた	2.39	2.30	1.34	0.24	-0.23	3.60	4.04	2.63	3.31	3.93	1.68	3.31	4.51	3.35	4.57	2.73
■ 先生は親身に相談に乗ってくれた	2.25	3.42	3.09	2.07	1.00	4.48	5.33	4.60	4.57	4.28	2.10	3.50	4.69	4.76	5.31	4.02
▲ 就職・進学支援には満足している	0.51	1.78	2.28	0.64	0.59	3.84	4.49	2.90	3.59	3.58	1.79	3.12	4.08	3.66	4.31	2.51
● 決定した内容には満足している(5年次のみ)	3.75	3.15	3.56	3.53	2.98	4.72	6.11	3.59	5.00	5.84	4.87	2.92	5.80	3.85	5.11	6.09

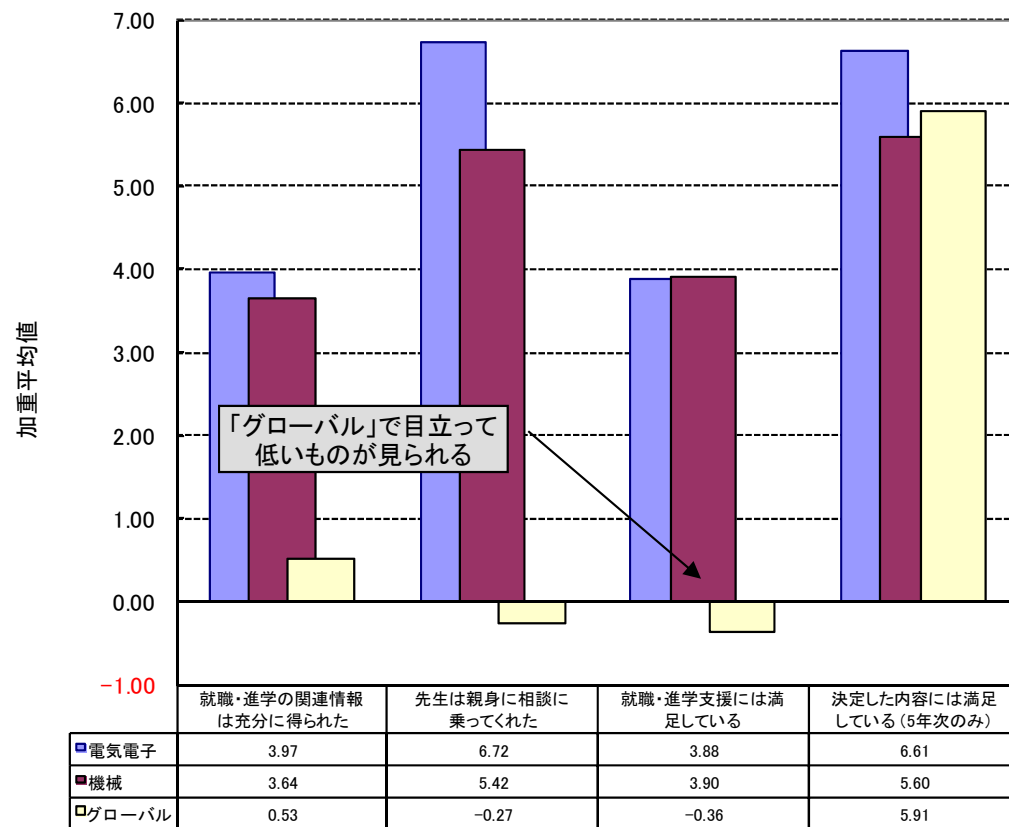
■就職・進学支援の評価の学年別比較 学科別比較

- 「就職・進学支援」を学年別に比較したところ、すべての項目で「5年次」の満足度の方が高く、「4年次」とは大きな差が見られた。
- 学科別の比較では、「グローバル」で目立って低いものが見られ、「就職・進学支援には満足している」と「先生は親身に相談に乗ってくれた」はマイナススコアとなっていた。ただし、「決定した内容には満足している」は低くはなく、結果的には大きな不満はなさそうであった。一方、全体的に高かったのは「電気電子」であり、「決定した内容」に対する満足度も最も高かった。

■就職・進学支援の評価 学年別比較



■就職・進学支援の評価 学科別比較

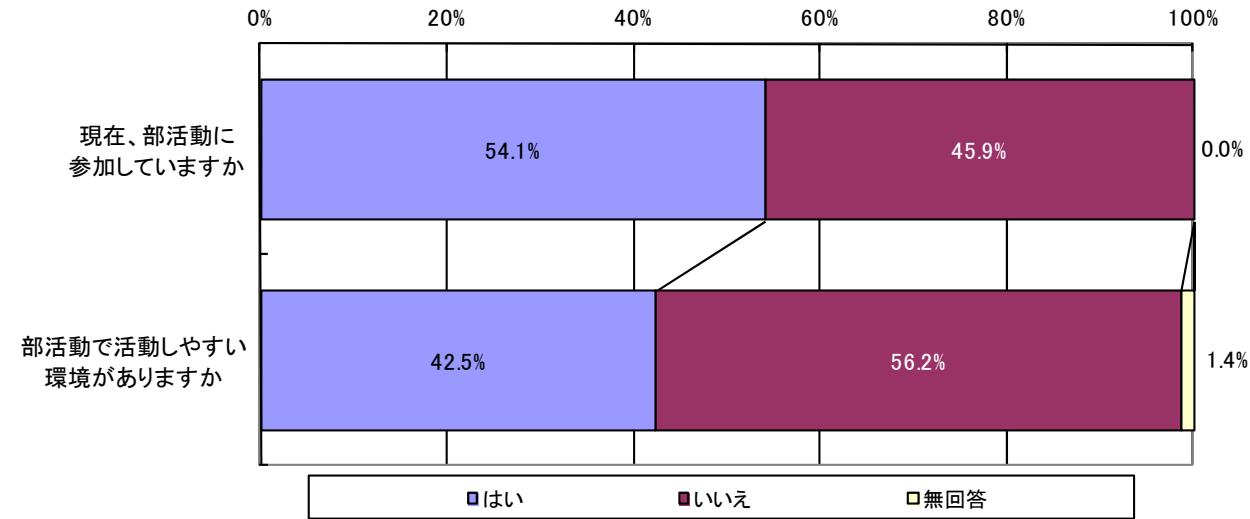


部活動に関して

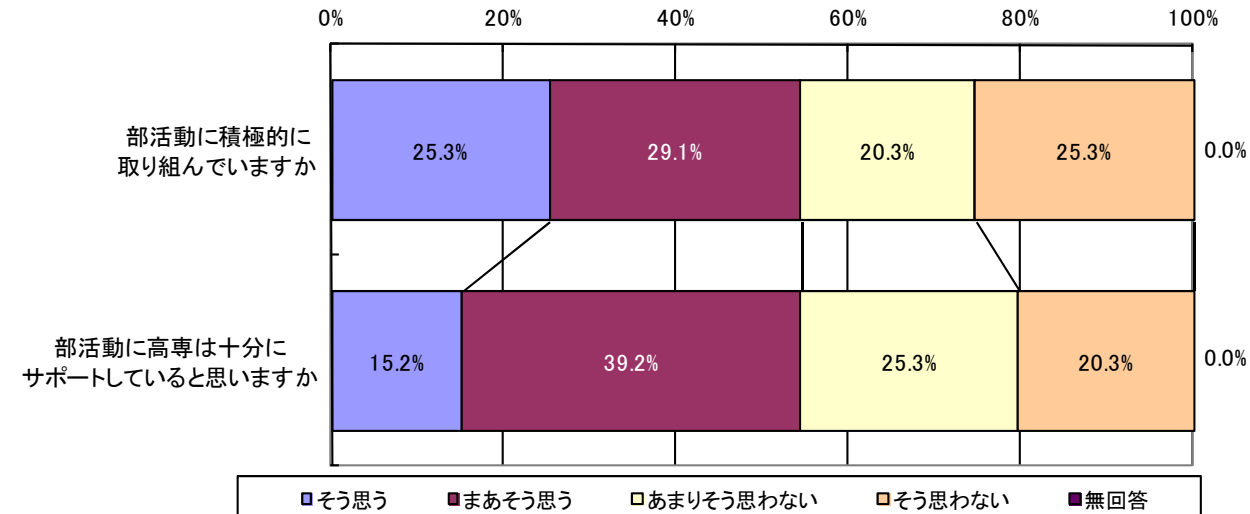
■部活動の現状に関して

- 「部活動の現状」は「2年次」と「3年次」にのみ聞いており、「現状評価」は部活動の参加者だけの回答を集計している。
- 「現在、部活動に参加していますか」に対しては、54.1%が「はい」と答えており、「部活動で活動しやすい環境がありますか」では42.5%が「はい」と答えていた。
- 部活動参加者に対して「部活動に積極的に取り組んでいますか」と聞いたところ、「そう思う」が25.3%、「まあそう思う」が29.1%であり、合わせると54.4%が積極的であるという答えであった。そして、「部活動に高専は十分にサポートしていると思いますか」に関しても54.4%が肯定的な意見であったが、「そう思う」という回答は15.2%であり、改善の余地はありそうであった。

■部活動の現状に関して(2~3年次のみ)



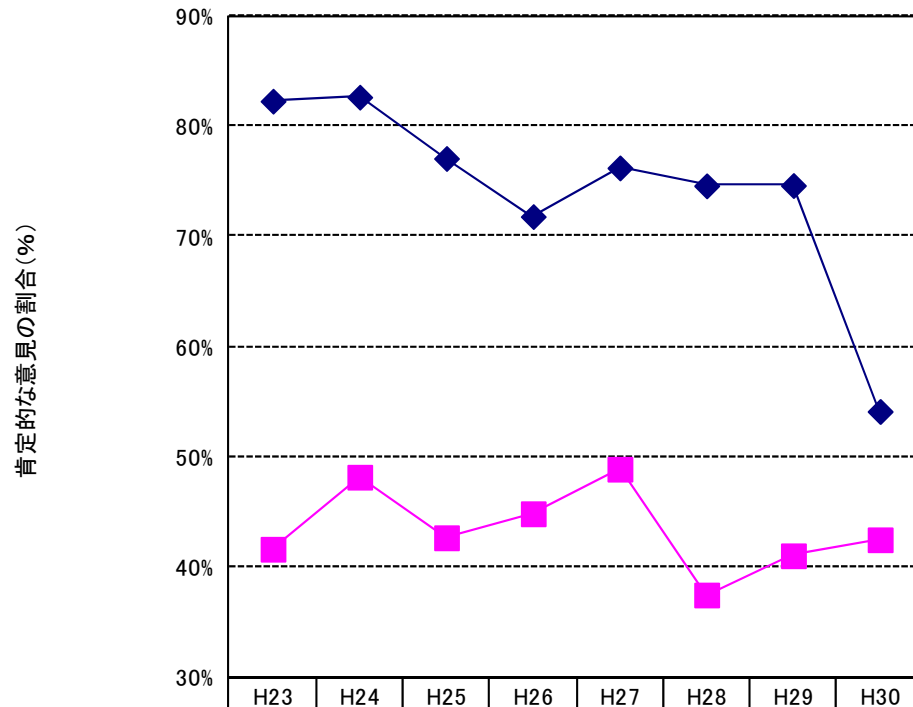
■部活動参加者の現状評価(2~3年次、部活動参加者のみ)



■部活動の現状の年度別比較

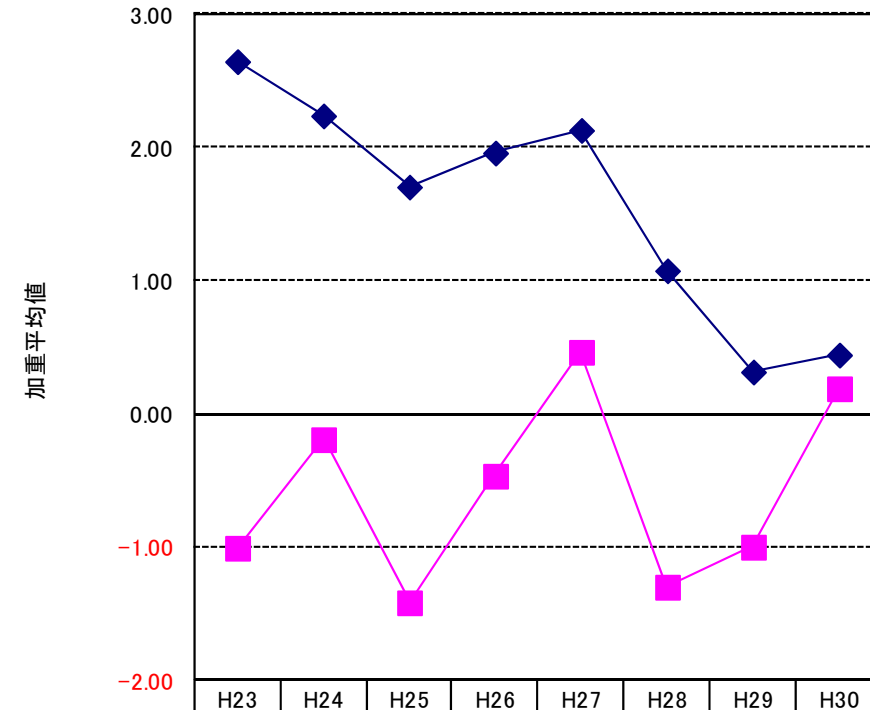
- 年度別の比較を見ると、「部活動の参加者」は前回から20.5ポイントと大きく低下していた。ただし、「部活動で活動しやすい環境がある」という回答は、前回は1.5ポイント上回ってほぼ横這いであり、環境は大きく変わっていないようであった。
- 「部活動に積極的に取り組んでいますか」はH27から急激な低下傾向が続いていたが、今回はわずかに前を上回り、ほぼ横這い状態で低下傾向が止まった。そして、「部活動に高専は十分にサポートしていると思いますか」は前回のマイナスからプラスに転じており、評価はこれまでで2番目の高さとなっていた。ただし、わずかなプラスであり、決して高い評価と言えるものではなかった。

■部活動の現状に関して(2~3年次のみ) 年度別比較



◆ 現在、部活動に参加していますか	82.3%	82.6%	77.1%	71.8%	76.2%	74.6%	74.6%	54.1%
◆ 部活動で活動しやすい環境がありますか	41.6%	48.1%	42.6%	44.8%	48.9%	37.5%	41.0%	42.5%

■部活動参加者の現状評価(2~3年次、部活動参加者のみ) 年度別比較

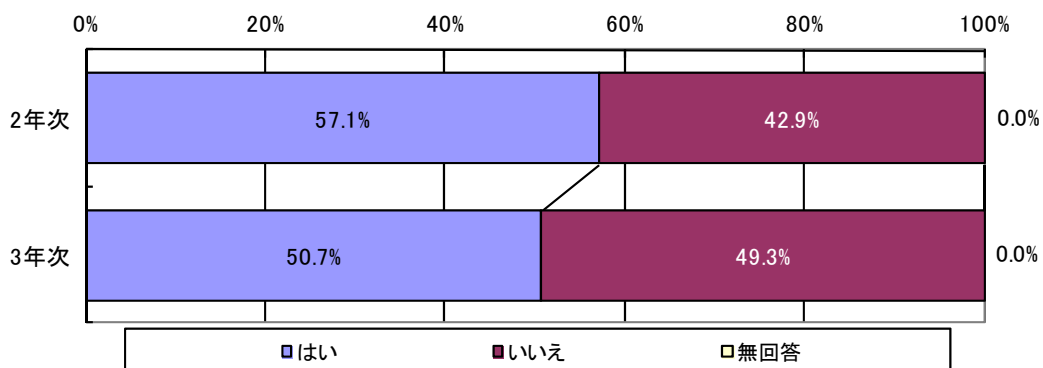


◆ 部活動に積極的に取り組んでいますか	2.65	2.24	1.70	1.96	2.13	1.08	0.32	0.44
◆ 部活動に高専は十分にサポートしていると思いますか	-1.01	-0.19	-1.42	-0.47	0.46	-1.30	-1.00	0.19

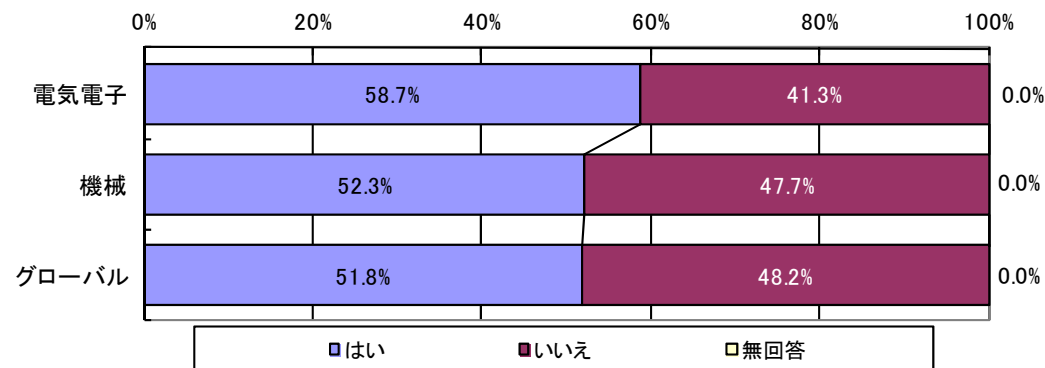
■部活動の現状の学年別比較 学科別比較

- 学年別に「部活動の参加者」を比べると、「2年次」が57.1%、「3年次」が50.7%であり、「2年次」の方が少し高かった。そして、「部活動で活動しやすい環境がありますか」に関しても、「2年次」の方が肯定的な意見がやや多かった。
- 学科別に「部活動の参加者」を比較すると、「電気電子」が58.7%とやや多く、「機械」(52.3%)と「グローバル」(51.8%)の差はほとんど見られなかった。そして、「部活動の環境」の評価に対しては、「機械」が52.3%とやや評価が高く、最も低い「グローバル」(33.9%)との差は18.4ポイントであった。

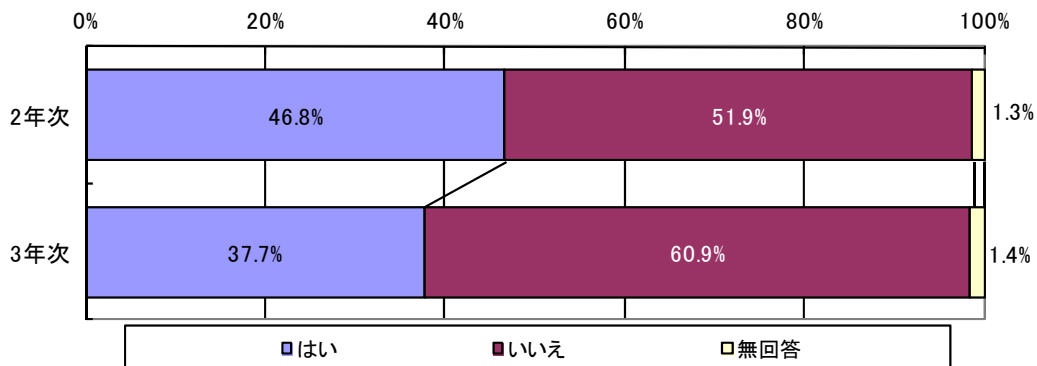
■現在、部活動に参加していますか 学年別比較



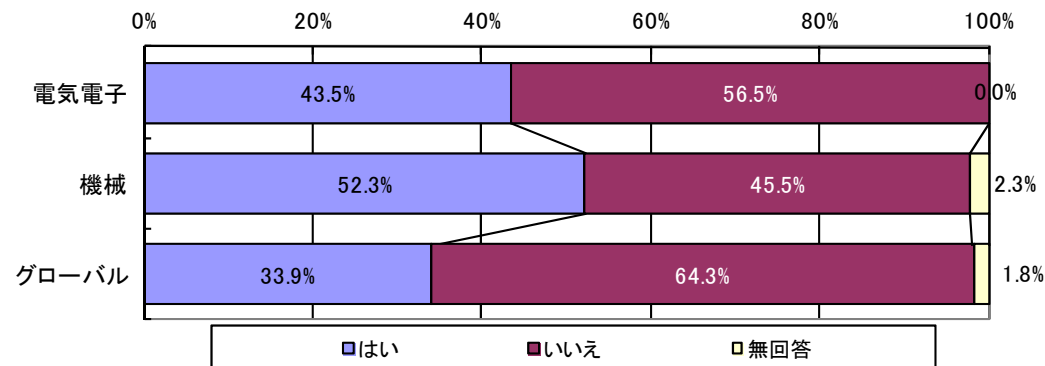
■現在、部活動に参加していますか 学科別比較



■部活動で活動しやすい環境がありますか 学年別比較



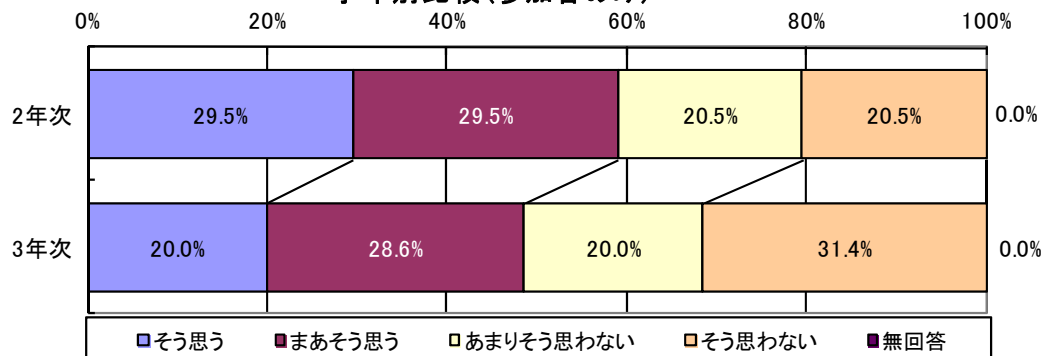
■部活動で活動しやすい環境がありますか 学科別比較



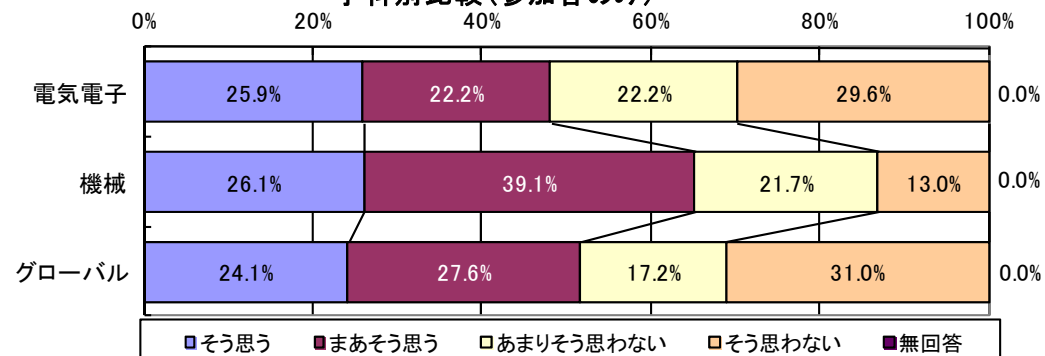
■部活動参加者の現状評価の学年別比較 学科別比較

- 「部活動への積極性」の肯定的な意見を学年別に比較すると、「2年次」が59.0%、「3年次」が48.6%であった。そして、「高専のサポート」でも「2年次」の方が肯定的な意見が多く59.1%であり、「3年次」は48.6%であった。
- 「部活動への積極性」の肯定的な意見を学科別に見ると、「機械」が65.2%であり、他の学科と比べると積極性の高さが目立っていた。次いで、「グローバル」が51.7%、「電気電子」が48.1%であり、最大で17.1ポイントの差がついていた。
- 「高専のサポート」の肯定的な意見でも「機械」が65.2%と満足度の高さが目立っていた。次いで、「電気電子」が51.8%、「グローバル」が48.3%であり、この2学科の差はわずかであった。

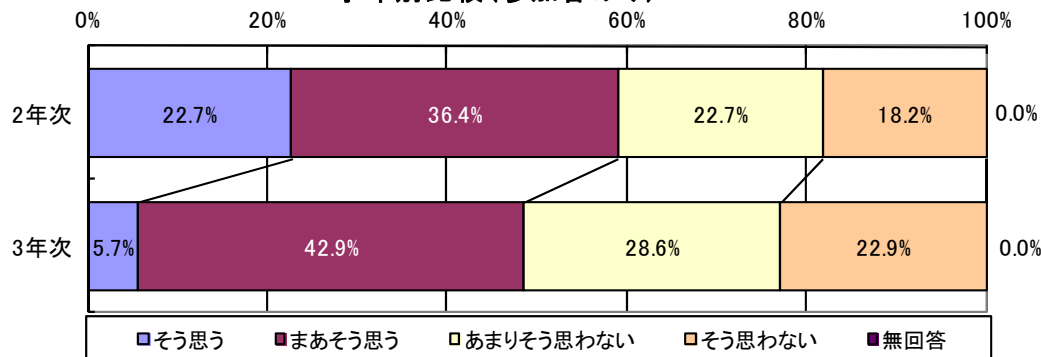
■部活動に積極的に取り組んでいますか
学年別比較(参加者のみ)



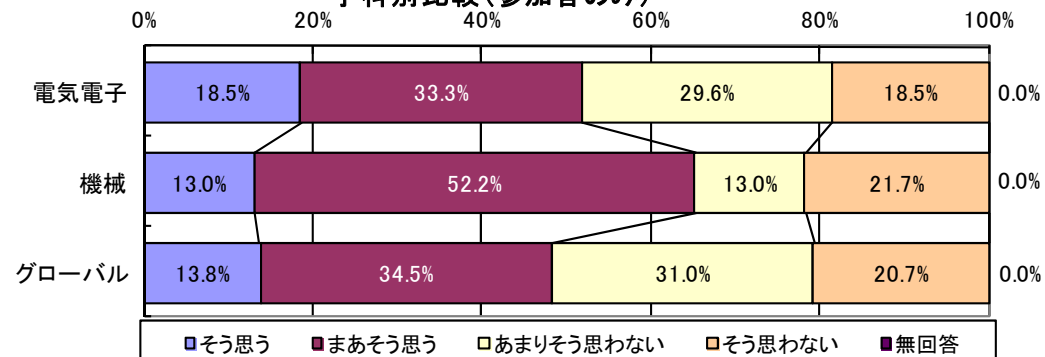
■部活動に積極的に取り組んでいますか
学科別比較(参加者のみ)



■部活動に高専は十分にサポートしていると思いますか
学年別比較(参加者のみ)



■部活動に高専は十分にサポートしていると思いますか
学科別比較(参加者のみ)

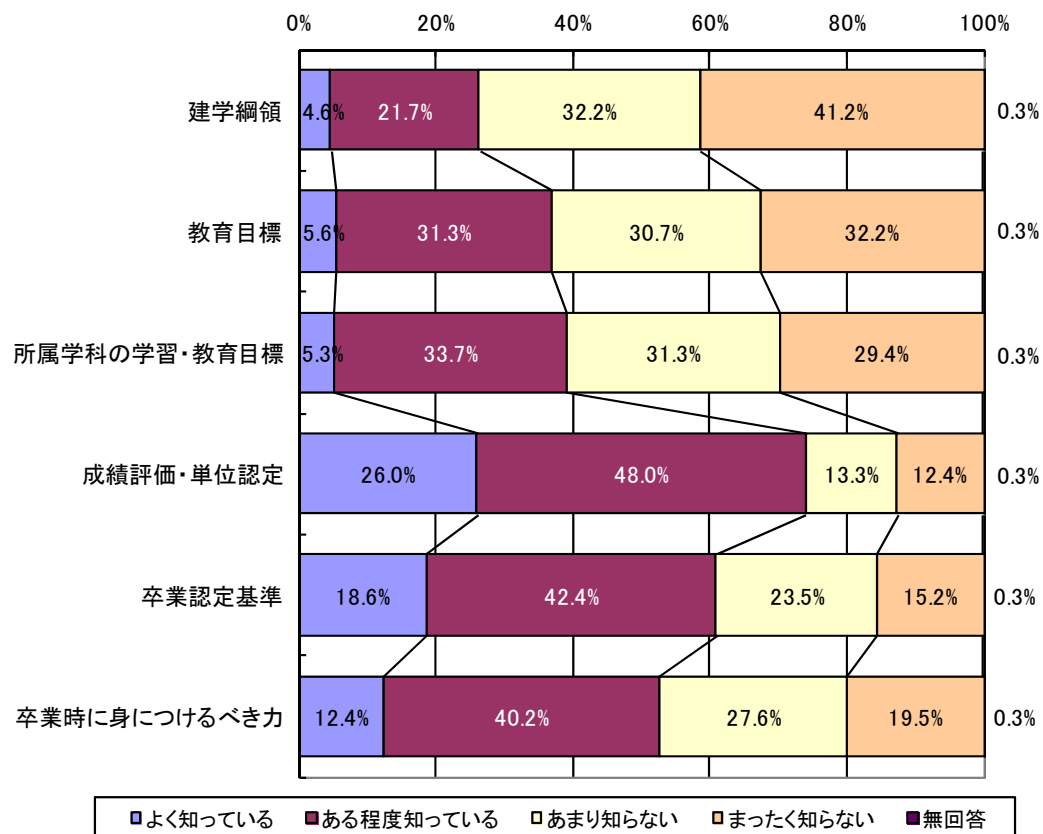


ICTの目的・目標に関して

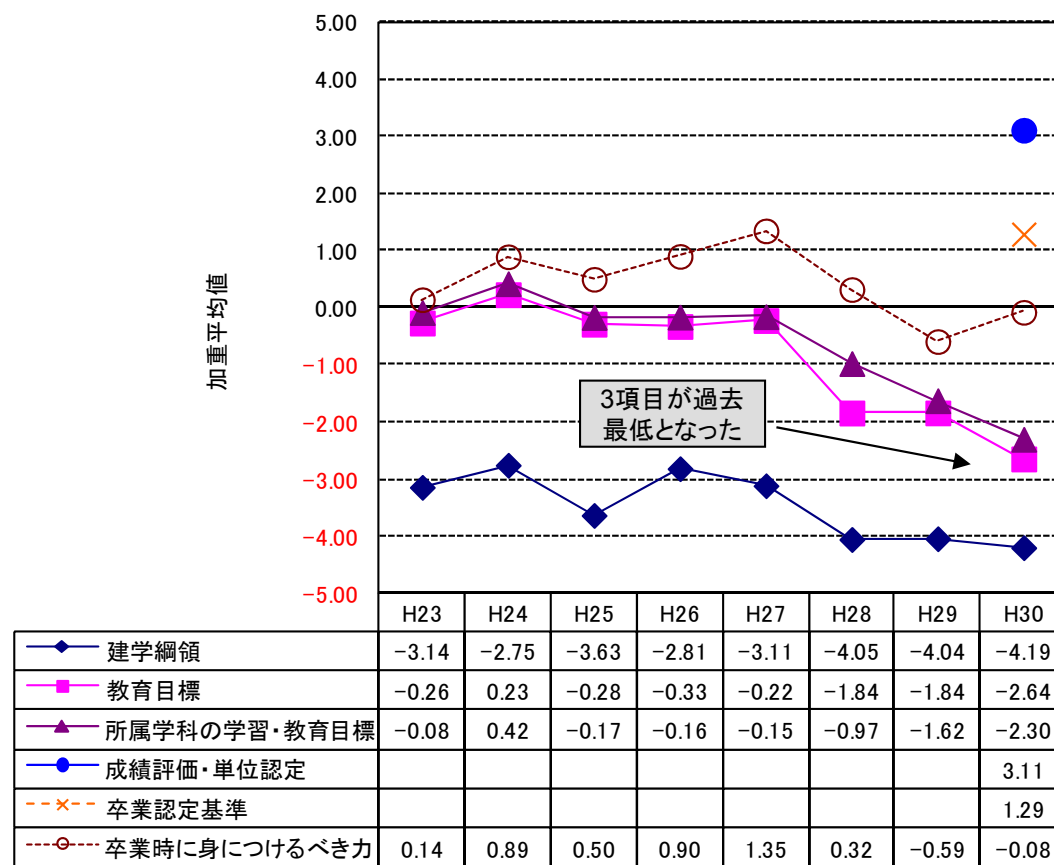
■ICTの目的・目標に対する意識

- まず、「建学綱領」に関しては「よく知っている」が4.6%、「ある程度知っている」が21.7%であり、合わせると26.3%が知っているという回答であった。そして、「教育目標」では36.9%、「所属学科の学習・教育目標」では39.0%、「成績評価・単位認定」では74.0%、「卒業認定基準」では61.0%、「卒業時に身につけるべき力」は52.6%が知っているという回答であった。
- 年度別の比較を見ると、「卒業時に身につけるべき力」の認知度は前回より高くなっていたが、「建学綱領」「教育目標」「所属学科の学習・教育目標」はすべて前回は下回って過去最低となっていた。そして、「成績評価・単位認定」と「卒業認定基準」は今回から加えた項目となる。

■ICTの目的・目標に対する意識(在学生のみ)



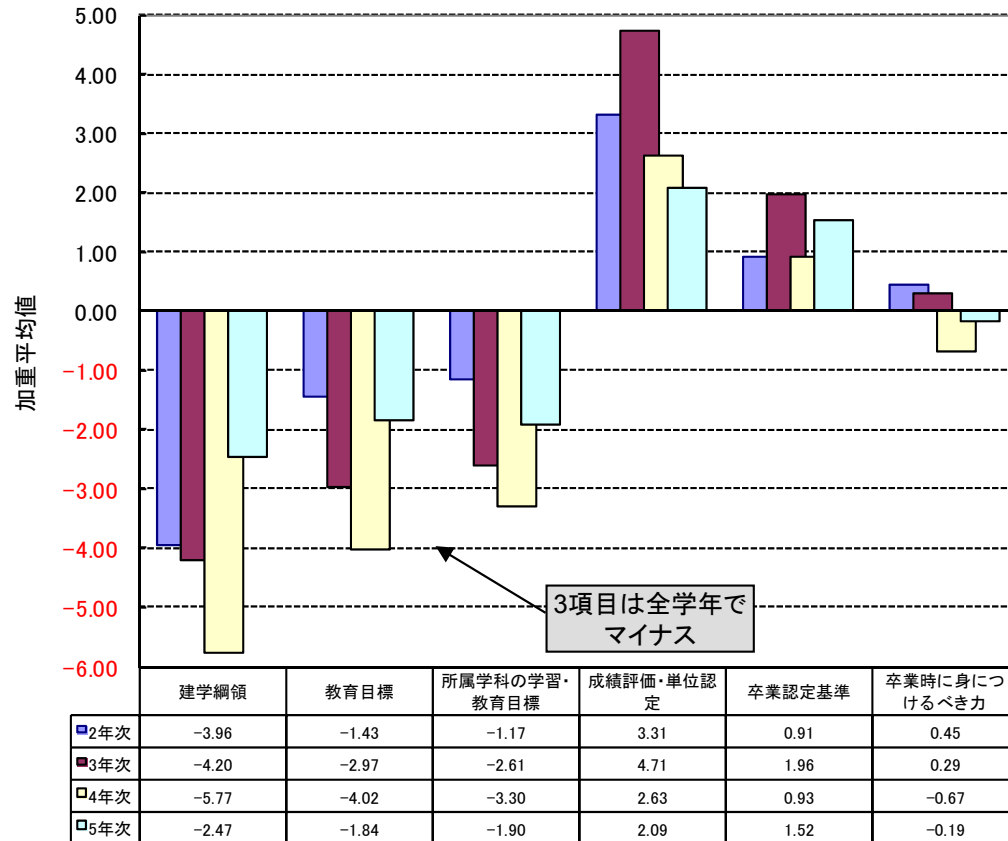
■ICTの目的・目標に対する意識 年度別比較



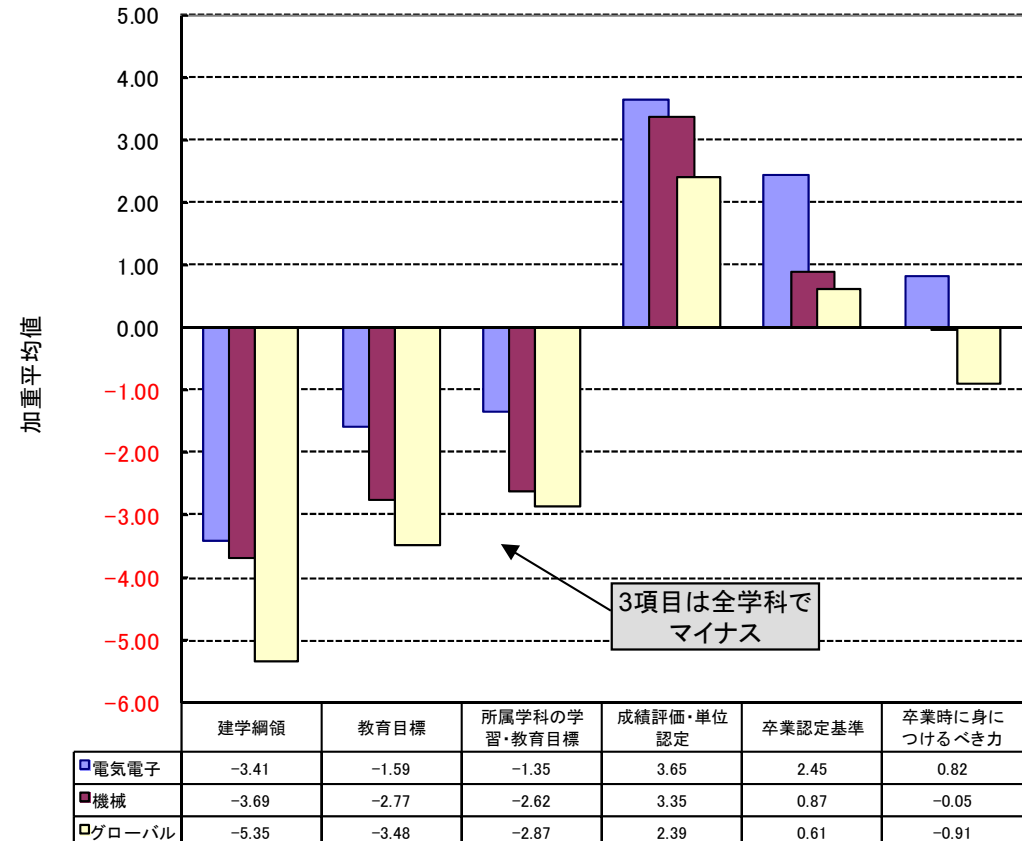
ICTの目的・目標に対する意識の学年別比較、学科別比較

- 学年別に比較すると、特定の学年が全体的に高かったり、低かったりという特徴は見られなかったが、「4年次」が低い項目が多く見られた。
- 「建学綱領」「教育目標」「所属学科の学習・教育目標」の3項目はすべての学年でマイナススコアとなっており、特に「4年次」が低めであった。そして、「卒業時に身につけるべき力」は、卒業が近い「4年次」と「5年次」がマイナスとなっている点が気になった。
- 一方、「成績評価・単位認定」は全学年がプラスで、興味を持っていることが確認でき、特に「3年次」の高さが目立っていた。
- 学科別の比較でも「建学綱領」「教育目標」「所属学科の学習・教育目標」の3項目はすべての学科でマイナススコアとなっていた。そして、この3項目も含めてすべての項目で「グローバル」が最も低かった。
- 一方、「電気電子」はすべての項目で最も高くなっており、特に「卒業認定基準」「卒業時に身につけるべき力」の高さが目立っており、卒業のことに興味を持っている様子が見えた。

ICTの目的・目標に対する意識 学年別比較



ICTの目的・目標に対する意識 学科別比較

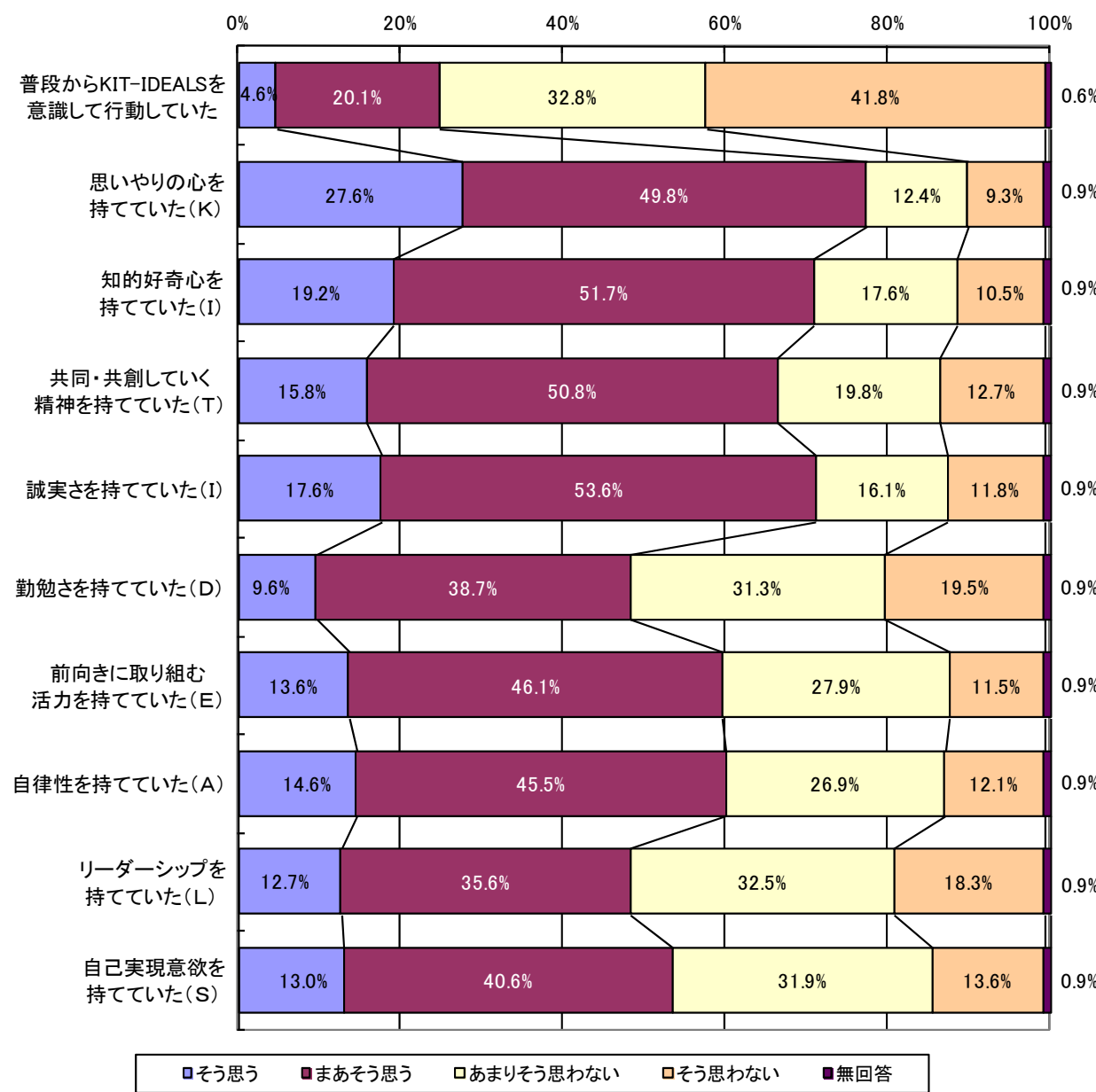


KIT-IDEALSに関して

■KIT-IDEALSに関して

- 「普段からKIT-IDEALSを意識して行動していた」に関しては、「そう思う」が4.6%、「まあそう思う」が20.1%であり、合わせると24.7%が肯定的な回答となっていた。
- KIT-IDEALSの項目で肯定的な意見が最も多かったのは「思いやりの心を持っていた(K)」の77.4%であり、次いで、「誠実さを持っていた(I)」が71.2%、「知的好奇心を持っていた(I)」が70.9%、「共同・共創していく精神を持っていた(T)」が66.6%で続いていた。
- 一方、肯定的な意見が最も少なかったのは、「勤勉さを持っていた(D)」と「リーダーシップを持っていた(L)」の48.3%であり、この2項目では肯定的な意見が5割に満たなかった。

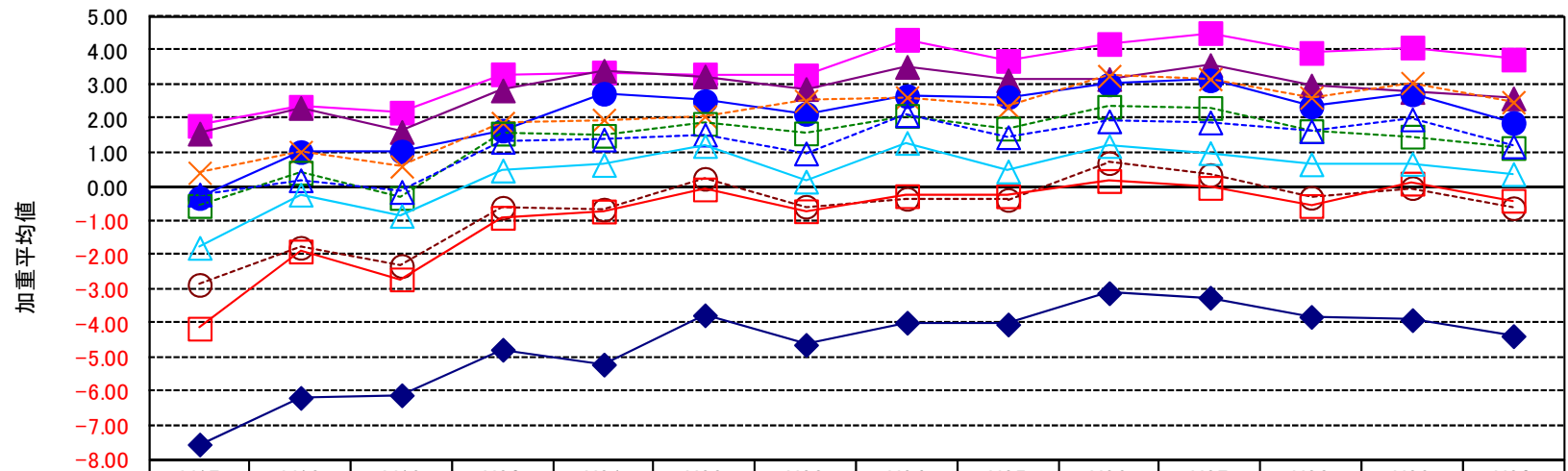
■KIT-IDEALSに関して(在学生のみ)



■ KIT-IDEALSの年度別比較

- 「KIT-IDEALS」の年度別比較を見ると、すべての項目が前回より低下していたが、低下の幅はわずかであり、ほぼ横這いという傾向であった。
- 最も低下が大きかったのは「共同・共創していく精神を持っていた(T)」であり、次いで「自律性を持っていた(A)」、「勤勉さを持っていた(D)」が続いていた。

■ KIT-IDEALS評価 年度別比較

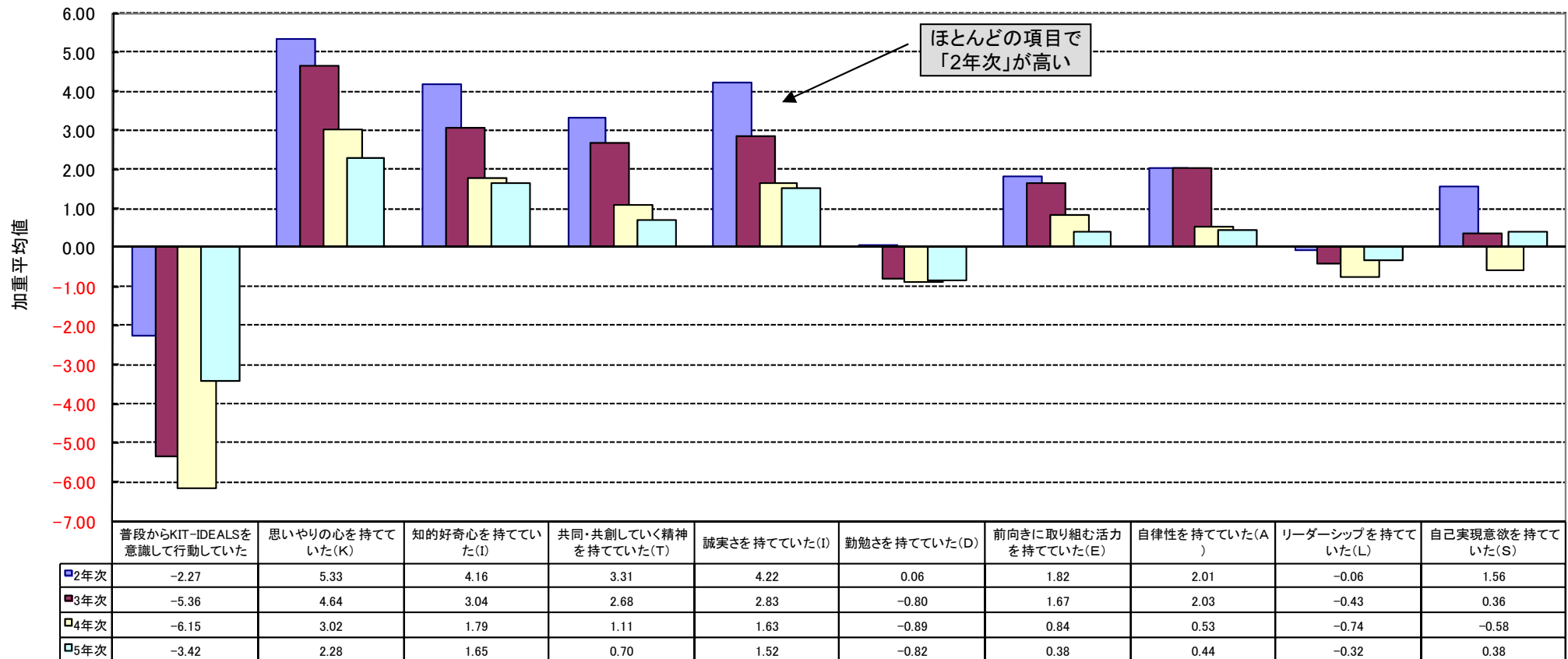


	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
◆ 普通からKIT-IDEALSを意識して行動していた	-7.56	-6.19	-6.11	-4.78	-5.21	-3.77	-4.63	-3.98	-4.04	-3.12	-3.25	-3.81	-3.91	-4.38
■ 思いやりの心を持っていた(K)	1.79	2.35	2.18	3.30	3.35	3.30	3.27	4.31	3.69	4.19	4.51	3.93	4.09	3.73
▲ 知的的好奇心を持っていた(I)	1.56	2.31	1.61	2.83	3.40	3.24	2.87	3.52	3.12	3.16	3.57	2.97	2.78	2.59
● 共同・共創していく精神を持っていた(T)	-0.33	1.02	1.04	1.65	2.73	2.52	2.14	2.66	2.63	3.00	3.13	2.35	2.71	1.88
○× 誠実さを持っていた(I)	0.41	1.02	0.60	1.87	1.97	2.07	2.52	2.63	2.34	3.25	3.16	2.62	3.05	2.48
○ 勤勉さを持っていた(D)	-2.88	-1.79	-2.32	-0.61	-0.67	0.24	-0.58	-0.35	-0.38	0.70	0.35	-0.32	-0.04	-0.63
□ 前向きに取り組む活力を持っていた(E)	-0.56	0.42	-0.32	1.56	1.50	1.85	1.57	2.08	1.71	2.35	2.31	1.63	1.47	1.14
△ 自律性を持っていた(A)	-0.23	0.19	-0.15	1.32	1.39	1.53	0.98	2.10	1.46	1.92	1.89	1.63	1.98	1.19
□ リーダーシップを持っていた(L)	-4.16	-1.89	-2.71	-0.91	-0.72	-0.08	-0.71	-0.27	-0.28	0.17	-0.03	-0.56	0.10	-0.41
△ 自己実現意欲を持っていた(S)	-1.79	-0.23	-0.85	0.48	0.64	1.20	0.15	1.29	0.45	1.20	0.99	0.66	0.68	0.38

■ KIT-IDEALSの学年別比較

- まず、「普段からKIT-IDEALSを意識して行動していた」に関しては、すべての学年でマイナススコアとなっており、特に「4年次」と「3年次」の低さが目立っていた。
- 「KIT-IDEALS」の項目ではほとんどの項目で「2年次」が最も高く、特に「知的的好奇心を持っていた(I)」「誠実さを持っていた(I)」「自己実現意欲を持っていた(S)」の高さが目立っていた。
- 「2年次」に次いで、学年が上がるほどスコアが低下する項目が多く見られ、例外であったのは「勤勉さを持っていた(D)」「リーダーシップを持っていた(L)」「自己実現意欲を持っていた(S)」の3項目であり、いずれも「4年次」が最も低かった。

■ KIT-IDEALSの意識 学年別比較



■ KIT-IDEALSの学科別比較

- 「普段からKIT-IDEALSを意識して行動していた」は3学科共にマイナスとなっており、「グローバル」が最も低かった。
- 「KIT-IDEALS」の項目に関しては学科間の差が小さく、特定の学科が高かったり、低かったりという特徴は見られなかった。
- 「電気電子」は「知的好奇心を持っていた(I)」がわずかな差ではあるが最も高かった。一方、最も低いものは多く見られ、「勤勉さを持っていた(D)」「前向きに取り組む活力を持っていた(E)」「自己実現意欲を持っていた(S)」などの低さが目立っていた。
- 「機械」は特に目立って高いものはなかったが、「共同・共創していく精神を持っていた(T)」「勤勉さを持っていた(D)」などが高めであり、「知的好奇心を持っていた(I)」「誠実さを持っていた(I)」などが低かった。
- 「グローバル」も目立って高いものは見られなかったが、「誠実さを持っていた(I)」「前向きに取り組む活力を持っていた(E)」などが高めで、最も低かったのは「共同・共創していく精神を持っていた(T)」だけであった。

■ KIT-IDEALSの意識 学科別比較

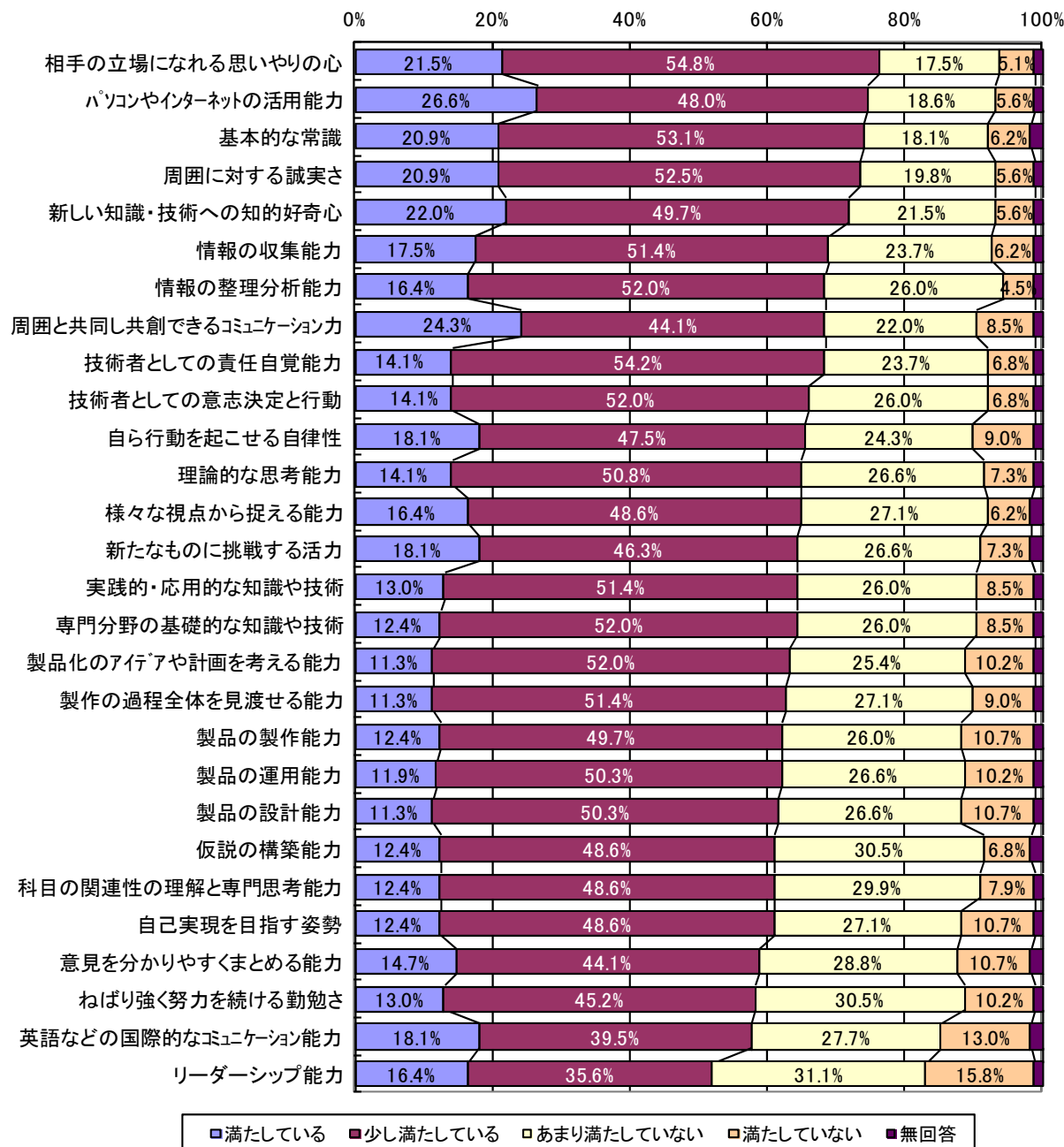


学生の能力に関して

■自分自身の能力の評価

- 「学生が考える現段階の自分自身の能力」は「4年次」と「5年次」に聞いた質問であり、グラフは肯定的な意見の合計で並べている。
- 肯定的な意見が最も多かったのは「相手の立場になれる思いやりの心」であり、肯定的な意見は76.3%であった。次いで、「パソコンやインターネットの活用能力」が74.6%、「基本的な常識」が74.0%、「周囲に対する誠実さ」が73.4%、「新しい知識・技術への知的好奇心」が71.7%で続いていた。
- 一方、肯定的な意見が最も少なかったのは「リーダーシップ能力」の52.0%であり、「英語などの国際的なコミュニケーション能力」が57.6%、「ねばり強く努力を続ける勤勉さ」が58.2%となっていた。
- 今回、新たに追加した「科目の関連性の理解と専門思考能力」では、肯定的な意見が61.0%であった。

■学生が考える現段階の自分自身の能力(4年次、5年次のみ)

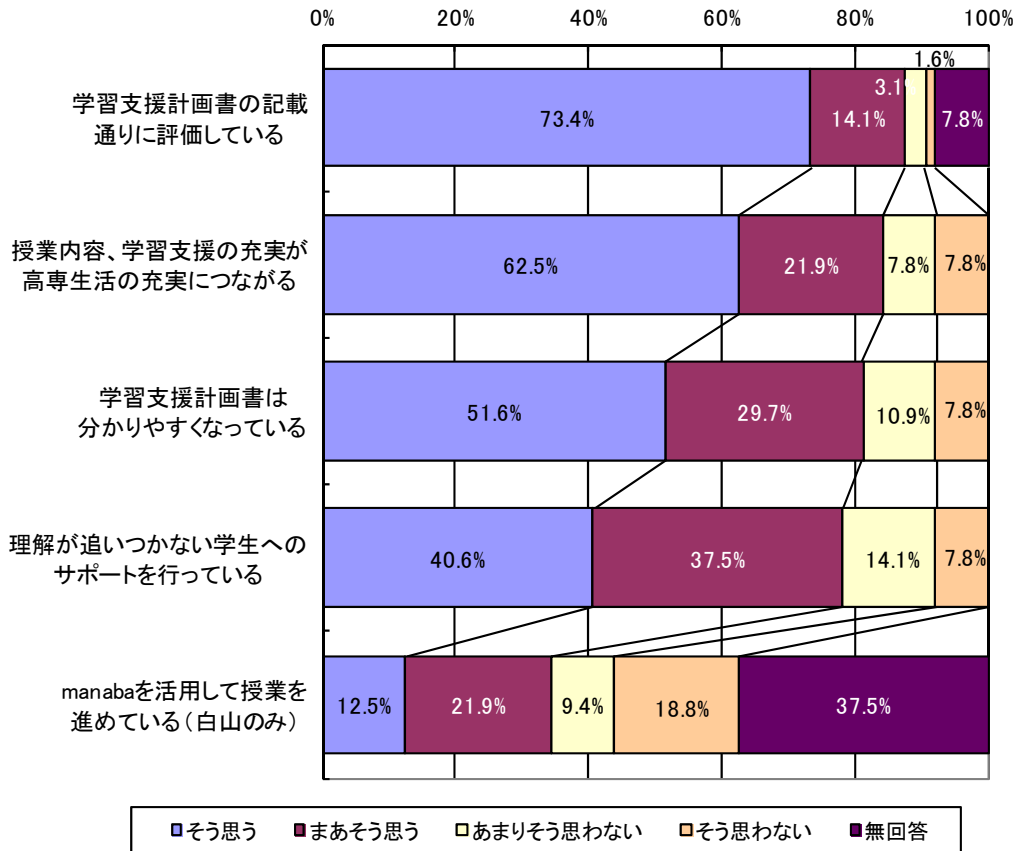


国際高専の授業と教員業務に関して

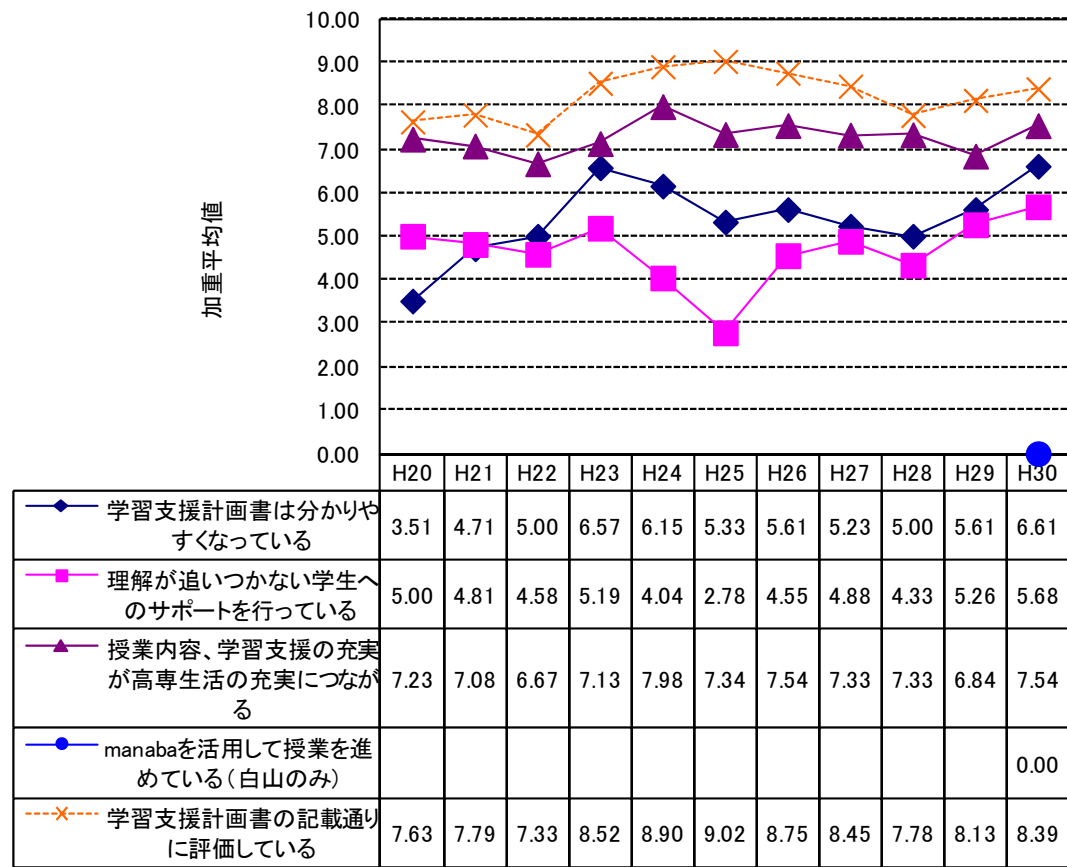
■教員の「授業および学習支援」の自己評価

- 教員の「授業および学習支援」は自己評価を聞く質問になっているが、肯定的な意見が最も多かったのは「学習支援計画書に記載している項目通りに学生を評価している」の87.5%で、特にこの項目は「そう思う」という回答が73.4%と多かった。次いで、「授業内容、学習支援の充実が高専生活の充実につながる」が84.4%、「学習支援計画書は分かりやすくなっている」が81.3%であった。
- 一方、肯定的な意見が最も少なかったのは「manabaを活用して授業を進めている」の34.4%であったが、これは白山の教員にのみ聞いている質問であり、「無回答」が37.5%を占めていた。
- 年度別の比較を見ると、すべての項目で前年を上回っていた。そして、「学習支援計画書は分かりやすくなっている」と「理解が追いつかない学生へのサポートを行っている」は過去最高の自己評価となっていた。

■教員の「授業および学習支援」の自己評価



■教員の「授業および学習支援」の自己評価 年度別比較

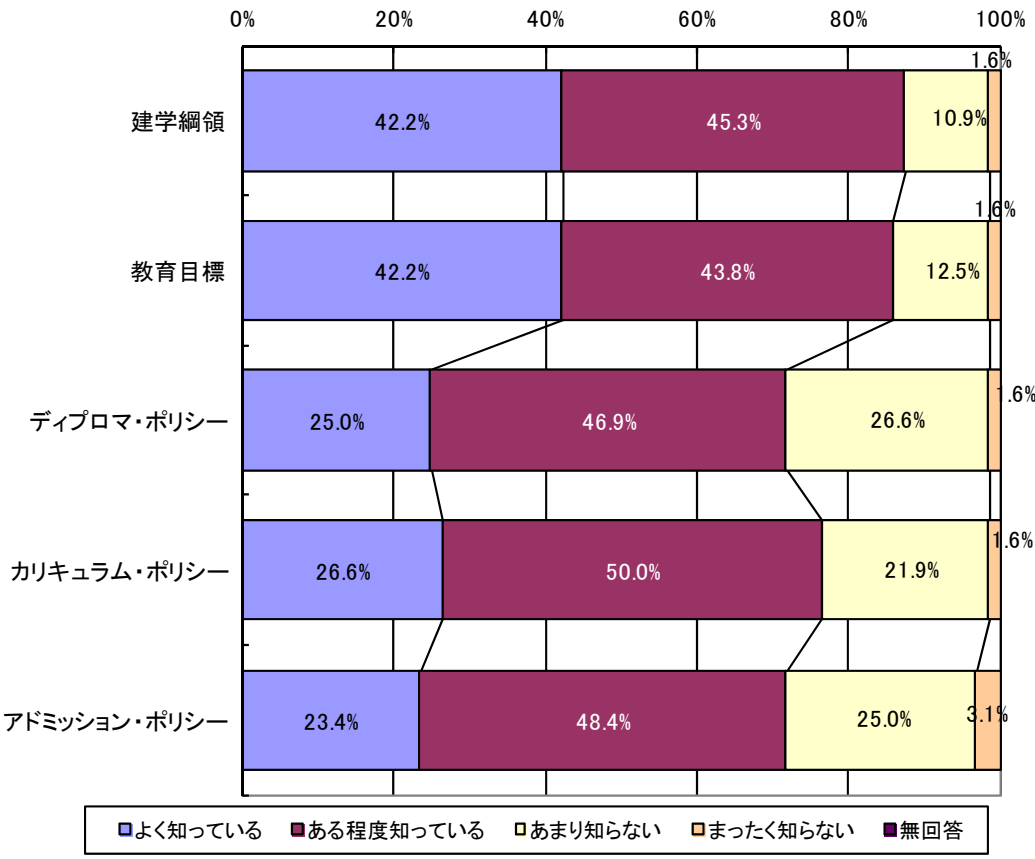


教職員の意識に関して

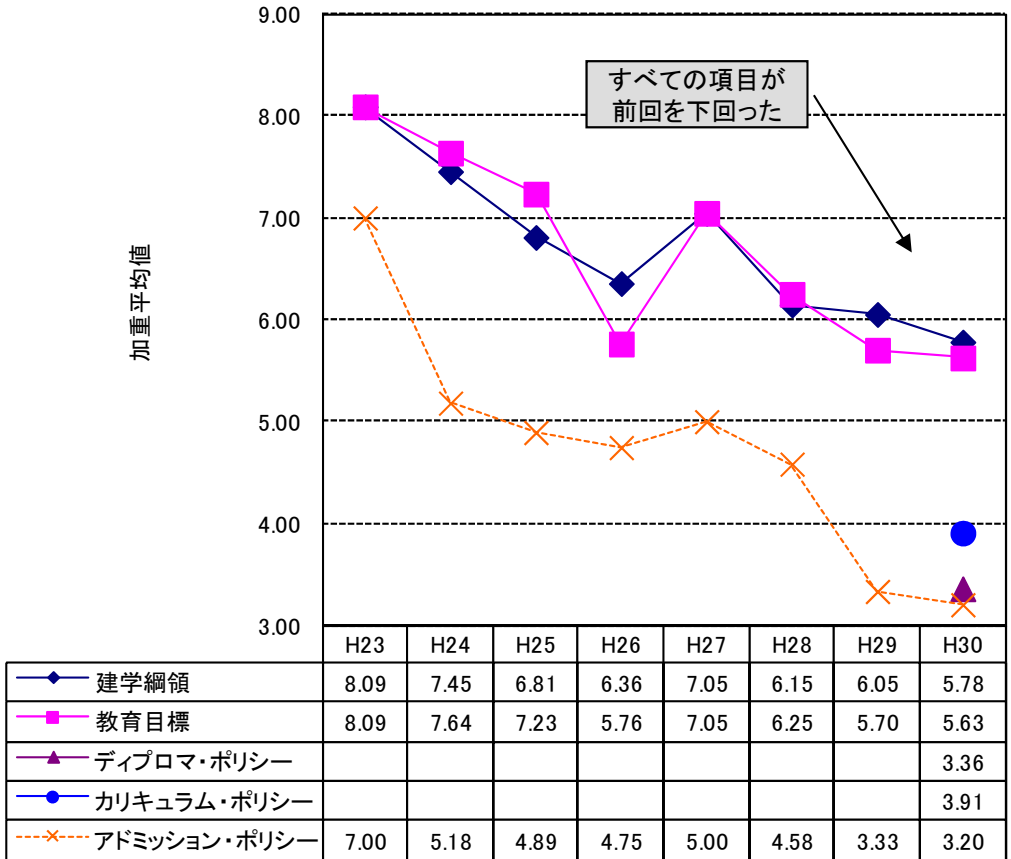
■教職員の「建学綱領」「教育目標」などに関する意識

- 教職員の「建学綱領」の認知度は87.5%で、「教育目標」が86.0%、「ディプロマ・ポリシー」が71.9%、「カリキュラム・ポリシー」が76.6%、「アドミッション・ポリシー」が71.8%であり、いずれも7割以上の認知度であった。
- 年度別比較では、いくつかの例外はあるもののH23から右肩下がりの状況が続いており、継続的に聞いている3指標は共に前回を下回っていた。

■「建学綱領」「教育目標」などに関する意識(教職員)



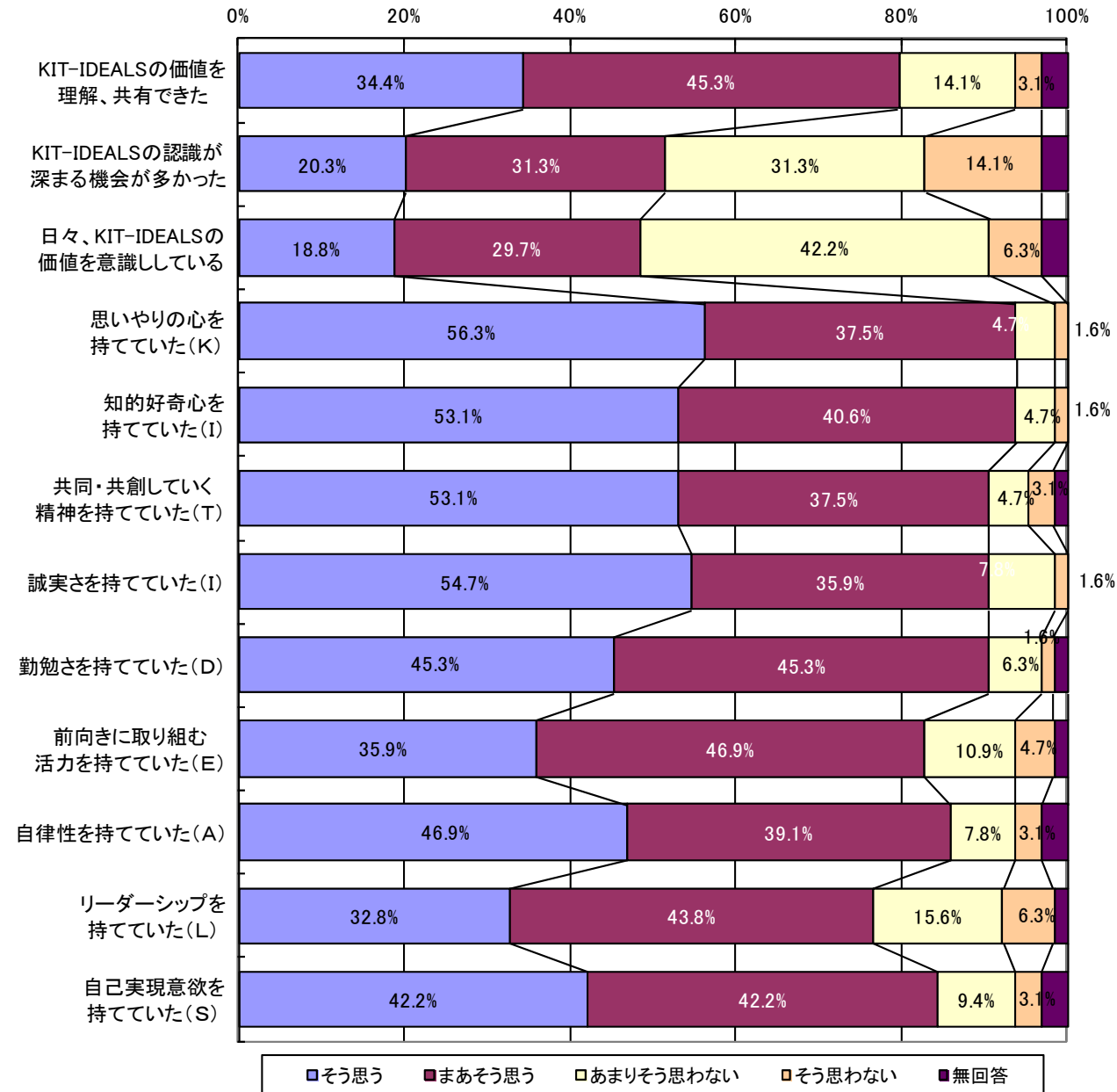
■「建学綱領」「教育目標」などに関する意識 年度別比較



■教職員のKIT-IDEALSに関する意識

- 教職員の意識として、「KIT-IDEALSの価値を理解、共有できた」では、肯定的な意見が79.7%と非常に高かった。一方、「KIT-IDEALSの認識が深まる機会が多かった」では51.6%、「日々、KIT-IDEALSの価値を意識している」では48.5%となっており、肯定的な意見は約半数にとどまっていた。
- 「KIT-IDEALS」の項目では、「思いやりの心を持っていた(K)」が93.8%、「知的な好奇心を持っていた(I)」が93.7%であり、ほぼ同じとなっていた。次いで、「共同・共創していく精神を持っていた(T)」「誠実さを持っていた(I)」「勤勉さを持っていた(D)」が90.6%で並んでいた。
- 一方、肯定的な意見が最も少なかったのは「リーダーシップを持っていた(L)」の76.6%であった。

■KIT-IDEALSに関して(教職員)



全体の課題のまとめ

<学生の満足度や目的・目標意識に関して>

- ◆「1年次」が別集計となった影響も考えられるが、「満足度」はH20以降で最低、「目的・目標意識」は過去最低となった。
- ◆国際高専に満足している学生は全体の半数であった。
- ◆ここ数年は満足度の変化が少ない学生群が多かったが、在生学生を中心として、学年が上がるにつれて満足度が大きく低下する傾向が見られるようになってきており、学生の意識の変化が見られる。

「3年次」「4年次」で満足度の低下が止まらない学生群が出てきた。

「部活動」は「1年次」が別集計となった影響も大きいのか？

「授業」関連の指標は過去最低となるものが多かった。

<授業・学習サポートに関して>

- ◆「授業」の満足度は全体的に低下している。そして、国際高専の特徴的である「モノづくり」「英語」「国際性」のほとんどの指標が過去最低の評価となっていた。
- ◆「教員の学習相談」「教員とのコミュニケーション」には7~8割が満足しているものの、いずれも過去最低の満足度となっていた。

就職・進学は学科による差も大きい

<その他の環境に関して>

- ◆就職・進学に関して「決定した内容」の満足度は高いものの、決定するまでの支援策に対する不満はいくつか見られた。
- ◆学生、教職員ともに「パソコン、ネット活用能力」がICT卒業生の強みであると考えていた。
- ◆学生は自分の成績評価や単位認定などを強く意識していることから、この点に配慮し、不公平感や不透明感を感じさせない評価や認定をしていくことが、非常に重要なポイントと言える。

「1年次別集計」の影響はあるが、「満足度」の低さと連動して、多くの指標が過去最低となった点はしっかり受け止める必要がある。

「授業」「教員とのコミュニケーション」「学生サポート」など、改善点は多い。また、学生が減少する中での「部活動」のあり方など、考えておくべき事柄も多い。

継続的に職場環境の改善を進め、教員の満足度を上げていくことが重要だと言える。

<学校での過ごし方に関して>

- ◆「情報伝達」の評価は低いままであり、「資格サポート」「課外活動・部活動の環境」など、高専の各種機能の評価が過去最低となっていた。
- ◆部活動参加者は前回より20.5ポイントも減少していた。今後の「部活動」のあり方を考えておくことも重要だと言える。
- ◆「スマホの使い方」に関しては学生と教職員の見方との間に大きな差があり、今後、しっかりとしたルール作りと、その徹底が求められるものと思われる。

<教職員の意見に関して>

- ◆教員の半数がICTに不満を持っていた。ただし、満足度は前回は上回っており、「業務のやりがい」「業務内容の満足度」も高くなっていた。
- ◆時間不足を感じている教員は多いもののやや改善が見られ、職場環境の改善も進んでいるようであった。
- ◆今後も職場環境の改善を進め、教員の満足度を上げていくことも、重要なポイントであると言える。

平成30年度

I C T 総合アンケート調査結果[報告書]

- 発行日 令和元年5月31日
 - 発行者 国際高等専門学校
 - 調査票設計・分析 有限会社 アイ・ポイント
 - 編集 金沢工業大学企画部CS室
-

無断複製厳禁